

はじめに

開館初年度である平成17年度は開館にともなう諸行事と各方面への対応など、日々が慌しく過ぎていきました。その一方では、博物館で本来行うべき諸活動が幾分、滞ってしまったという反省点も残しました。

そうした状況を踏まえ開館1周年目となる平成18年度は、ささやかながらも県立博物館の諸事業・活動において着実な第一歩が踏み出された一年間とまとめられるでしょう。

一例を挙げれば、調査・研究活動においては、館員による活動結果を発表する『山梨県立博物館研究紀要』第1集、また共同調査・研究「楯無鎧の謎を探る」の成果をまとめた『小椋韋威鎧 兜・大袖付 復元調査報告書 楯無鎧の謎を探る』がそれぞれ刊行されました。

特に当館で実施した調査の結果、善光寺（甲府市）所蔵の阿弥陀如来及両脇侍像（重要文化財）のうち、観音菩薩、勢至菩薩の両脇侍像の胎内に12世紀後半の和鏡が納入されていたことが解明されたのは、大きな意味を有します。様々な分野の人・モノ・情報が集まるというまさに博物館ならではの成果だからです。「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」という当館の使命実現に向けて、今後ともたゆまない努力が必要です。

展示活動においては、「開館記念特別展 よみがえる武田信玄の世界」展、「開館一周年記念特別展 祈りのかたち 甲斐の信仰」展をはじめ、様々な分野の企画展を相次いで開催し、県内外の多くの皆様から好評を博しました。

平成18年10月15日には、開館1年という県立博物館の誕生日を記念して「通信簿ツアー」という当館独自の博物館評価を実施しました。これは県民参画型の新しい評価方法として、マスコミはもとより全国の博物館関係者から大きな注目を集めました。

『平成18年度山梨県立博物館年報』は以上のような平成18年度における県立博物館の諸事業・活動の総体が記録されています。毎年、活動全体の自己点検を実施し、公開することで、より良い博物館運営につなげていく所存です。今後とも県立博物館に対する皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

山梨県立博物館

館長 平川 南

目次

はじめに

第 編 山梨県立博物館の目指すところ

第 1 章 県立博物館の評価制度	1
(1) みんなでつくる博物館協議会の検討状況	1
(2) 県立博物館の使命	1
(3) 県立博物館の評価制度案	2
第 2 章 通信簿ツアーの実施	5
(1) 通信簿ツアーの内容	5
(2) 通信簿ツアーの結果	9
第 編 事業・諸活動	
第 1 章 運営・ミュージアムサービス	12
(1) 運営・ミュージアムサービスの方針	12
(2) 平成18年度利用者状況一覧	12
第 2 章 調査・研究	16
(1) 総合調査・研究「富士山と人々の歴史」	16
(2) 共同調査・研究	16
(3) 個別調査・研究	19
(4) 調査・研究成果の公表	20
第 3 章 資料の収集・保管・活用	22
(1) 資料収集の方針	22
(2) 資料の収集	22
(3) 資料の整理・目録(データ)化	23
(4) 資料の修復・管理	24
(5) 資料の活用	26
第 4 章 展示	27
(1) 常設展示	27
(2) 企画展・シンボル展	32
(3) 刊行物	44

第 5 章 企画交流事業	45
(1) 生涯学習サービス事業	45
(2) 博学連携事業	46
(3) ハブ博物館ネットワーク事業	49
(4) 広報	49
第 6 章 施設の整備・管理	50
(1) 安全快適な施設づくり	50
(2) 施設開放	50
第 7 章 情報の発信と公開	51
(1) 資料閲覧室の利用状況	51
(2) 博物館総合情報システム	52
(3) 博物館ホームページ	53
第 8 章 県民参画	54
(1) NPOとの連携	54
(2) 博物館協力会(ボランティア)との連携	55
第 9 章 組織・人員	56
(1) 職員の資質向上	56
(2) 第三者委員会	56
第10章 外部支援	58

第 編 各種資料

1 組織・職員等名簿	59
2 平成18年度改正分の関連法規	60
3 平成18年度予算額	62
4 年間日誌	62

凡例

- ・各事業の経緯・方針・関連法規等については平成17年度年報を参照。
- ・各種委員等の名簿における勤務先・役職等については、全て平成18年度におけるものである。
- ・断りなき限り、各種名簿の順序は順不同である。
- ・敬称は略している。
- ・「県立博物館」と表記されているものは、全て当山梨県立博物館館のことを指す。

第 編 山梨県立博物館の目指すところ

第 1 章 県立博物館の評価制度

(1) みんなでつくる博物館協議会の検討状況

県立博物館の評価制度については、平成17年度に引き続き、みんなでつくる博物館協議会（以下「みんなつく」）において検討を行ってきた。評価制度の具体像を組み立てるにあたっては、詳細かつ多岐にわたる議論が必要であることから、昨年度に引き続き、評価小委員会を設け、専門的に討議を重ねた。

みんなでつくる博物館協議会委員名簿

氏 名	勤務先・役職等	評価小委員会委員
数 野 妙 子	甲府市立伊勢小学校教諭	
竹 川 和 彦	山梨連合教育会会長	
栗 田 真 司	山梨大学教育人間科学部助教授	
小 澤 龍 一	前(助)やまなし文化学習協会生涯学習推進センター所長	
北 村 誠	山梨県文化協会連合会会長	
齋 藤 康 彦	山梨郷土研究会理事	
谷 口 一 夫	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館館長	
新 海 一 男	山梨県中小企業団体中央会常務理事	
牛 澤 正 博	山梨県農業協同組合中央会専務理事	
八 田 知 子	石和温泉観光協会副理事	
中 村 徳 行	富士五湖観光連盟副会長	
古 屋 栄 和	社会福祉法人山梨県社会福祉協議会会長	
山 本 育 夫	特定非営利活動法人つなぐ理事長	
古 屋 弘 和	長期計画審議会	
柴 田 彩 子	長期計画審議会	

みんなでつくる博物館協議会会議一覧

開催日時	名 称	開催場所
平成18年 6月22日(水)	平成18年度 第1回みんなでつくる博物館協議会評価小委員会	県立博物館
8月30日(水)	平成18年度 第2回みんなでつくる博物館協議会評価小委員会	県立博物館
11月 8日(水)	平成18年度 第1回みんなでつくる博物館協議会全体会	県立博物館
平成19年 3月23日(金)	平成18年度 第2回みんなでつくる博物館協議会全体会	県立博物館

(2) 県立博物館の使命

平成17年度の「みんなつく」では、県立博物館の目指すべきところとして「県立博物館の使命(案)」を次のとおり提起し、平成18年度はその使命実現に向けての具体的な評価方法について検討することで意見はまとまった。

県立博物館の使命(案)

使命1

山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指します。

山梨県の歴史の特色は豊かで多様な自然に育まれた人々の個性あふれる暮らしの歴史である、とまとめられます。だからこそ「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」は、現在よりもより未来へ開く扉の鍵を探ることにつながるのです。

山梨県立博物館ではその一例として、本県の特色ある生業や富士山への向き合い方、武田氏の動向等々について総合的に資料の収集・調査・研究を行います。そして、その最新の成果を「山梨県の精神の拠り所」として絶えず利用者の皆様に問いかけ、共に考え続けます。

使命2

山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。

山梨県は、周囲の高い山々によって閉じられた地域という印象を持たれています。ですが、四方を高い山々に囲まれた地域だからこそ、山梨の先人達は昔から活発な「交流」を求めてきました。

こうした歴史にふさわしく、山梨県立博物館では、県内各地の様々な文化施設・史跡・自然はもとより、県内外の多くの皆様と活発に交流を行います。「交流」のセンターとして、当館を起点に県内各地へと多くの人々の誘導を図り、本県の活性化に絶えず努めます。

(3) 県立博物館の評価制度案

平成18年度「みんつく」での議論の結果、県立博物館評価制度の具体像案として次のとおりまとめられた。なお、評価制度の細部については、平成19年度の検討に委ねられたため、一部の変更はあり得るものである。

県立博物館の評価制度の基本方針

県立博物館の使命を実現させるためには、評価制度の基本方針として次の3点を満たすものとする。

- ・ 県立博物館の活動総体を県内外に周知し、館の運営をより良い方向へと推し進めるための評価であることを第一の目標とする。
- ・ 評価にあたっては県民参画型の方法を導入し、また、外部有識者など第三者を交えた客観性を保った評価方法とする。
- ・ 館の運営の実情に合わせ、柔軟に変化・対応させていくといういわば「成長する評価」とする。

評価方法

評価方法の具体像については、A「数値評価」、B「自己診断」、C「通信簿ツアー」という複数の評価方法を導入し、それぞれの方法の長所と短所を補いあうものとする。開館5周年度（平成22年度）までの運営実績に基づき、平成23年度にA～Cそれぞれの観点を踏まえて総合評価を実施する。

・ A「数値評価」...

県立博物館の事業について、その実績を数値化し得る評価項目については数値目標をたて、その達成を目指す。年度ごとにその成果を年報に記載し、公開する。なお、具体的な目標値の設定にあたっては、年間における県立博物館の運営実績を把握することが必要である。そのため、運営実績の結果が判明する平成19年度に目標値の設定にかかる検討を持ち越すこととした。

・ B「自己診断」...

県立博物館の事業について、数値化し得ない評価項目については、年度ごとにその成果を年報に記載し、公開する。

・ C「通信簿ツアー」...

利用者が主体的に評価項目作成、評価の実施、評価に基づく改善まで取り組むという方法。毎年、評価項目の設定を利用者と共に検討し、その都度、内容を更新する。詳細は第 編第2章 5頁参照。

A～Cそれぞれの評価方法に対応する評価項目については「評価項目」(3・4頁)を参照

・ 総合評価...

開館5周年目における上記A～C各年度の成果を集約し、山梨県立博物館運営委員会（以下「運営委員会」第 編第9章 56頁参照）において運営全体における達成点と課題点についてとりまとめたものを総合評価報告書とし公開するものとする。

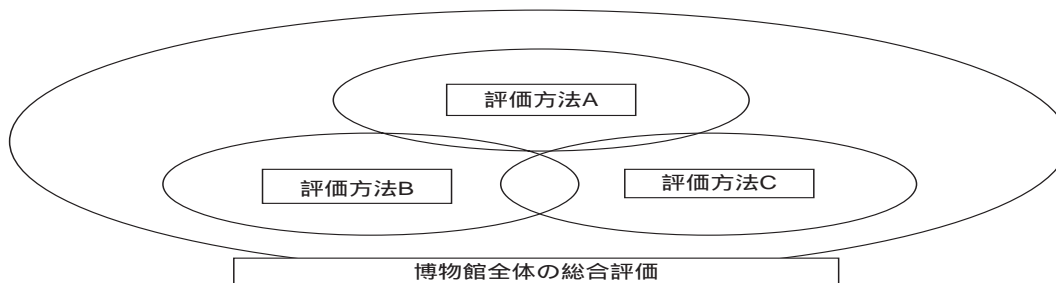
総合評価を運営委員会が実施するのは次の理由による。第一に、運営委員会の構成員は第三者の外部有識者から構成され、客観的に県立博物館を評価し得る立場にあること。第二に、運営委員会構成員には県民の代表たる「みんつく」の委員長、また、学術的立場から資料情報関係について審議する県立博物館資料・情報委員会委員長（第 編第3章 22頁参照）が加わっている。県民の立場から、また、学術的立場から県立博物館の運営について総合的に評価を行い得る立場にあるということからである。

また、総合評価の対象として開館5周年度に設定したのは次の理由による。第一に、県立博物館の主要活動分野である調査・研究の進展と、その成果が展示として実現されるには一定程度の時間を必要と

すること。第二に、全国の博物館の実績からしても、開館当初は開館ラッシュによって利用者数が異常値を示し、館運営の実情を把握するには利用者数が落ち着くおよそ開館5周年段階におけるものが適当と判断されたことからである。

評価の体系図

評価方法	評価主体	評価対象	目標到達度を測る基準	評価の客観性	改善の方向
A 数値評価	博物館	数値化可能な項目	目標数値に対する実際の達成度	数値そのものが客観的指標	目標数値
B 自己診断		数値化になじまない項目	目標達成に向けて何をを行ったか一覧化	博物館による自己点検。運営委員会からの意見がある場合にはそれを記載	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施
C 通信簿ツアー	利用者		利用者から見た評価点と改善点の一覧化	利用者の立場からの客観評価	利用者自身によって改善
博物館の総合評価	運営委員会	A～Cの結果に基づき、総合的に評価		県民の立場から、また学術的立場から運営委員会において客観的に評価	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施



評価項目によっては、目標達成のために、複数の評価方法によって検討した方がより効果的な項目もある。

評価項目

県立博物館の全ての事業活動は「県立博物館の使命」の実現に向けて実施される。それぞれの事業活動は使命の実現に向けて活動目標（目指すところ）が定められ、その達成度を測るために評価項目・評価方法が設定されている。それぞれの対応関係を示したものが次表である（4頁）。

表の縦軸方向は県立博物館が行う事業活動の一覧であり、(1)運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービス、(2)調査・研究、(3)資料の収集・保管・活用、(4)展示、(5)企画交流事業、(6)施設の整備・管理、(7)情報の発信と公開、(8)県民参画、(9)組織・人員、(10)外部支援という10の分野から成る（それぞれの事業活動間の関係については第 編第1章 12頁参照）。

表の横軸方向では、それぞれの事業活動ごとに上・下段、左・右列に分かれている。

上段は各事業における県立博物館の使命実現に向けての活動目標（目指すところ）、下段はその活動目標の達成度を図るための評価項目（指標）が設定されている。

左・右列はそれぞれ県立博物館の使命1と使命2に対応した活動目標と評価項目が設定されている。なお、左・右列にまたがる事業活動分野は使命1・2の双方に関わる活動目標・評価項目であることを示している（(1)運営(ミュージアムマネジメント)及びミュージアムサービス・(10)外部支援）。

以上の関係を総合的に捉えることで、「県立博物館の使命」達成度を測るものである。

活動目標における数値目標は空欄としている。この具体的数値は平成19年度において検討されるため、『平成19年度山梨県立博物館年報』に記載する予定である。

評価結果の公開

A～Cについての年度ごとの実績については県立博物館でとりまとめ、各年度の年報において記載する。総合評価については、数値評価の目標として設定した開館5周年年度（平成22年度）までの実績に基づき、平成23年度に運営委員会にて総合的に評価を行い、評価報告書としてとりまとめるものとする。

以上のとおり、事業活動全にわたって恒常的に自己点検を行い、外部からの評価を取り入れることで、県立博物館の活動総体をより良い方向へと推し進めていく。

第 編 山梨県立博物館の目指すところ

	使命1	使命2
博物館の活動分野	使命1に対応した活動目標 活動目標に対応した評価項目	使命2に対応した活動目標 活動目標に対応した評価項目

山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。
(1) 運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われ、思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館5周年目で 人の総利用者数を目指します。 山梨県立博物館とどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者とともに共通の理解を得られるように努めます。 博物館の使命がどの程度達成できたかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。 かいじあむ検定を実施し、県立博物館及び山梨県への興味・関心が深められるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 総利用者数（評価方法A） 館員及び利用者を対象として、博物館使命がどの程度認知されているかの調査（評価方法C） 利用者の視点に立った目標を設定しているか？（評価方法B） 目標の達成状況については、自己及び他者評価を行い、その結果を公開しているか？（評価方法B・C） かいじあむ検定参加者数（評価方法A）
(2) 調査・研究について	<ul style="list-style-type: none"> 学術機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続けます。その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究の積極的実施にも努めます。 博物館職員及び共同研究者が行った調査・研究項目について一覧表化がなされているか？（方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。 研究紀要や調査報告書類の作成・発行を行っているか？（評価方法B） 館主催諸講座の開催数（評価方法A） 館職員の館外担当講座（出前授業も含む）（評価方法A）
(3) 資料の収集・保存・活用について	<ul style="list-style-type: none"> 資料保存機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」を明らかにする上で必要な資料の収集・保存・活用に努めます。 資料の収集点数（評価方法A） 年間の展示資料点数（どれだけ展示替えを行っているのか？）（評価方法A） 個々の資料について適切に資料保存・修復措置を行っているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 収集及び保管・調査資料の利用体制の充実化をはかります。これら資料の目録化（データベース化）を進め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能となるように努めます。 全収集点数の内、目録化（データベース化）がなされた資料点数の割合（評価方法A） 資料の総利用件数（一次資料やマイクロフィルムなど二次資料も含んだ閲覧件数、館外資料貸出件数など）（評価方法A）
(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> 展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」像を積極的に多くの人々に向けて発信し続けます。具体的目標としては、開館5周年目で 人の利用者数を目指します。 常設展示の利用者数（評価方法A） 常設展示の印象に関するアンケート調査（評価方法CまたはB） 企画展利用者数（評価方法A） 企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調査（評価方法CまたはB） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続けます。具体的には開館5周年目で 人の学校利用者数を目指します。 学校現場の観覧者数（評価方法A）
(5) 企画交流事業について	<ul style="list-style-type: none"> 県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。 年間における企画交流活動数及びその参加者数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。具体的には開館5周年目で 人の人々を県内各地に誘導することを目指します 博学連携に関わる取り組み（評価方法B） 各種連携事業の実施件数及び参加者数（評価方法A） 各種連携事業を実施するにあたりどのような工夫を行っているか？（例えば、ハブ博物館ネットワーク会議での議事結果など）（評価方法B） 地域インデックスの活用策を企画・実行したか？（評価方法B）
(6) 施設の整備・管理について	<ul style="list-style-type: none"> 山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。 地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） 緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） バリアフリー対策を行っているか？（評価方法B） 資料保存について措置を講じているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館5周年目で 人の利用者数を目指します。 利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A）
(7) 情報の発信と公開について	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶ」ことについて支援することに努め、レファランスをとおし5年間で7千人が知的好奇心を満足できるように努めます。 レファランス対応件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばHPをとおした場合は 万件のアクセス数を目指します。 どのような情報をどのような媒体で情報発信しているのか？一覧表化がなされているか？（評価方法B） HPアクセス数（評価方法A）
(8) 市民参画について	<ul style="list-style-type: none"> NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動の実施し、共同事業では開館5周年目で 人と交流できるように努めます。 NPOや協会の（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） 協会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） 協会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか？一覧表化がなされているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館5周年目で 人の利用者数を目指します。 利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC）
(9) 組織・人員について	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。 第三者機関（運営会議、みんつく、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援について	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めます。 館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B） 	

第2章 通信簿ツアーの実施

(1) 通信簿ツアーの内容

通信簿ツアー実施までの道のり

平成18年10月15日(日)に、県民参画事業わいわいミュージアム(第 編第8章 54頁参照)の一環として「通信簿ツアー」を実施した。これは利用者とともに県立博物館を評価する(県立博物館の「通信簿」を付ける)という利用者参加型の評価方法である。

具体的な内容は次のとおりである。まず、広報で「通信簿ツアー」参加希望者を募集する。その後、メーリングリストを立ち上げ、応募者同士で「通信簿」における県立博物館の評価項目についてメール上で意見交換会を実施し、その結果を「通信簿」としてとりまとめるというもの。

「通信簿」の概要は次のとおりである。

- ・評価項目数はおよそ100項目。詳細は次項「通信簿ツアー評価項目」参照。
- ・A6版。39頁
- ・回答方式は × や点数式ではなく、記述式。全てに回答する必要はなく、自由回答形式。

ツアー当日にこの「通信簿」を配布し、参加者は館内を巡りながら評価項目に沿って回答を記入するというイベントである。

結果としてツアー当日は80人の協力を得た。ツアー終了後に事務局で「通信簿」を回収し、集計を行った(9頁参照)。「通信簿」の回答はいずれも県立博物館に対する利用者の生の声である。それらを積極的に採り入れ、今後の館運営にあたって生かしていくというものである。



通信簿ツアー評価項目

A 到着するまで、道のりは順調だった?

- 1 交通の便は良かった? 最寄り駅はJR石和温泉駅なのだけど、まちがえた方はいない?
- 2 駅やバス停、近くのお店、ホテルや旅館などで、博物館のポスターや案内を見かけた? お店やホテルの人たち、タクシーの運転手さんは、博物館のことを知っていた? 紹介してくれた?
- 3 博物館まで迷わず来られた? 迷ったとしたら、どこで迷ったか教えて。車の方、案内標識や看板はわかりやすい? インターチェンジで迷わなかった?
- 4 駐車場は使いやすい?(入り口はわかりやすい? スペースは充分? 利用時間はどうか? 身障者用駐車場への配慮はある? 車に戻るとき、自分の駐車場所はわかりやすい?)
- 5 駐車場から館への入り口はわかりやすい? 迷ったりした? それは、なぜ?
- 6 館(建物)内には入らず、庭の散歩だけを楽しみたい、なんてことができる? トイレの利用だけでも大丈夫?

B いよいよ館内に。第一印象はどんな感じ?

- 1 エントランスの雰囲気はどうか? 入ってまず目につく中庭の「石舞台」、どんなことを感じた?
- 2 受付(総合案内)の対応は良かった? 質問などもしやすい雰囲気? 当日のイベント予定などは、入り口でわかる?
- 3 入館料や割引制度はわかりやすい? チケットの購入はスムーズだった?
- 4 忘れないうちに帰りの確認もしなくては。バスや電車の時刻表、タクシーの案内はあった? 案内はわかりやすい?
- 5 荷物を預けるロッカーはあった? 無料? 使いやすい?
- 6 雨の日の場合、傘置き場はあった? 館内ですべて歩きにくいところは?
- 7 館内に入ってすぐに行きたい場所がわかった? 館内マップや案内パンフレットはわかりやすい? パンフレットは携帯しやすい? 行きたいのにわかりにくい場所や、迷った場所があったとしたら、それはどこ?
- 8 入場料が必要などところと、そうでないところの区別はすぐわかった?
- 9 一回館外に出ても、当日なら再入場できる? そのことはすぐわかる?
- 10 館内のサイン(案内表示)はわかりやすい? 設置場所や高さは適当? デザイン性はいかが? おしゃれ?

C 館内は快適?

- 1 車椅子やベビーカーの貸し出しはあった? 予約はできる? 車椅子やベビーカーを使われた方、動きやすかった? 動きにくい場所があったとしたら、それはどこ?
- 2 就学前の小さな子どもを連れてきても大丈夫そう? 小さな子が楽しめるようなところやサービスはあった?

- 3 乳幼児のおむつ替えベッドや授乳室はあった？ ちゃんと使えるようになっていた？
- 4 バリアフリーに配慮しているように感じられた？
- 5 手話ができるスタッフはいる？
- 6 視聴覚障害者向けサービス（点字板などによる案内、音声ガイド、字幕付き映像など）は充実していた？ 使い勝手はどう？ 工夫が必要だと思う点があればどんなところ？
- 7 障害者用のトイレ（多機能トイレ）はあった？
- 8 日本語がわからない外国からのお客さんへの配慮はどう？ 音声ガイドがあること、知っていた？
- 9 館内でしていいこと、悪いことが何なのか、禁止事項の表示はわかりやすい？
- 10 館内に休憩できるスペースはあった？ 椅子は充分？ 足りないとしたら、どこに置いてほしい？
- 11 自由にお弁当を食べるスペースはあった？ 雨の日も大丈夫？
- 12 水飲み場はある？ ペットボトル程度の飲み物を買うことはできる？ それぞれの場所はわかりやすい？
- 13 メモをとりたい人のために、筆記用具の貸し出しサービスはある？
- 14 せっかく博物館に来たのだから何か記念を、と思った場合、館内で写真やビデオ撮影は可能？ 撮影に制限があるとしたら、それはわかりやすく表示されていた？
- 15 トイレをはじめ館内の清掃は行きとどいている？
- 16 館内にお気に入りや、おすすめのスペースを見つけた？ 具体的にどこ？ 逆に、館内で「このスペースはもったいない」と思う空間があった？ その使い方について良い提案がある？
- 17 館内の放送アナウンス、音量や内容は適切だった？ イベントの告知、閉館時間の案内、迷子の案内などのほかに、必要なアナウンスはある？

D いよいよ展示室。展示は楽しめた？ 何かを学ぶことができた？

展示室は「常設展示（鑑賞学習型展示と体験型展示）」と「企画展示」とに分かれています。お好きなところから、スタートしてください。常設展示 d - Xへ 企画展示 d - Yへ 展示全体 d - Zへ

d - X 常設展示について

- 1 まず目に入るのは、巨大な山梨の衛星写真（「山梨の舞台」）。どんなふうに楽しんだ？ どんなことを感じた？ それとも通り過ぎてしまった？
常設のうち、「鑑賞学習型展示」はこちらへ
- 2 この館の展示は、テーマ別（17テーマあります）になっているのだけど、特に興味や関心をもったものがあった？ それはどのテーマ？ そしてなぜ？ 感想を聞かせて。
- 3 展示室内のどのテーマから見てもいいのだけど、順路はわかりやすい？ わかりにくいとしたらどの点が？ どこに何があるか、自分がどこにいるか、わかりやすかった？
- 4 ガラス張りの床下展示があることに気がついた？ 感想を聞かせて。
- 5 江戸時代の村や城下町を再現したジオラマ展示（情景模型）はどう？ どんなことを感じた？ ジオラマの中の人形は、それぞれがいろいろなドラマを演じているらしいのだけど、その魅力が伝わってきた？ どんなところが面白い？ どうすればもっとその魅力が伝わると思う？
- 6 とくとき室内が暗くなることに気がついた？ 実はその時こそが、この「城下町ジオラマ」の一番の「みもの」だそう。あなたも、その魅力を感じた？ 感想を聞かせて。
- 7 ジオラマの展示台の下にある引き出し型ケース。「学びの引き出し」というのだけれど、開けてみた？
- 8 展示中の古文書の読み方や、現代語での意味の説明が行われていた？
- 9 映像展示がたくさんあるけれど、ご覧になった方、感想を教えて？ おすすめはある？ その理由は？
- 10 室内のあちこちにあるタッチパネル式の映像モニターは、試してみた？ はまってしまった？ 逆に興味がないなら、それはなぜ？
- 11 「展望展示」というコーナーに行ってみた？ 南アルプス方面の甲府盆地を一望できるはずなのだけれど、このコーナーどこにあるかわかった？

付録 個々のテーマ展示について、感想がおりの方は、こちらをお願いします。

- 1 自然の森の中で
- 2 甲斐の誕生
- 3 甲斐の黒駒
- 4 水に取り組む
- 5 信仰の足跡
- 6 甲斐を駆ける武士たち
- 7 戦国からのメッセージ
- 8 里にくらす
- 9 城下町の賑わい
- 10 山に生きる
- 11 川を彩る高瀬舟
- 12 道がつなく出会い

- 13 江戸文化の往来
- 14 転換期に向き合う
- 15 変貌する景観
- 16 巨富を動かす
- 17 共生する社会（地方病とのたたかい / 明治40年の大水害 / 山梨と戦争）

常設のうち、「体験型展示」はこちらへ

- 12 このコーナーには、実際に資料に触ったり、ゲーム感覚で楽しめる展示（ハンズオン展示）がたくさんあるのだけど、その「体験展示」、実際に体験してみた？ ご感想は？ 体験しなかったコーナーや、興味がわかかなかったコーナーがあったとしたら、それはどれ？ そしてなぜ？
- 13 畳の上には上がれるスペース、おじゃましてみた？ 居心地はどう？ 上がらなかったのなら、それはなぜ？
- 14 「体験型展示」のスペースは、工事現場ふうのデザイン。「歴史は絶えず作り続けていくものである」ということで、「現場」の臨場感を出しているのだけど、どんな感想をもった？

付録 個々の体験展示について、感想がおりの方は、こちらをお願いします。

- 1 研究の現場（顕微鏡があります）
- 2 記憶の現場（ゲーム仕立ての展示です）
- 3 リサイクルの現場（リサイクルについて説明します）
- 4 歴史衣装の現場（昔の衣装を着られます）
- 5 出合いの現場（山梨の方言や有名人の説明を聞くことができます。プリクラで写真撮影もできます）
- 6 重さの現場（江戸時代の商店で、「マス」や「ハカリ」を使えます）
- 7 遊びの現場（昔の子どもの遊び道具を使って遊べます）
- 8 学びの現場（寺子屋をイメージしています）
- 9 保存の現場（蔵造りを再現しています）
- 10 なりわいの現場（昔の人が使っていた農具や生活道具を試せます）
- 11 旅の現場（江戸時代の五街道の今の様子が見られます）

d - Y 企画展示について（現在、「祈りのかたち - 甲斐の信仰 - 」を開催中です。）

- 1 今回の企画展は面白かった？ 具体的にどんなところが？ 感想を聞かせて。
 - 2 担当学芸員のギャラリートークに参加した方、どうだった？ トークを聞くと、展示がさらに楽しめるようになった？
 - 3 今後、どんな企画展を希望する？
- d - Z 展示全体について
- 1 展示品のキャプションや解説類の文字は読みやすい？ わかりやすい？ 長さは適当？ 漢字のルビはどの程度必要だと思う？
 - 2 歴史を勉強していない子どもたちでも、楽しめる展示だと思う？
 - 3 子ども向けのパンフレットや、展示クイズなどがあつた？ 子ども向けでも、大人も使ってみたい？ 使ってみたい人、スタッフにももらえるかどうか聞いてみた？ それで、もらえた？
 - 4 展示理解の手助けとなる解説グッズ類は、充実している？ たとえば「旅行の歴史」を知る面白解説冊子『ぶるる』（『るるぶ』ではありません）や、視覚障害者のための「触ることのできるジオラマ人形」といったものもあるのだけど、気がついた？ 試してみた方、ご感想を。
 - 5 展示室が暗いには、ご推察通り、資料の保存上や運営上でいろいろな理由があるみたい。その上で、あなたはどのぐらいの暗さなら我慢できると思う？ 今よりもっと明るくしてほしい？ それとももっと暗くても我慢できる？
 - 6 懐中電灯やペンライト、虫眼鏡や双眼鏡をもっていたら、展示室内で使ってみたい？
 - 7 視覚障害者用に、音声解説が流れる「音声ジャケット」の貸し出しがあるのだけど、障害のない人でも使ってみたい？ 常時使える音声ガイドがあるといいと思う？
 - 8 熱心なあなたは、展示ケースのガラスに頭をぶついたりした？ ぶつけないための工夫や提案がある？
 - 9 展示を見ながら、誰かと何か話したいと思った？ どんなこと？ 展示室内で、お話ししてもいい雰囲気だった？
 - 10 展示を見終わって、何か調べてみよう、知りたい、勉強しよう、機会があつたら関連展を見たいなど、「向学心」がわいた？ どんなことを調べたいと思った？
 - 11 リピーターの方、展示室の展示資料は変化していると思う？ 何か新しい発見があつた？
 - 12 館内の完全攻略本『山梨県立博物館ガイドブック』のサンプルが展示室にあるけど、おすすめコースが掲載されているのに気づいた？ このガイドブックはショップで販売されているけど、買って帰りたい？

E 「資料閲覧室」や「地域インデックス」の充実度は？ もっと知識を深めたい方は、「資料閲覧室」へ。

- 1 資料閲覧室は自由に使える？ 書庫にしまわれている本の閲覧請求もできる？ コピーも可能？
- 2 古文書を研究している方、博物館で収蔵している実物の古文書を見たいと思う？ 実は手続きをふめば見られるのだけど、その手続き方法はわかりやすい？
- 3 デジタル・アーカイブの充実度はいかが？ 県立博物館の目玉資料の一つ「甲州文庫」の画像が閲覧室のパソコンで閲覧できるって知っていた？ 閲覧方法はわかりやすい？ 印刷も可能だけど、その料金や手続き方法、制限があればその内容をどう思う？

山梨県をもっと幅広く楽しみたい方は、「地域インデックス」へ。

- 4 せっかくだから博物館の周辺も楽しみたいあなた、訪ねてみたい面白そうなスポットの情報は入手できた？ 入手しやすかった？
- 5 県内の他の博物館や食事処、宿泊施設、温泉施設や観光の案内など、パンフレット類は充実している？
- 6 「地域インデックス」のコーナーで発信してほしい地域の情報は？
- F ショップやレストラン、お庭散策も楽しめた？
 - 1 ショップはどんな感じ？ 買ったもの、買いたいものはあった？ どのような博物館オリジナルグッズがあれば、買ってみたい？ 地方名産などはあった？
 - 2 レストランは入りやすい雰囲気だった？ 子ども連れでも大丈夫そう？ 席は充分ある？
 - 3 メニューやお味、スタッフの対応も含めてサービスや値段はいかが？ また、今後、レストランで出してほしいメニューはある？
 - 4 建物の周囲にある広い庭。紅葉が見ごろの季節だけど、館内からも外の景色は楽しめる？ ところで、富士山は見える？
 - 5 外に出て、お庭の散策をしてみた？ お気に入りの場所はある？
 - 6 庭園内には県内各市町村のシンボルとなる木が植樹されているのだけれど、身近な木をみつけれられた？
 - 7 植物の説明板、開花情報などはある？
- G イベントや普及プログラムに興味がある？
 - 1 館で行われているイベントプログラムは、多彩？ 参加しやすい？ 興味や参加できる時間に応じて選ぶことができる？ 参加した方、どんなところが良かった？ あるいは良くなかった？
 - 2 イベントに参加したいのにできなかった方、できない理由って何？（日時の問題？ 事前インフォメーションの有無？ 案内掲示の仕方の問題？ ほかに理由があれば教えて）
 - 3 この館は歴史系の博物館だけれど、それ以外の分野でも、イベントや展示をとおして触れてほしいテーマがある？ 山梨をテーマにするもので、何かあったら教えて。
 - 4 学校連携の一環として、たとえば、「かいじあむ紙芝居」などの学習用教材キットの貸し出しや、ワークシートの作成などをしているのだけれど、それを利用した人が身近にいれば感想を教えて。
 - 5 他館や他施設とのネットワークづくりは進んでいると思う？ お隣の「総合教育センター」との連携はいかが？ 他の博物館や資料館、美術館などと共同で行っているイベントもいろいろあるのだけれど、参加したことはある？ 参加したい？
 - 6 博物館と県内市町村を結ぶため、「歴史ウォークツアー」が行われているのを知っている？ ちなみにツアーのときに配るガイドブックは館のショップで販売中。ツアーやガイドブックに興味がある？ また、参加したことのある方、ご感想を。
 - 7 「ハブ博物館機能」、この言葉に心当たりは？ この館が担っている役割の一つなのだけれど、実際にどんな活動が行われているか知っている？ また、どんな活動をしてほしい？
- H 館で働く人たちと交流できた？
 - 1 館内スタッフの案内や誘導は上手？ 話しかけたり、質問したりしやすい？ 逆に、スタッフのほうから話しかけてもらった？
 - 2 説明はわかりやすい？ 面白い話を聞くことができた？
 - 3 展示室で学芸員を見かけた？ どんな感じ？ 館長さんや学芸員さんたちの普段の活動を知っている？ 研究分野や活動ぶりなどがわかる？
 - 4 実は県立博物館には「学芸員」の他にも「展示交流員」や「協力員」がいるのだけれど、それぞれの区別はわかった？ また、あなたにとってその区別は必要？
 - 5 ちなみに、赤やピンク色の制服着用者が「展示交流員」、着ていないスタッフが「協力員」。「協力員」とは、いわゆる「ボランティア・スタッフ」のことなのだけれど、この館に「協力員」という仕組みがあることを知っていた？ あなたもなってみてみたい？ どうしたらなれるか知っている？
 - 6 博物館にかかわるスタッフ全員が楽しく働いているように感じられた？
- I 博物館に行く前に、情報は入手できた？
 - 1 県立博物館のホームページはどんな感じ？（わかりやすい？ デザインは？ 情報更新は早い？ 必要な情報が過不足なく伝わっている？ ちゃんと館の魅力が伝わってきた？ スタッフの顔が見えるようなフレンドリーなコーナーや、タイムリーな話題提供もある？ リンクは機能している？ そのほか、気づいたことを教えて）
 - 2 ホームページにこんな情報をのせてほしい、これはのせておくべきだ（！）という要望などはある？
 - 3 博物館がメルマガなどを発信していたら読んでみたい？
 - 4 話題づくりは上手？ 「県立博物館に行きたいなー」と思わせてくれるような広報物（テレビ、ラジオ、新聞や雑誌記事、ブログなど）を見たり聞いたりしたことがある？
- J 最後に、これもぜひお聞きしたいところ。皆さんはどう思う？
 - 1 館の愛称は、「かいじあむ」。知っていた？ この愛称、使っている？ 「かいじあむ」のマークやキャッチコピーはある？ あるとしたら、それに親しみを感ずる？
 - 2 きょうの通信簿の結果を、誰が一番見てほしい？ その結果は、今後何らかの形で館の改善に反映されると思う？ そ

れはなぜ？ 特にどのような点を改善してほしい？

- 3 入館料（常設、企画展）は適当？ 展覧会によって一概にはいえにせよ、高いと思う？ あるいは安いと思う？
- 4 休館日は原則として月曜日で妥当だと思う？ 休館日を変えたとしたら、何曜日だといい？ 夜間開館や、開館時間の延長を希望する？ 延長できるとしたら、週に何日、何曜日に、何時から何時までが希望？
- 5 県博はみんなが親しみやすい、学びやすい、楽しめる博物館だと思う？
- 6 もう一度、この館にきたい？ 今日はワクワクした？ それはなぜ？

そしてこのワクワク感を誰かに伝えたい？ 今度、来るとしたら誰を連れてきたい？

お疲れさまでした。まだほかにもいっぱいチェックポイントがあると思います。気になることがあったら、何でも書いてください。

K また、この冊子の最後のページで、博物館をよりよい場とするためにつくられた協議会「みんなで作る博物館協議会」（通称「みつつく」）がまとめた、「博物館の使命」についての提言を紹介しています。お読みいただき、「かいじあむの使命」「館を舞台とした交流や、館の活動への参加の仕方」「活動に関する情報公開」「評価のあり方」といった点にもご意見を寄せいただけるようでしたら、是非こちらにお書きください。

（2）通信簿ツアーの結果

通信簿ツアー評価結果抜粋

通信簿ツアーの結果については、その全文を県立博物館ホームページ上で公開し、PDFファイル形式でダウンロードをすることが可能である。URLは次のとおり。

http://www.museum.pref.yamanashi.jp/3nd_event_waiwai_061015.htm

なお、評価結果全文はA4版で60頁以上にも及びものであり、紙幅の都合上、ここでは評価結果の一部を抜粋という形で掲載することとする。

回答番号	A 到着するまで、道のりは順調だった？	評価者 NO.
1	とても道がわかりやすく楽しく行くことができた。	28
2	順調でした。但し、甲府方面から乗る場合、もう少し標識があっても良いかもしれません。	10
3	石和温泉駅前のお店に一枚だけ「折り」の展覧会ポスターが貼られていましたが、それ以外に県博の情報らしき言葉は見かけませんでした。観光センターにも貼ってありませんでした。乙女高原の告知チラシは貼ってありましたが、駅改札口付近の周辺地図にも県博は紹介されていませんでした。これはお金がかかるからだと思います。	57
4	早朝の石和温泉駅では、近隣に博物館があるということは、ほとんど秘密にされている雰囲気でした。せめて駅前のマップには名前をのせてもらったほうが良いような。案内所があていられれば良いのですが、朝早くついて、お天気がいいから歩こうか、という人のために、簡単な徒歩用マップやポスターなどを掲示板に貼っておいてもいいかもしれません。	56
5	（駐車場からエントランスまで）分かり易いけれど、表示のデザインが良くないと思います。せっかく美しい建物ですから、それに見合う表示方法を工夫すると良いと思います。駐車場からのアプローチはこれから展示を見る前のワクワクドキドキさせるのを促すような役割もあると思います。単なる道標ではなく、期待感を高めるようなデザインが良いと思います。	10
B いよいよ館内に。第一印象はどんな感じ？		
1	（エントランスの）石舞台で踊りたい。中に入れるの？ 石舞台が何なのか説明する人がいるといいと思います。	27
2	受付は対応よく、よい雰囲気！	26
3	（マップやパンフレットは）わかりにくい。	18
C 館内は快適？		
1	何も不便に感じることは無かった。「何も問題がない」と感じるサ・ビスは極めて高いレベルのことが多いと思う。	6
2	（就学前の子どもをつれても）大丈夫だけど、ちょっとうるさい子もいる。また、小さな子どもが楽しめそうなところはあるけど、案内してくれる人がいなければ、初めての人には分からない。	12
3	車イスにやさしかった。	24
4	館内に手話通訳ができる人がいればいいな。手話をすべてお話できなくても、理解してくれている姿勢はうれしい。もしできるのなら、館内で一緒に手話で案内してくれる人がいるともっとよいと思う。手話でのありがたうがうれしかった。	48
5	3カ国語で音声ガイドがあるのは優れものだと思うので、もっとアピールしては？ 来館のためのインフォメーションと見所、そして外国人向け音声ガイドがあることなどを知らせる、簡単な英語HPをつくるのもいいかも。基本データであれば、こまめに更新しなくても大丈夫でしょうし、	56
6	イスは多数ありました。休むのには良いと思います。でも、できることなら展示を良く見ることのできる位置に（楽しめる形で）配置されていると、より良いのではないかと感じました。	10
7	どこで飲み物が買えるのでしょうか？	11
8	エントランスのイスに座って外や人間観察するのが楽しい。でも、このイスがすべりやすいのが気になった。もったいないスペースは、企画展前やその周辺。企画展がないときは、落語会やミニ写真展などイベントを常に行ったらいいと思う。	27
9	アナウンスだけではなく、字幕で知らせると、耳の聞こえない人や高齢者にもわかって良いと思います。	20
D いよいよ展示室。展示は楽しめた？ 何かを学ぶことができた？		
DX 常設展示について		
1	山梨・甲府の文化、多くの子供達にまんまでほしいと共に、私達大人もなつかしく思えました。	29
2	常設展示が思っていたよりも良かったです。	5
3	英語の説明をお願いします。全体的にEXHIBITION はおもしろかったです。	17
4	（「山梨の舞台」は）なぜか、自分の家を探してしまうのが面白い。	27
5	（「山梨の舞台」は）初めて来た時に通り過ぎてしまいそうになりました。	8
常設展のうち「鑑賞学習型展示」		
6	どこからみていいのかちょっと迷った。だが、順路通りで見えていくと流れて見えてしまいそうなので、面白そうな所を探しながら見て歩くというのも新鮮。リビ・タ・を中心に考えるなら面白い展示。各コ・ナ・ごと、床や壁の色を統一すると分かりやすいのでは。赤コ・ナ・を見たから次は黄色といった具合に。	54
7	カ・ド式の人形のドラマを紹介したものを用意したらどうでしょう。面白さをもっと伝えてほしい。	54
8	一つひとつのフィギュアに表情があって楽しいですね。でもどんな情景が物語かはどなたかの解説がないと、なかなか伝わってこないかもしれませんね。	45
9	ジオラマははまります。係りの人がペンライトで人形の解説をしてくれるといい。モニターで見るのも楽しいけど、ペンライト大作戦は心に残ると思います。ペンライトくらいは光量なら問題ないはずなので館内で貸し出すなり販売するなり、なにか作戦が立てられそう。県博の常設展示室をペンライトで探検！ みたいなツアーを常時やってほしいなあ。	57

第 編 山梨県立博物館の目指すところ

常設展のうち「体験型展示」		
10	体験コーナーで何か競い合い、その結果を順位で張り出すみたい、そういうイベントを常時開催してほしい。ランク表がいつも発表されているみたい。次回はあそこをランクされるぞ、みたいなリピーター効果にも役だつような。	57
11	ゲ・ムの楽しみが30%くらいしか分からない。人が来て説明が一言入ると楽しみ70～80%になった。	11
12	(量に上がるスペースについて) 量の上にあがったのは、この本に書いてあったから。知らなければ、誰も入っていないとあがりにくい。入っていいのかも書いてほしい。	30
13	(量に上がるスペースについて) おじゃまる時間が無かったが、もっとおじゃましやすい、沢山の人の利用を促して良いコナ-だと思ふ。	6
DY 企画展示について(* 現在、「祈りのかたち-甲斐の信仰-」を開催中です。)		
14	山梨の文化の奥深さを感じました。感動いたしました。	3
15	ガラスごしでなく仏像が自由な角度から見られてよかったです。迫力ありました。後ろまで見られて満足です。オベラガラスの貸し出しをしていただいところも、よかったです。	36
16	仏像など素晴らしい。説明文を読んで見るだけで教養もないし、勉強不足なのがいけないのですが、何の補足説明もしていただけないのが残念です。	34
DZ 展示全体について		
17	(子どもでも) 楽しめると思う。体験できるものが多いし、わくわくしながら学べると思います。特にジオラマの高さが子どもに一番あっているようで、自分が見つけたものを母親に「見て見て!」と教えている姿も見られました。	55
18	子どもには分かりにくい難しい文章が多いように感じられました。	10
19	(子ども向けパンフ)は 気付きませんでした。当日子どもと一緒に書いてもらったので、サンプルなど、わかりやすく置いておいたほうがいいように思います。	56
20	(『山梨県立博物館ガイドブック』)は 案内デスクのラックで見かけました。でも、気付かない人が多いと思います。量のところとか要所所にもっとサンプルを置いて、展示室内で使ってもらってもいいように思います。	56
E 「資料閲覧室」や「地域インデックス」の充実度は?		
もっと知識を深めたい方は、「資料閲覧室」へ。		
1	司書の方が丁寧に調べてくれた。最新版の町史があるのがうれしい。企画展に関する本が置いてあったが、ここにあることを受付、企画展内で伝えてほしい。	27
2	資料閲覧室について知らなかったが、今は知り、又、利用したい。	7
山梨県をもっと幅広く楽しみたい方は、「地域インデックス」へ。		
3	このコーナーはまだ開発の余地があります。館と地域を結ぶ、という役割。重要だけどネットにもつながっていないし、リアルな情報はチラシのみ。これも本格的に地域ごとに分けてあるわけでもないし。地域のミュージアムで何をしているかがひと目ではわからないし。うーむ。	57
F ショップやレストラン、お庭散策も楽しめた?		
ショップについて		
1	特に県外から旅行の一つの行程として訪れる方に向けて、ミュージアムで大切なのはそこの知識の吸収だけでなく、時間を楽しむことも重要。はがきをせっかく売っているなら、切手も置いた方がいい(ショップに問い合わせたら置いてないとのことだったので)。可能なら「かいじあむ」スタンプを押してもらえると嬉しい(ディズニーランド&シ-のように)。帰ってからの楽しみや、友人への話の種にしたいと思います。	10
レストランについて		
2	レストランの位置が館内からは分かりにくい。外からはよく見え、入ってみたいと思った。内部でのサインを改善すれば、利用者が増えるかも。	6
3	メニューにはもっと和食が欲しい(例 おにぎりセット 600円)。利用者が少なそうなので難しいが、値段が高すぎると思う。750円位の食事が欲しい。また、紙コップはいただけない。	4
庭について		
4	庭がすごく魅力ある博物館だと思う。木が茂る5、6年後が楽しみだ。	12
5	(庭の植物に関する情報) 売店の前にはあるのは知っていますが、受付、エントランスにほしい。そうすれば、帰りに散策したくなる。	27
G イベントや普及プログラムに興味がある?		
1	(イベントに関する) 情報発信が行政は苦手ですね。ネット環境をフルに活用することを望みます。	45
2	ツアーには興味があるのですが、どこで情報入手できるのでしょうか?	10
H 館で働く人たちと交流できた?		
1	はい。みなさん、自然に話しかけてくださいました。質問もしやすいけれど、たまにお客さんなのか、スタッフなのか判別がつかない場合があります。礼をさげているとはいえず、スタッフなのかお客さんなのか瞬時にわからない場合があり、できればスタッフ用の目立つ衣装(量産店のめだつ色のシャツとかジャンパーとかでいいと思うのですが)があると、もっと迷わず質問しやすいかなと思いました。	56
2	企画展の説明係りの人は、気さくな人が多いと思った。話も面白い。前回はじめて展の時に丁寧な説明してくれた。	27
3	とても感じよく対応してくださったので、楽しく働いているのかなと思いました。	20
I 博物館に行く前に、情報は入手できた?		
1	県博のHPはちょっとかたいなあ。館内これだけ親しみやすく創っているのだからHPもフィギュア使ったりもっと現場の雰囲気を出してほしいのでは? メルマガとか企画展準備風景やその過程など楽しいコンテンツは必要ですね。	45
2	(県博HP)は 堅苦しく、かいじあむの雰囲気全然伝わってこなくて残念。県外の人はHPしか情報源がないのもっと魅力あるものにして欲しい! お庭の状況がわかるのはいいし。	55
3	(県博HP)に載せて欲しい情報は) 近所観光情報。かいじあむの日常がわかるようなスタッフの方のブログ。ミュージアムショップ・レストランのお勧め品。	55
4	(県博に関して) あまり情報を聞かない。もっと人に来てもらえれば、すばらしさかわかると思う。	43
5	やっぱり、行政から発信している「キチン」とした広報物が多いですね。もっとそういう「わく」から脱け出して欲しいなあ。いっ青山辺りであらうろろしているクリエイターとかと組んで楽しい情報誌でも出してみたら? 話題づくりは下手ですね。歴史系業界だけではない片づけてしまっている感じがする。情報を見ても楽しくないです。かたずきますね。	45
J 最後に、これぞぜひお聞きしたいところ。皆さんはどう思う?		
J02 きょうの通信簿の結果を、誰が一番見てほしい? その結果は、今後何らかの形で館の改善に反映されると思う? それはなぜ? 特にどのような点を改善してほしい?		
1	この通信簿の結果を最も見たい人は、まず、県知事、つぎに県会議員たちです。彼らは県民の立場から判断しなければならないはず、さらに根本的な改善には予算を伴うのは当然、そこで予算配分の権限を持つ知事や県議員に見てもらいたいと思います。	53
J03 入館料(常設、企画展)は適当? 展覧会によって一概にはいえないにせよ、高いと思う? あるいは安いと思う?		
2	学生の値段はちょうどいいと思います。気軽にこられます!	55
3	通常割引は、学生だけでいいと思う。リピーター確保を目指しているのなら、少し割引のある回数券を発行してもらいたい。高い、安いと思うのは満足感の問題。今は高いと感じるほうが多いです。	27
J04 休館日は原則として月曜日で妥当だと思う? 休館日を変えたら、何曜日がいい? 夜間開館や、開館時間の延長を希望する? 延長できるとしたら、週に何日、何曜日に、何時から何時までが希望?		
4	月曜が一般的ですが、観光地に行くときは月曜をからめて行くことも多いので、月曜にしている施設があると嬉しいです。観光客が多ければ、ほかの観光施設とのからみて休館日を変える手もあるかもしれません。夜間開館は、交通の便などにもよりますが、季節の催しみたいなのにあわせて(たとえばお月見とか)イベントに夜間開館することがあっていいのかもしれない。	56
5	日曜日の観光客も多いでしょうから、火曜か水曜日にしたほうがいいのでは。夜間の延長はやってほしい。夜会(琴、三味線の演奏・コンサート・講演会)などを企画してほしい。	54
J05 県博はみんなが親しみやすい、学びやすい、楽しめる博物館だと思う?		
6	県博までアクセスできれば、親しみやすい学びやすい部分が多いと思いますが、そこにアクセスするまでの情報をもっと豊富にして欲しい。	55
7	県民が来れば楽しめる場所ではあると思うが、しくみやしかが巧妙すぎて、一般人は理解するまでにあきてしまう。分からない。少し説明が入ると、とても楽しいのに、もったいない。	11

	J06 もう一度、この館に来たい？ 今日ワクワクした？ それはなぜ？ そしてこのワクワク感を誰かに伝えたい？ 今度、来るとしたら誰を連れてきたい？	
8	もう一度来てゆっくりまわりたい！ 展示室に入ると気になるものがたくさん目に入って、どこから見ようか迷ってワクワクしました。山梨の歴史など全然知りませんが、押し付けがましくなくすんなりと見られました。	55
9	どうやら隠された「なぞ」がたくさんあるらしいので、また来たいです。事前に予約すれば案内の方を一人「グル-ブ占め」できるなどすると勉強になりそうです。そして、勉強した人が次なる広報員として活動できたら素晴らしいです。	10
	K 博物館をよりよい場とするためにつくられた協議会「みんなでつくる博物館協議会」(通称「みんつく」)がまとめた、「博物館の使命」についての提言を紹介しています。お読みいただき、「かいじあむの使命」「館を舞台とした交流や、館の活動への参加の仕方」「活動に関する情報公開」「評価のあり方」といった点にもご意見をお寄せいただけるようでしたら、是非こちらにお書きください。	
1	みんつくの活動をもっと博物館の来館者の目に付く場所に掲示するのはどうでしょうか。市民がそういった活動をしていることを来た人に知ってもらうことで、身近に感じる部分もあるのではないのでしょうか。	55
2	常に新しい事を発信している山梨県民として誇れる博物館であってほしい。館と一般の人が交流できる企画をたくさんしてほしい。外部の人に評価してもらおうのは勇気のいることだが、この気持ちを大切に館の運営をしてほしい。今後の活躍を楽しみにしています。	54
3	県立博物館ですから、たくさんのあらゆる業界のスタッフがいてもおかしくはありませんよね。地域の学芸員が登場できる、活躍できる環境を整えるのも、多くのファンを獲得する手段ではないでしょうか？ 県内にはたくさんスタッフがいいますよ。そういう人たちとの交流も必要ですね。	45
4	いろいろ魅力ありますが、屋外にある畑で生まれた野菜や果物を、みんなで食べる会があるそうで、参加してみたい。この「畑」をみんなで育てるボランティアさんがいていいですね。お百姓さんクラブ、県民参画、さらに一歩進めて、NPOやボランティアさんの交流の場としてのかいじあむ。毎月一回、彼らが企画したイベントを実施し、年に一度はかいじあむ市が開催できるといいですね。食も混ぜて。楽しいお祭りに。	57

「評価者No.」は通信簿の提出者それぞれに無作為に付与した番号であり、同一番号は同一人物の回答によるものであることを示す。

評価結果の分析

全体的には次のとおり、「満足」、「思っていたよりも良かった」、「もう一度来てゆっくりまわりたい」という意見が多かった。おおむね県立博物館の展示についてじっくり観覧した利用者には好評を得ていることが判明した。

「山梨・甲府の文化、多くの子供達にまなんでほしいと共に、私達大人もなつかしく思えました」(「通信簿ツアー評価結果抜粋」表中の回答番号D-1。以下回答番号のみ)

「もう一度来てゆっくりまわりたい！ 展示室に入ると気になるものがたくさん目に入って、どこから見ようか迷ってワクワクしました。山梨の歴史など全然知りませんが、押し付けがましくなくすんなりと見られました」(J-8)

ただしその一方で、館内の様々なサービスや展示内容について、利用者への案内や周知が不徹底であることが明らかとなった。説明を受ければ興味深い、それが無いためによく分からなかったという意見が次のとおり散見された。

「ゲ-ムの楽しみが30%くらいしか分からない。人が来て説明が一言入ると楽しみ70~80%になった」(D-11)

「資料閲覧室について知らなかったが、今は知り、又、利用したい」(E-2)

「県民が来れば楽しめる場所ではあると思うが、しくみやしかが巧妙すぎて、一般人は理解するまでにあきてしまう。分からない。少し説明が入ると、とても楽しいのに、もったいない」(J-7)

また、全体に広報が不十分であることが判明した。実際に県立博物館が楽しく親しみやすい場所であることが分かるが、ホームページなどをはじめ来館前に接する情報からはこうした魅力が伝わらないという意見が散見された。

「(イベントに関する)情報発信が行政は苦手ですね。ネット環境をフルに活用することを望みます」(G-1)

「(県博に関して)あまり情報を聞かない。もっと人に来てもらえれば、すばらしさがわかると思う」(I-4)

以上を総合すると、県立博物館の展示内容や諸サービスは潜在的に高い魅力を有しているものの、利用者にはそれらが十分に認知されていないという問題点が浮かびあがった。利用者や博物館との間に横たわるこうした距離感を近づけるために、広報の充実を図ること、また諸サービスの利用促進を図り、その魅力の発揮に努めることが運営上の課題点として明確となった。

「山梨県立博物館の通信簿」をもとにした、館内改善ワークショップ

平成18年11月20日(月)に、県民参画事業わいわいミュージアムの一環として『「山梨県立博物館の通信簿」をもとにした、館内改善ワークショップ』を実施した。このイベントは利用者とともに、問題点をどのように改善できるか具体的な案をだし、試してみるというワークショップである。

当日、「通信簿ツアー」の結果について利用者や意見交換をした結果、「博物館のエントランスはガラんとしているから、もっとワクワク感が欲しい」「せかくの展示も素通りで見せようと、その面白さが伝わらない。展示の持つ魅力をもっと知っていただくための工夫が欲しい」という声が挙がった。

そこで、エントランスに段ボール製のクイズスタンドを参加者と共に作成し、にぎやかさを演出した。このスタンドには自由に持っていくことのできる展示クイズカードをはさみこみ、利用者はこのクイズカードを片手に館内をめぐる、隠れた展示の魅力を楽しむことのできるというものである。当日は、多くの利用者がこのクイズスタンドで楽しむ姿が見受けられ、一定の効果あげた。

利用者の視点からの博物館評価を実施し、改善するという取り組みは県立博物館独自のものであり、今後も順次改良を加えながら実施することとしたい。

第 編 事業・諸活動

第1章 運営・ミュージアムサービス

(1) 運営・ミュージアムサービスの方針

県立博物館は、

- ・「調査・研究」(第 編第2章参照。以下、章のみ)
- ・「資料の収集・保管・活用」(第3章)
- ・「展示」(第4章)
- ・「企画交流事業」(第5章・第8章)

を柱とした事業・活動をとおして、県立博物館の使命の実現を目指している。13頁に掲げる「県立博物館事業体系図」のとおり、それぞれの事業・活動は密接に関連しあいながら、館の活動総体を高めていく。

県立博物館が提供するこれら諸サービスは、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に学べ、何度来ても楽しめる博物館となることを基本方針とする。

そのためには常に、利用者が満足できる魅力あふれる事業・活動を企画・実行すること、快適に利用できる施設として整備すること(第6章)あわせて、情報化社会に対応した情報システムの充実・強化を図る(第7章)こととする。

また、博物館の各種事業は、専門的かつ高度な知識や技術が必要となることから、これらの知識を着実に蓄積することのできる創造性の高い組織作りを行う。同時にネットワークを生かし、外部支援も導入しながら開かれた博物館運営を行い、県民や利用者のニーズの変化に応えられるよう努めていく(第9章・第10章)。

(2) 平成18年度利用者状況一覧

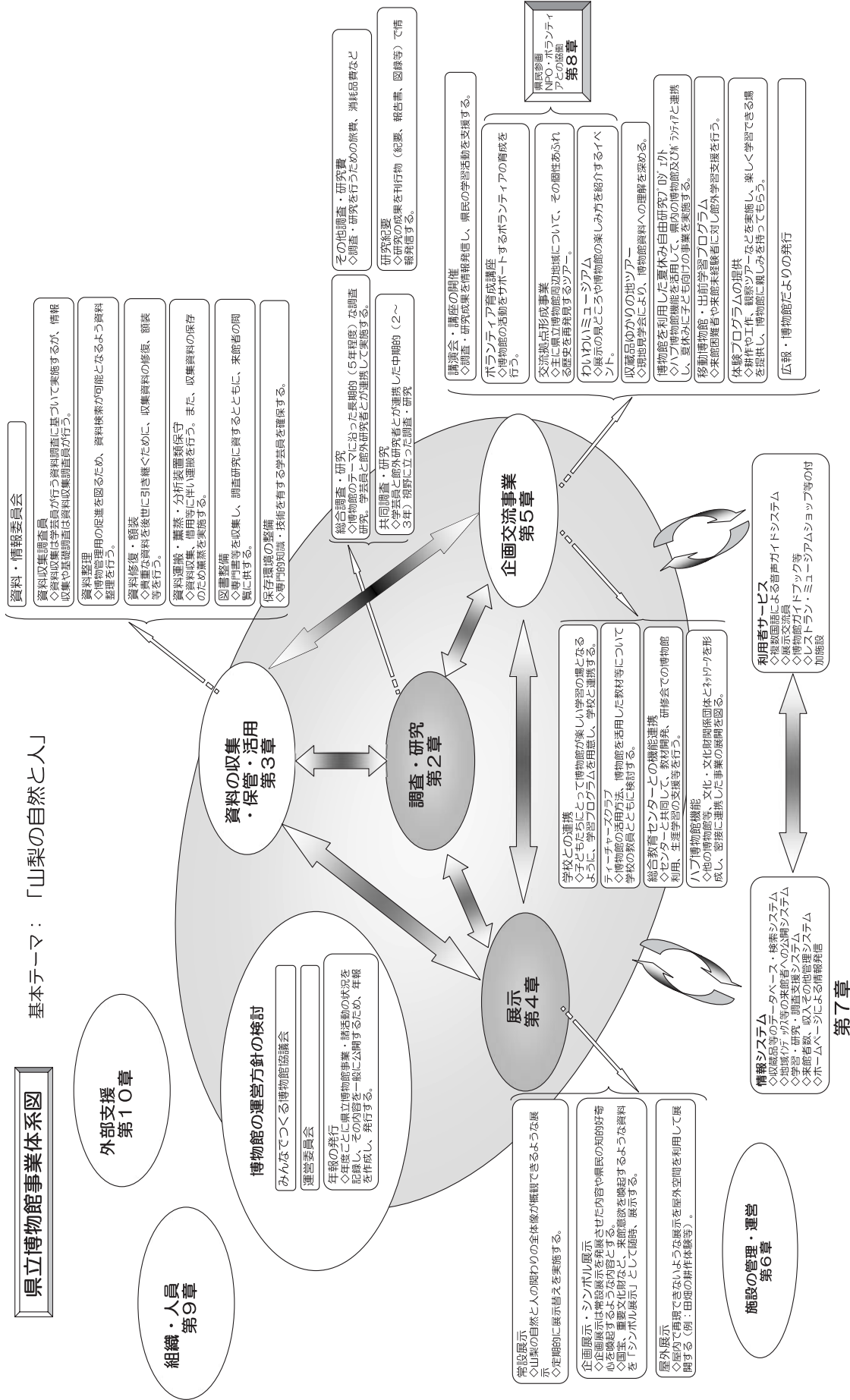
県立博物館の事業・諸活動は調査・研究、資料の収集・保管・活用、展示、企画交流活動、施設整備・管理、情報の発信と公開、県民参画事業など多岐にわたり、その成果をミュージアムサービスとして県民に還元しているところである。

これらミュージアムサービスについて、数値実績として表現できるものについて一覧化したものが14頁の「県立博物館利用状況一覧」である。県立博物館では、提供する諸サービスの総計を「総利用者数」として捉え、今後、総利用者数の増加を目指し、多くの人々に満足してもらえるミュージアムサービスを提供していくものである。

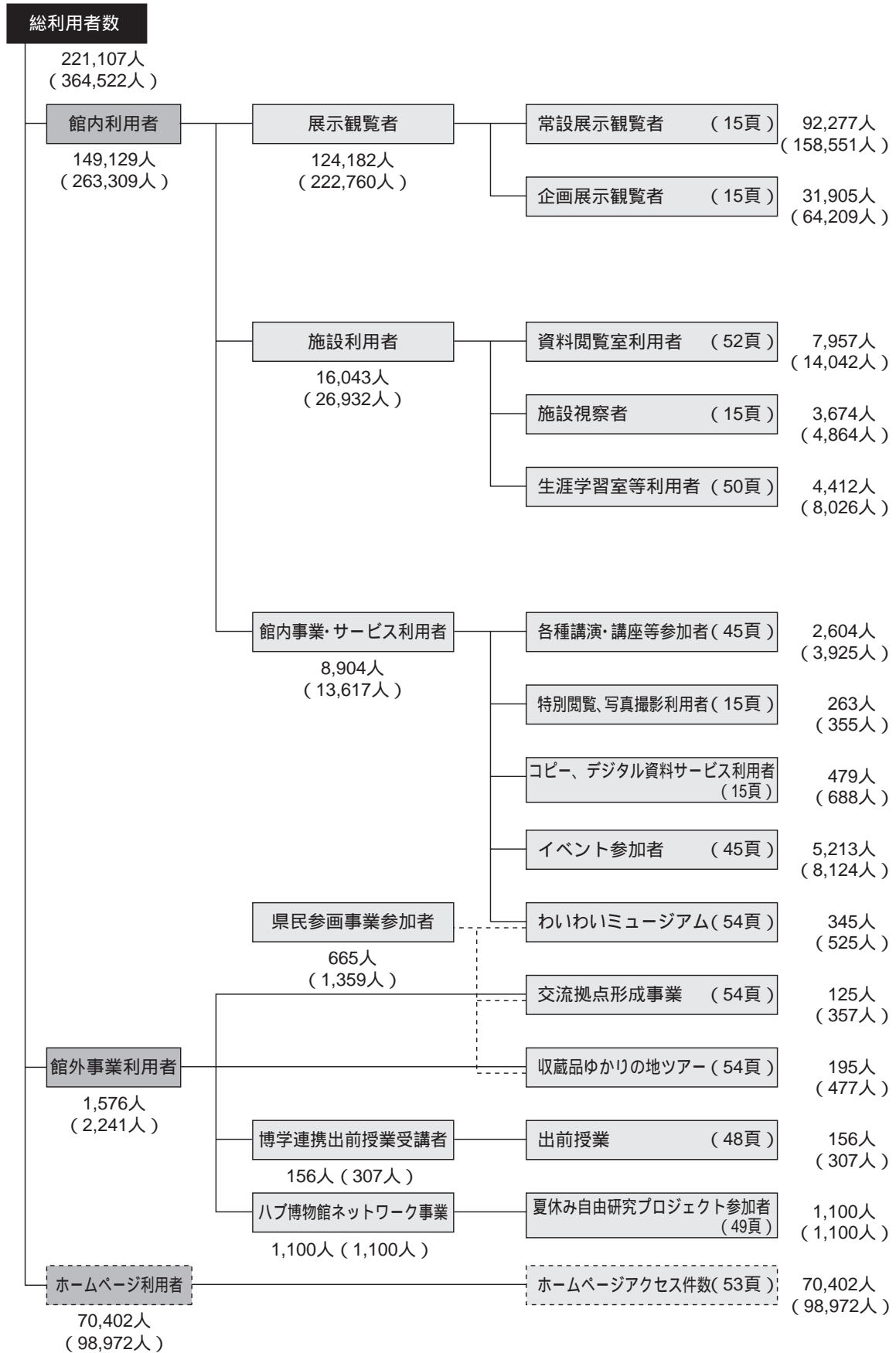
- 1 博物館の利用者とは、博物館の施設や提供する諸サービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。なお、一部の項目については、重複して統計に表れる性質がある。
- 2 一覧に示す利用者数は平成18年度分(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)の実績である。なお()内の数値は平成17年度分及び平成18年度分の数値を加えたものである。

基本テーマ：「山梨の自然と人」

県立博物館事業体系図



平成18年度 県立博物館利用者状況一覧



開館年度（平成17年度）から平成18年度までの年度別統計

総利用者	館内利用者 (a + b + c)										館外利用者					ホームページ利用者			
	展示利用者 (a)			施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)				県民参画事業			ハブ博物館ネットワーク事業 (夏休み自由研究プロジェクト)					
	常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧 利用者	施設 視察者	生涯学習室 等利用者	講座・特別 講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	E-マガジ ン・デジタル 展示・体験	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	収蔵品ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業	出前授業 受講者		ハブ博物館 ネットワーク事業 (夏休み自由研究 プロジェクト)				
																	24,209	13,691	10,518
17年度	114,180	98,578	66,274	32,304	10,889	6,085	1,190	3,614	4,713	1,321	92	209	2,911	180	665	232	151	0	28,570
18年度	221,107	149,129	124,182	92,277	31,905	16,043	3,674	4,412	8,904	2,604	263	479	5,213	345	1,576	125	156	1,100	70,402
計	364,522	263,309	222,760	158,551	64,209	26,932	4,864	8,026	13,617	3,925	355	688	8,124	525	2,241	357	307	1,100	98,972

平成18年度 県立博物館利用者状況（月別集計）

総利用者	館内利用者 (a + b + c)										館外利用者					ホームページ利用者			
	展示利用者 (a)			施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)				県民参画事業			ハブ博物館ネットワーク事業 (夏休み自由研究プロジェクト)					
	常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧 利用者	施設 視察者	生涯学習室 等利用者	講座・特別 講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	E-マガジ ン・デジタル 展示・体験	イベント 参加者	わいわい ミュージアム	収蔵品ゆかり の地ツアー	交流拠点 形成事業	出前授業 受講者		ハブ博物館 ネットワーク事業 (夏休み自由研究 プロジェクト)				
																	24,209	13,691	10,518
4月	33,113	26,393	24,209	13,691	10,518	1,473	918	361	194	711	281	22	46	362	0	0	0	0	6,720
5月	26,800	20,095	17,380	10,936	6,444	1,710	902	227	581	1,005	142	9	42	812	0	35	0	0	6,670
6月	14,418	9,018	7,070	7,070	0	1,638	472	180	986	310	220	15	35	40	0	40	0	0	5,360
7月	16,310	9,928	8,276	7,412	864	1,124	524	325	275	528	295	11	37	185	0	1,230	130	0	5,152
8月	23,863	18,175	13,469	9,358	4,111	1,901	706	755	440	2,805	40	15	46	2,664	40	0	0	0	5,688
9月	11,693	6,747	5,183	5,183	0	867	454	161	252	697	255	28	24	390	0	40	0	0	4,906
10月	20,901	14,681	13,051	9,447	3,604	1,169	466	362	341	461	305	20	36	15	85	59	14	0	6,161
11月	25,607	19,316	16,608	10,244	6,364	2,034	727	785	522	674	181	27	51	395	20	142	30	0	6,149
12月	6,853	2,879	2,123	2,123	0	472	294	68	110	284	200	34	40	10	0	0	0	0	3,974
1月	12,161	6,270	4,699	4,699	0	895	544	110	241	463	135	24	44	260	0	0	0	0	5,891
2月	13,144	7,026	5,218	5,218	0	1,416	1,039	197	180	392	120	31	31	10	200	30	0	0	6,088
3月	149,342	8,814	6,896	6,896	0	1,344	911	143	290	574	430	27	47	70	0	0	0	0	7,643
計	221,107	149,129	124,182	92,277	31,905	16,043	7,957	3,674	4,412	8,904	2,604	263	479	5,213	345	1,576	125	156	70,402

第2章 調査・研究

平成18年度における県立博物館の調査・研究では、平成17年度に引き続き、総合調査・研究として「富士山と人々の歴史」、共同調査・研究として「古代の交易と道」、「楯無鎧の謎を探る」という三つの調査・研究事業が行われた。このうち「楯無鎧の謎を探る」は、本年度で最終年度となり、調査・研究内容をまとめた山梨県立博物館 調査・研究報告1『小桜韋威鎧 兜・大袖付 復元調査報告書 楯無鎧の謎を探る』を刊行した。

また、各博物館職員が、それぞれの専門分野に応じて個別調査・研究を行った。中でも善光寺（甲府市）所蔵の阿弥陀如来及両脇侍像（重要文化財）のうち、観音菩薩、勢至菩薩の両脇侍像の胎内に12世紀後半の和鏡が納入されていることが、当館で実施したエックス線透過調査の結果、明らかとなった。この内容は、『山梨県立博物館研究紀要』第1集に報告されている。

このように、平成18年度は開館1周年を迎え、調査・研究の実績が具体的な成果をあげ始めた。今後、当館が山梨県内外における調査・研究の拠点の一つとして成長することが期待される。

（1）総合調査・研究「富士山と人々の歴史」

調査・研究の目的

富士山は山梨のみならず国内外に広く知られる名峰である。その自然景観は古来より山岳信仰の対象となり、文学や絵画に用いられる一方、雪代や火山活動などの災害は、人々の生活に大きな影響を与えてきた。

県立博物館では、富士山を巡る自然と人との関わりを歴史学、考古学、民俗学、美術史、文学、古環境学、地理学、動物学、植物学など多様な分野から総合的に解き明かし、それらの成果を広く国内外に情報発信していくこととした。

県立博物館担当職員

中山 誠二（当館学芸課長）

高橋 修（当館学芸員）

植月 学（当館学芸員）

共同調査・研究員

布施 光敏（富士吉田市歴史民俗博物館学芸員）

津村 宏臣（同志社大学講師）

活動期録

平成18年5月14日（日） 共同調査・研究員と打合せを行い、今後の活動方針などを確認（於 県立博物館）。

活動内容と成果

平成18年度は、前年度に設定された研究テーマ「富士山の災害史と古環境」をもとに、共同研究者2名に依頼をおこない、研究会を開催した。研究会では、富士山周辺の微地形情報、地質学的情報、遺跡情報、富士五湖の水域環境の変遷などをGIS（地理情報システム）により統合し、解析することで、富士山の災害が周辺の自然環境や人間生活に及ぼした影響を明らかにするという目的を確認し、それぞれ分担を決めて、基礎的なデータの収集にあたることとした。

（2）共同調査・研究

平成18年度の活動実績は次のとおりである。なおそれぞれの共同調査・研究の目的については『平成17年度山梨県立博物館年報』を参照。

古代の交易と道

県立博物館担当職員

平川 南（当館館長）

中山 誠二（当館学芸課長）

海老沼真治（当館学芸員）

共同調査・研究員

大隅 清陽（山梨大学准教授）

杉本 悠樹（甲州市教育委員会職員）

田尾 誠敏（東海大学講師）

平野 修（帝京大学山梨文化財研究所考古第3研究室長）

室伏 徹（甲州市教育委員会主幹）

研究協力者

末木 健（県埋蔵文化財センター所長）

新田 真也（山梨大学大学院）

望月 秀和（笛吹市教育委員会職員）

活動記録

- ・平成18年4月15日（土） 研究計画の検討、研究報告 田尾「東海道の官衙と初期寺院 相模を中心に」(於 県立博物館)
- ・同年6月10日（土） 研究報告 杉本「古代甲斐国都留郡の様相 研究の視点と課題」(於 県立博物館)
- ・同年7月15日（土） 研究報告 望月「河川流路からみえること 甲府盆地における遺跡の立地について」(於 県立博物館)
- ・同年9月9日（土） 研究報告 海老沼「文献より見た中世における甲斐と周辺の交通の様相 甲駿間の道筋を中心として」(於 県立博物館)
- ・同年10月28日（土） 御坂・河口湖周辺の古道、関連史跡の現地踏査（於 河口湖周辺、古代甲斐国官衙研究会と合同で実施）
- ・同年11月25日（土） 御坂路（藤野木～御坂峠）の現地踏査（於 御坂峠）
- ・平成19年1月14日（日） 研究報告 末木「甲斐の古道 若彦路」(於 県立博物館)
- ・同年19年3月10日（土） 研究報告 大隅「ヤマトタケル酒折宮伝承の再検討」(於 県立博物館)

活動内容と成果

上半期においては、甲斐と駿河・相模を結ぶ地域として、都留郡域をフィールドとした検討が中心に行われた（杉本報告・海老沼報告）。都留郡は、官道「御坂路（鎌倉街道）」が通り、古代の駅制では甲斐の三駅のうち二駅が置かれることから、交通上重要な役割を課せられていたものと考えられる。

上記の検討状況を踏まえて、10月に都留郡（河口湖周辺）の古道関連史跡を、11月に笛吹市御坂町藤野木地区から御坂峠にいたる道筋の踏査を実施した。

来年度への展望としては、年度末に行われた大隅報告により、酒折宮の伝承が6世紀頃の状況を反映したものであること、酒折が中央の人々からも認識された交通の要衝であったことが指摘された。また酒折宮が大和の「衢（チマタ）」に相当する地であった可能性が提起された。

本年度においては「交通」が重視されたことから、平成19年度は「交易」の歴史を考察することが課題のひとつとして確認された。大隅報告を受けて、6世紀代の交通・交易の実態を明らかにすることと、古代における「衢」関連の遺跡に関する検討が中心となろう。本年度と同様に、研究会を実施するとともに、報告書刊行に向けた作業を行う予定である。

「楯無鎧の謎を探る」

県立博物館担当職員

西川 広平（当館学芸員）

共同調査・研究員

竹村 雅夫（日本甲冑武具研究保存会常務理事）

西岡 文夫（日本甲冑武具研究保存会常務理事）

藤本 正行（国學院大學兼任講師）

活動記録

- ・平成18年7月14日（金） 報告書の内容検討（於 東京都内）
- ・同年10月27日（金） 執筆者による調査・研究報告（於 東京都内）
- ・平成19年1月23日（火） 報告書の編集打ち合わせ（於 東京都内）
- ・同年3月30日（金） 山梨県立博物館 調査・研究報告1『小桜韋威鎧 兜・大袖付 復元調査報告書 楯無鎧の謎を探る』（以下、『報告書』という。）刊行

活動内容と成果

平成18年度は、本調査・研究の最終年度にあたり、調査・研究成果をまとめた『報告書』を刊行することを目標に、研究会や編集の打ち合わせを実施した。

『報告書』は、平成17年度までに行った本鎧の実物資料調査と復元品の製作をふまえて、この内容を報告した「第一部 小桜韋威鎧の調査と復元製作」、及び本鎧に関する研究論稿を紹介した「第二部 小桜韋威鎧の研究」の二部に分けて編集することになった。以下は、『報告書』の内容構成と執筆者である。

序

調査・復元製作の記録

甲冑の名称	藤本 正行作図
第一部 小桜韋威鎧の調査と復元製作	
小桜韋威鎧調査報告	竹村 雅夫・西岡 文夫
小桜韋威鎧復元製作報告	西岡 文夫
第二部 小桜韋威鎧の研究	
鎧の構造・用語と小桜韋威鎧	藤本 正行
現「小桜黄返韋威鎧」の形成と相伝	竹村 雅夫
中世武家社会における武具継承の諸問題	
楯無鎧の伝承をめぐって	西川 広平

第一部では、兜の鉢、大袖の冠板、脇楯の壺板が平安時代の様式である一方、鎧の本体を構成する小札こさねや威韋おどしがわ、鍬形台、紋紙が鎌倉時代の製作と推測され、さらに戦国時代から江戸時代にかけて製作された据紋金物や絵韋が本鎧に使用されていること、また威韋はキハダの染料で着色されていることなど、調査の過程で確認できた本鎧の資料データを報告している。

第二部では、他の大鎧と比較して本鎧の特徴をまとめた藤本論稿、鎌倉期の武家における武具継承の事例の中で、本鎧の相伝を考察した竹村論稿、甲斐源氏・武田氏の家宝「楯無鎧」とされた本鎧をめぐり伝承を考察した西川論稿の三論稿を掲載している。

今後、本調査・研究の成果が、歴史学や甲冑史など様々な分野における研究で活用されることが期待される。

(3) 個別調査・研究

職員の調査・研究テーマ

番号	調査・研究テーマ	概要	担当職員
1	甲府城下町の道祖神祭りと都市社会に関する研究	江戸時代の甲府城下町で催された道祖神祭礼の実態分析をとおし、甲府城下町の特質を究明する。	高橋 修
2	博物館の環境整備に関する研究	博物館建設時からの環境整備について材料科学的な視点から調査研究を行う。	沓名 貴彦
3	仏像の構造に関する調査研究	透過X線撮影、ファイバースコープによる内部調査等を用いて、各時代における木造仏の構造について調査する。	近藤 暁子 沓名 貴彦
4	内陸部における生業復元方法の研究	動植物遺存体の貧弱さを補う生業復元方法の開発や、海産物の流通からみた沿岸部との関わりの追究など、内陸部特有の生業研究の課題を解明する。	植月 学 中山 誠二
5	中部高地における穀物栽培の起源に関する研究	縄文時代の穀類の痕跡を検出し、中部山岳地域の穀物栽培の実態を明らかにする。	中山 誠二 植月 学 沓名 貴彦
6	歌川広重の甲州日記に関する調査・研究	歌川広重が甲斐を旅した時の日記から、その旅の定義と、広重にとっての写生の意味を考える。	井澤英理子

調査・研究活動

年月日	内 容	担当職員
平成18年 4月 4日(火)	山梨岡神社太々神楽調査。	丸尾 依子
4月 6日(火)	笛吹市内個人宅 ひな人形調査。	丸尾 依子
4月20日(木)	甲府市個人宅 算術免許書2点を調査し、文字を解読。	高橋 修
5月14日(日)	南アルプス市 法善寺 文化財調査。	近藤 暁子 井澤英理子
5月30日(火)	甲府市個人宅 「散髪致候御届」1点を調査し、文字を解読。	高橋 修
5月31日(水)	甲府市 光沢寺 親鸞上人絵伝の調査。 笛吹市 広巖院 頂相の調査。	井澤英理子
6月 7日(水)	中央市 永源寺 観音菩薩像の調査。 同 歡盛院 薬師如来像の調査。	近藤 暁子
6月17日(土)	鯉沢町 妙現寺 十一面観音菩薩像の調査。	井澤英理子 近藤 暁子
6月27日(火)	都留市 広教寺 阿弥陀三尊像の調査。	近藤 暁子
6月29日(木)	南部町 塩沢区 薬師如来像ならびに 法雲庵 聖観音菩薩像の調査。	井澤英理子 近藤 暁子
7月 6日(木)	増穂町 南明寺 頂相彫刻の調査。 「甲州日記」身延道調査。	井澤英理子
7月20日(木)	笛吹市個人宅「古屋蜂城書屏風」六曲一隻を調査し、文字を解読。	高橋 修
8月 3日(木)	笛吹市個人宅 「上野家資料」25点を調査。平成18年8月27日(日)まで整理を行い、目録を作成。	高橋 修
8月 4日(金)	笛吹市 瑜伽寺 十二神将像の調査。	近藤 暁子
8月15日(火)	東京都 東京国立博物館 所蔵資料の調査。	近藤 暁子
8月17日(木)	甲州市 金剛寺 阿弥陀三尊像の調査。	近藤 暁子
8月18日(金)	甲府市 仁勝寺 聖徳太子像ならびに 都留市 広教寺 阿弥陀三尊像の調査。	近藤 暁子 (東北大学と共同調査)
8月23日(水)	奈良県明日香村 橘寺 「甲斐の黒駒」伝説調査。	廣瀬 正文 西川 広平
8月27日(日)	甲州市 放光寺 金剛力士像の調査。	近藤 暁子 (東北大学と共同調査)
9月 2日(土)	新潟県長岡市 新潟県立歴史博物館 甲冑・春日山城絵図調査。	西川 広平
9月17日(日)	甲斐市個人宅 「小宮山家資料」178点を調査。平成18年10月20日(金)まで整理を行い、目録を作成。	高橋 修
10月 8日(日)	鯉沢町個人宅 屏風類2点を調査し、文字を解読。	高橋 修
10月12日(木)	甲州市個人宅 石川政五郎肖像画・和歌を解読。	高橋 修
10月25日(水)	大月市個人宅 「徳川家康朱印状」他5点を調査し、文字を解読。	高橋 修
10月31日(火)	神奈川県小田原市 個人宅 川中島合戦図屏風他調査。	井澤英理子 西川 広平
11月10日(金)	東京都千代田区 国立国会図書館 県立博物館収蔵資料「七十一番職人歌合」関係文献の調査。	高橋 修
11月14日(火)	南アルプス市 市内寺院所蔵仏像の調査。	近藤 暁子
11月24日(金)	茨城県水戸市 茨城県立歴史館 「徳川家康書状」「榊原康政書状」の調査。	高橋 修
12月 8日(金)	東京都港区 東京都立中央図書館 「甲斐国絵図」の調査。	高橋 修
12月20日(水)	和歌山県高野町 高野山霊宝館 持明院蔵武田晴信像調査。	西川 広平
12月23日(土)	笛吹市個人宅 高札5点を調査し、文字を解読。	高橋 修
12月27日(水)	東京都台東区 日本学士院所蔵和算書24冊を調査。	高橋 修
平成19年 1月13日(土) から1月15日(月)まで	山梨県内道祖神調査	丸尾 依子
1月24日(水)	大月市原平遺跡出土遺物調査(大月市教育委員会)	中山 誠二
1月27日(土)	山梨市牧丘町西保地区 農村有線放送設備の調査。	小畑 茂雄
2月 3日(土)	甲府市個人宅 幡野家資料4点を調査し、解読。	高橋 修
2月 8日(木)	北杜市寺所第2遺跡、飯米遺跡出土遺物調査(北杜市教育委員会)	中山 誠二
2月 8日(木)	和歌山県高野町 高野山霊宝館 持明院蔵武田晴信像の調査。	西川 広平 海老沼真治
2月 9日(金)	静岡県藤枝市 志太郡衙資料館 古代郡衙及び藤枝堤関係文献調査。	西川 広平 海老沼真治
2月22日(木)	甲府市 山梨県衛生公書研究所 地方病撲滅・調査研究関係資料の調査。	小畑 茂雄

年月日	内 容	担当職員
3月1日(木)から 3月5日(月)まで	南西諸島における稲作の起源に関する調査。	中山 誠二 (東海大学と共同調査)
3月15日(木)	「甲州日記」御嶽道吉沢ルート調査(甲斐市教育委員会とともに)	井澤英理子 近藤 暁子
3月18日(日)	南アルプス市個人宅「依恩借後納事」1点を調査し、文字を解読。	高橋 修
3月27日(火)	甲府市個人宅 仏像の調査。	近藤 暁子

(4) 調査・研究成果の公表

県立博物館主催シンポジウム・講演会における職員の発表

第 編第5章(1) 45頁参照

職員の調査・研究実績

論文・調査報告など

担当職員	名 称	掲載誌名	学会(発行者)	発行年月日
植月 学	池田山北遺跡第8次調査出土の動物遺体	『池田山北遺跡』8	品川区教育委員会	平成18年 8月31日
植月 学	馬高式期におけるサケ・マス類の利用をめぐって	『火焔土器の時代 - その文化を探る -』	新潟県津南町教育委員会	平成18年 9月 2日
植月 学	コラムサンプル検出の脊椎動物遺体	『千葉東南部ニュータウン37 - 千葉市六通貝塚』	千葉県教育振興財団	平成19年 3月23日
植月 学	車居遺跡第2次調査出土の動植物遺体	『今宮遺跡・車居遺跡』	笛吹市教育委員会	平成19年 3月30日
植月 学	六通貝塚出土の動物遺体	『埋蔵文化財センター年報』19	千葉県教育振興財団 埋蔵文化財調査センター	平成19年 3月31日
植月 学	明治期の諏沢河岸における海産物利用の動物考古学的研究	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日
植月 金子 浩昌	中峠遺跡5次調査出土の動物遺体	『下総考古学』19	下総考古学研究会	平成18年 5月28日
小畑 茂雄	地域社会の形成(部分)	『山梨市史』通史編下巻	山梨市	平成19年 3月30日
匿名 貴彦	博物館建設における環境整備に関する研究 - 山梨県立博物館の建設を通して -	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日
高橋 修	堀田本「七十一番職人歌合」との対話 - 堀田正敦旧蔵資料を素材として近世学芸史を読み解く試み -	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日
高橋 修	山梨県立博物館ジオラマの楽しみ方1~7(連載)	『まちムー友の会会報』21~27	特定非営利活動法人つなぐ	平成18年 9月 ~平成19年 3月
高橋 修	小沢虎次郎の墓碑	『生誕二百年記念 アルコール漬けになった有隣 和算家小沢有隣・安長父子』	弦間耕一	平成18年10月25日
高橋 西川 広平	平成17年度 山梨県地方史研究の動向	『信濃』58-6	信濃史学会	平成18年 6月 1日
中山 誠二	レプリカ・セム法による植物圧痕土器の分析 - 山梨県油田遺跡出土の圧痕 -	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日
中山 匿名 貴彦 近藤 暁子	善光寺阿弥陀三尊像の脇侍像にみる像胎内納入鏡	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日
西川 広平	山本勘助と足軽	『山本勘助のすべて』	新人物往来社	平成18年12月 1日
西川 広平	石和から甲府へ 武田三代の足跡をたどる	『「風林火山」の古道をゆく』	集英社	平成18年11月29日
西川 広平	甲斐と駿河の梯 武田一族穴山氏の足跡	『戦国の猛虎 武田信玄』	UTYテレビ山梨	平成19年 1月31日
西川 広平	実力の世紀 - 勘助登場の背景 -	『山本勘助』	山梨日日新聞社	平成18年12月31日
西川 広平	楯無鑑の伝承をめぐって	『山梨県立博物館調査・研究報告 1 小枝韋威鑑 児・大袖付 復元調査報告書 - 楯無鑑の謎を探る -』	山梨県立博物館	平成19年 3月30日
西川 広平	信玄のいくさ	『かいじあむブックレット 武田信玄からの手紙』	山梨日日新聞社	平成19年 3月31日
丸尾 依子	山梨県立博物館のご案内	『民具マンスリー』39-2	神奈川大学日本常民文化研究所	平成18年12月10日
丸尾 依子	道祖神祭りの飾りものと地元意識	『山梨県立博物館研究紀要』1	山梨県立博物館	平成19年 3月31日

講演・シンポジウムなど

担当職員	名 称	シンポジウム名・学会名	開催年月日	場 所
井澤英理子	甲斐に遺された絵画	甲州市市民大学講座	平成18年12月16日(水)	甲州市民文化会館
植月 学	遺跡出土土骸の部位組成に関する基礎的研究	日本文化財科学会第23回大会	平成18年 6月17日(土)・ 6月18日(日)	東京学芸大学
植月 学	山梨県諏沢河岸跡における近世 - 近代の動物資源利用	第10回動物考古学研究集会	平成18年11月18日(木)	県立博物館
匿名 貴彦	フラットパネルディテクターを用いた文化財の엑스線構造調査	日本文化財科学会第23回大会	平成18年 6月17日(土)・ 6月18日(日)	東京学芸大学
近藤 暁子	仏像の見方	笛吹市民講座 スコレー大学 博物館連携講座	平成18年11月18日(水)	県立博物館
近藤 暁子	山梨の仏像	甲州市市民大学講座	平成18年12月13日(水)	甲州市民文化会館

担当職員	名 称	シンポジウム名・学会名	開催年月日	場 所
高橋 修	古文書解読講座（3回連続）	笛吹市民講座 スコレー大学	平成18年 6月17日（水）・ 6月14日（水）・ 6月21日（水）	県立博物館
高橋 修	描かれた江戸時代の甲斐国を歩く	山梨再発見講座「甲斐の古道」（山梨県生涯学習推進センター主催）	平成18年10月24日（火）	山梨県生涯学習推進センター
高橋 修	初心者のための古文書講座（4回連続）	笛吹市民講座 スコレー大学	平成18年11月18日（水）・ 11月15日（水）・ 11月22日（水）・ 11月29日（水）	一宮図書館
高橋 修	甲州市と徳川家康	甲州市市民大学講座	平成18年11月30日（木）	甲州市民文化会館
高橋 修	山梨県立博物館の評価方法	日本博物館協会博物館指導者研究協議会	平成19年 2月 1日（木）・ 平成19年 2月 2日（金）	県立博物館
高橋 修	花押と印の歴史 - 戦国時代から江戸時代にかけて -	山梨県印章店協同組合後継者育成事業	平成19年 3月17日（土）	甲府市民会館
中山 誠二	中部高地における出土書類	第10回動物考古学研究集会	平成18年11月18日（土）	県立博物館
中山 誠二	地域博物館の行方	日本博物館協会博物館指導者研究協議会	平成19年 2月 1日（木）・ 平成19年 2月 2日（金）	県立博物館
西川 広平	甲州市と武田信虎	甲州市市民大学講座	平成18年11月18日（水）	甲州市民文化会館
西川 広平	海の幸を運ぶ商人たちの道 - 中道往還 -	山梨再発見講座「甲斐の古道」（山梨県生涯学習推進センター主催）	平成18年11月14日（火）	山梨県生涯学習推進センター
西川 広平	市河文書にみる「山本菅助」	山本助助シンポジウム（山梨文化学園・山梨郷土研究会主催）	平成18年11月23日（木）	山梨文化会館
西川 広平	武田信玄の人物像	甲府中央ライオンズクラブ講演会	平成18年12月11日（金）	岡島ロイヤル会館
西川 広平	山本助助の実像をめぐって	笛吹市民講座	平成19年 1月28日（日）	学びの杜みさか
西川 広平	山本助助	アドバンスクラブ講座	平成19年 3月12日（月）	山梨県生涯学習推進センター
廣瀬 正文	山梨における博物館の考え方 - 地域政策としての博物館 -	日本博物館協会博物館指導者研究協議会	平成19年 2月11日（木）・ 平成19年 2月12日（金）	県立博物館
丸尾 依子	冬の道祖神祭り	山梨再発見講座「山梨の年中行事」（山梨県生涯学習推進センター主催）	平成18年10月15日（木）	山梨県生涯学習推進センター
丸尾 依子	正月と盆 - 冬と夏の道祖神祭り -	山梨再発見講座「山梨の年中行事」（山梨県生涯学習推進センター主催）	平成18年10月19日（木）	山梨県生涯学習推進センター

県立博物館館内研究会

開催年月日	担当職員	名 称
平成18年 5月 9日（火）	中山 誠二 沓名 貴彦 近藤 暁子	仏像の非破壊調査について
8月29日（火）	高橋 修	博物館の総合評価システム
8月29日（火）	稲田 正徳	入館者数分析による博物館の研究 - 博物館評価を中心に -

刊行物

名 称	発 刊 日	体 裁
『山梨県立博物館 調査・研究報告1 小椋韋威鎧 兜・大袖付復元調査報告書 - 楯無鎧の謎を探る - 』	平成19年3月30日	A4版、79頁
『山梨県立博物館研究紀要』第1集	平成19年3月31日	A4版、78頁
『かいじあむブックレット 武田信玄からの手紙』	平成19年3月31日	A5版、64頁

『かいじあむブックレット 武田信玄からの手紙』は山梨県立博物館監修、山梨日日新聞社発行であり、それ以外は全て山梨県立博物館編集・発行である。

第3章 資料の収集・保管・活用

(1) 資料収集の方針

資料収集の方針

山梨県立博物館における資料収集は、博物館の基本テーマである「山梨の自然と人」に関わるものを中心とする（山梨県立博物館の資料収集及び資料・情報の活用に関する要綱）。具体的には、以下の性格を有する資料を収集の対象とする。

絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で山梨県にとって歴史上または芸術上価値の高いもの並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料。

衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、その他の物件で県民の生活推移の理解のために欠くことのできないもの。

言葉、音楽、民間伝承、工芸技術等の無形のもので山梨県の文化の理解に欠くことのできないもの。

動物、植物及び地質鉱物で山梨県にとって前の項目と深い関わりのあるもの。

収集の対象とする資料のうち、その収集が困難なものについては、当該資料に係る模型、模造、模写、複製若しくは当該資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料を収集することとしている。

収集にあたっては、上記要綱のほか「山梨県立博物館の資料収集に関する要領」に従って収集を進めている。

資料・情報委員会

資料の収集の適否等について審議し、収集した資料、情報の活用について協議する「資料・情報委員会」を設置、開催している。

委員会は、7名の委員により構成されており、歴史、考古、民俗、美術工芸、情報工学等に関する高度な専門的知見を有する者の中から、山梨県立博物館館長が選任している。

資料収集委員会（資料・情報委員会）委員名簿

氏名	勤務先・役職等	専門分野
安達 文夫	国立歴史民俗博物館教授	情報工学
飯田 文彌	山梨県史編さん委員会近世部会長	歴史学
大塚 初重	元山梨県立考古博物館館長	考古学
清雲 俊元	山梨郷土研究会理事長	歴史学
笹本 正治	信州大学教授	歴史学
濱田 隆	元山梨県立美術館館長	美術史
堀内 眞	富士吉田市歴史民俗博物館学芸課長	民俗学

平成18年度の資料情報委員会開催一覧

- ・平成18年9月20日（水） 第2回委員会を開催

12件の収集候補資料の審議、1件の資料について収集の方針を検討したほか、資料・情報の利用者公開の手法について検討した。

(2) 資料の収集

今年度に収集した資料は、次表の通りである。

購 入

	資料名	概 要	制作期	員数
1	武田信玄書状	武田信玄が、原与左衛門尉の在陣の苦勞をねぎらうとともに、番替として、下伊那衆を代わりに派遣することを指示した古文書。原与左衛門尉は、『甲陽軍鑑』に足軽大将として紹介されている。また「山本菅助」の名が登場する北海道釧路市の市河文書にも、信濃国の豪族市河氏を支援するため、武田信玄が塩田（長野県上田市）から真田（上田市）に派遣した足軽として、その名が見える。	戦国時代	1点
2	七十一番職人歌合	中世における多様な職人の姿を描いたもの。関連する職業を持つ人物が二人一組で描かれ、それぞれの職人が歌を競い合うという形式で書かれている。いずれも「堀田文庫」の蔵書印が押され、大名堀田家の伝世品であることが大きな特徴である。	江戸時代	3巻

寄 贈

	資料名	概 要	制作期	員数
1	満蒙開拓団引揚関係書類	北巨摩郡上手村（現・北杜市明野町）から満州へ開拓移民として渡った者の引き揚げ記録。	昭和戦前	1点
2	浮世絵版画 一式	浮世絵を貼り込んだ冊子。歌舞伎芝居、役者絵を中心に、なまず絵や明治絵など、幕末から明治にかけての流行や風俗がわかる。表紙には柳町三丁目や魚町三丁目などの商家の名が記されているものもある。また浮世絵を貼った台紙も甲府や諏訪に関わる反故紙を用いている。	江戸 ～明治	466枚
3	富嶽三十六景 甲州伊沢暁 (葛飾北斎筆)	葛飾北斎の代表作、富嶽三十六景46枚のうち一枚。輪郭線が墨摺りのいわゆる「裏富士」にあたる。石和宿を見下ろし、朝焼けの霞雲の上から頭を出す富士を見上げる構図である。	天保2年 (1831)頃	1枚
4	算術免許書	市川大門の名主であり、文人としても著名であった小沢有隣が幕末期に授けられた算術免許書。江戸時代の甲州において和算免許が授けられたのはごく数例しか確認されていないため、本資料のように実物として現存するのは貴重である。	嘉永4年 (1851)・ 元治元年 (1864)	2巻

寄 託

	資料名	概 要	制作期	員数
1	森家資料	もと駿河国内房郷橋上村（現静岡県富士郡芝川町内房）に居住していた森家に伝わる資料。戦国時代に今川氏、穴山氏が発給した古文書等。	戦国時代～ 江戸時代	10点
2	韋駄天像	両手を合掌し、兜をかぶる、韋駄天の立像。玉顔嵌入で、寄木造。円光院ゆかりのものと伝える。	南北朝時代	1軀
3	曼荼羅本尊（日蓮筆）	日蓮が自らの信仰世界を表したもの。中央に「南無妙法蓮華經」を大書し、左右に釈迦牟尼仏、多宝如来、不動明王、愛染明王を書す。日蓮が書した曼荼羅本尊の中でも初期に属する形式をもつ。本遠寺の本尊として伝えられている。	鎌倉時代 (文永10年 頃)	1幅
4	曼荼羅本尊（日蓮筆）	日蓮が自らの信仰世界を表したもの。中央に「南無妙法蓮華經」を大書し、鬼子母神、十羅刹女を書す。図中に法華經の今此三界の一節を書していることから、「今此三界御本尊」といわれる。本遠寺の本尊として伝えられた。	鎌倉時代 (建治年間)	1幅
5	曼荼羅本尊（日蓮筆）	日蓮が自らの信仰世界を表したもの。中央に「南無妙法蓮華經」を大書し、左右に法華經を護持する諸尊を書す。妙了寺開山日了の母、妙了日仏尼にあたえられたもので、妙了寺の本尊として伝えられている。	弘安3年 (1280)	1幅
6	鰐口（県指定文化財）	富士北麓の日蓮宗寺院蓮華寺に伝わる鰐口。銘によると、享禄元年（1528）遠江国豊田郡の住人源長家が、浅間大菩薩の宝前に寄進したもの。	享禄元年 (1528)	1口

(3) 資料の整理・目録（データ）化

平成18年度は、新規収集した資料に加え、平成17年度に県立図書館より移管した資料（約85,000点）の整理と、目録（データ）化する作業を進めている。県立図書館移管資料については、平成23年度までの完了を目標として作業を進めている。また、登録データの公開作業も随時進めている。

資料の整理

新規に収集した未整理の資料について、保管容器への収納、ナンバリングを行う作業である。平成18年度は、引き続き職員による作業を進めているほか、9月、2～3月の2回整理作業員を雇用し、新規収集資料及び移管資料の整理を実施した。

収蔵資料のマイクロ化・デジタル化

県立図書館から移管した資料のうち、利用頻度が高い「甲州文庫」については、利便性を高めるため、平成16～17年度事業としてマイクロフィルムによる撮影、デジタル画像の作成を行い、全体の約9割が完了した。残りの資料については、さらに18～19年度の2ヶ年でマイクロ化・デジタル化を行うこととした。

本事業によって、甲州文庫資料のうち、古文書・図書・新聞雑誌類については、ほぼすべての資料のデジタル画像を公開できる予定である。

作業期間：平成18年12月～平成19年3月（株）ニチマイに委託

撮影点数：658点（25,000コマ）

図書資料のデータ登録

収集した図書・雑誌類のデータ登録を、職員により随時行っている。平成19年3月現在の登録件数は18,808点となっている。

（4）資料の修復・管理

資料の修復等及び状態調査

i 「武田信玄・上杉謙信像」の修復

土佐光起筆「武田信玄・上杉謙信像」紙本着色 二幅 各縦83.0×横38.2cm

資料の重要性

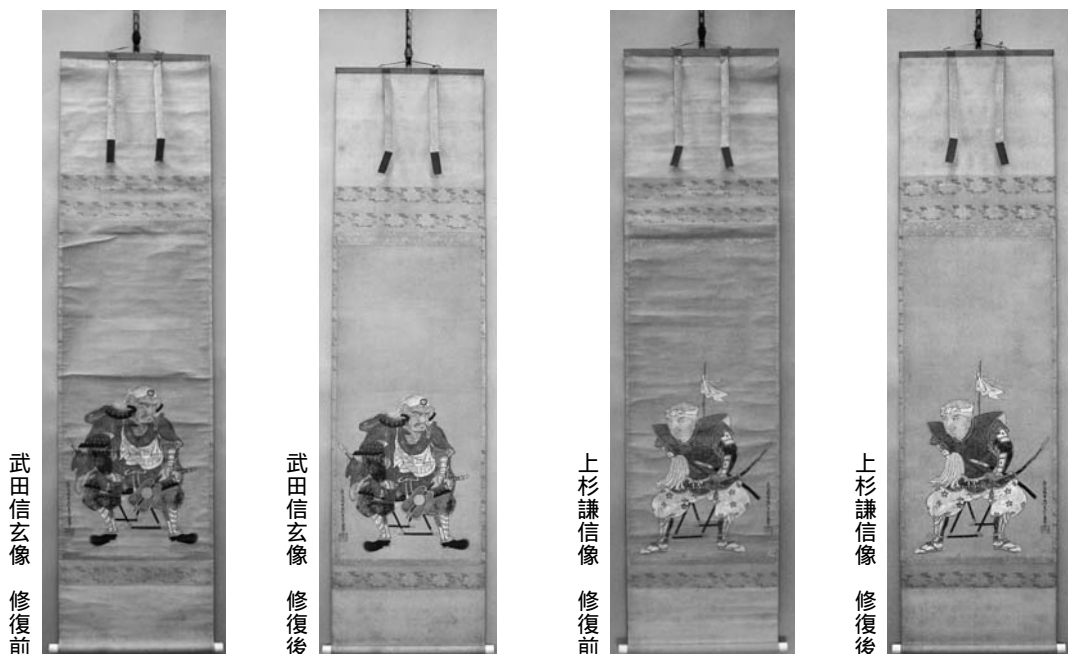
江戸時代前期、17世紀後半の制作であり、近世に盛んに描かれた信玄の軍陣影の最も初期の作品。松浦藩伝来品で、宮廷画家土佐光起の筆による。謙信と対幅であることも稀少。正系の絵師による優品であり、江戸時代の大名家における信玄像の受容例として貴重な資料。大河ドラマで武田信玄が注目されることもあり、信玄の代表的な画像として、展示や貸出を期待される資料である。

修復者

（株）墨仁堂 静岡県焼津市栄町5-8-5（修復作業所：同左）

修復の内容

本紙全体に縦横方向の折れが多数発生し、折れ山部分に亀裂、料紙の欠失が見られた。また、顔料の剥落、浮きが認められ、展示や移動によって破損が拡大するおそれがあった。そこで、本紙のクリーニング、剥落止め、欠損箇所の補修、裏打ちのしなおし等の措置、および太巻、桐箱を新調した。



ii 浮世絵版画のブックマット装

葛飾北斎「富嶽三十六景」木版多色摺 大判

歌川広重「富士三十六景」木版多色摺 大判

資料の重要性

浮世絵師を代表する北斎と広重がそれぞれ描いた富士の連作。江戸時代の富士に対するイメージや当時のくらしを知る好資料。

施工業者

(有)メセナ 東京都練馬区石神井町8-51-21

ブックマット装について

安全で見やすい展示をするために額装する必要があり、安全に入れ替えができ、なおかつ額の数を抑えられるよう、資料そのものに悪影響をあたえることのない技法と材料を用いた、統一規格のブックマット装を採用した。

iii 資料の状態調査

博物館が収蔵する資料は、非常に脆弱なもので構成されているものが多い。展示に活用し、後世に伝えるために、脆弱な部分を補修し、損傷しにくい状態にする必要がある。今後の修復・保存計画、安全な状態で資料の活用を行っていくために、専門家による詳細な資料24件35点の状態調査を行った。

調査者

(株)墨仁堂 静岡県焼津市栄町5-8-5 (調査作業場所：県立博物館)

調査資料一覧

	指定	資料名	形状	員数	点数	材質
1		曾我物語図屏風	屏風	六曲一双	2	紙本著色
2		曾我物語図屏風(又兵衛風)	屏風	六曲一双	2	紙本著色
3		源平合戦図屏風	屏風	六曲一双	2	紙本著色
4	県	甲州道中図屏風	屏風	六曲一双	2	紙本著色
5	県	法然上人絵伝	掛軸	二幅	2	絹本著色
6	重文	陶弘景聴松図	掛軸	一幅	1	紙本墨画淡彩
7		富岳図 池大雅筆	掛軸	一幅	1	紙本墨画
8		富士図 英一蝶筆	掛軸	一幅	1	絹本著色
9		唐美人図 狩野休白筆	掛軸	一幅	1	紙本墨画淡彩
10		武田信玄信州川中島出張之図	掛軸	一幅	1	紙、多色刷木版
11		富士山神宮并麓八海略絵図	掛軸	一幅	1	紙本墨摺著色
12		龍水の図 木喰行道筆	掛軸	一幅	1	紙本墨画
13		宝船図 木食白道筆	掛軸	一幅	1	紙本墨摺
14		酒折宮連歌図	掛軸	一幅	1	絹本著色
15		御嶽御坂図	掛軸	三幅	3	紙本著色
16		甲州道中身延詣図巻	卷子	一卷	1	紙本著色
17		六義園図	卷子	一卷	1	紙本著色
18		信玄堤絵図 甲	卷子	一卷	1	紙、彩色
19		信玄堤絵図 乙	卷子	一卷	1	紙、彩色
20		富士講経巻一括	卷子	三巻	3	紙本著色
21		武田信玄公備押作法之図	卷子	十一巻のうち一卷	1	紙本
22		古府中絵図	絵図	一鋪	1	紙本著色
23		武田晴信条目	文書	1巻	1	紙本、墨筆
24		のぞきからくり絵一式	民俗資料	十点のうち三点	3	紙、木、ガラス (色ガラス含む)

資料の保存環境管理

博物館では、資料を後世に伝えるために高いレベルで環境管理を行っている。これは、資料の物理的、化学的、生物的な劣化を防ぐためである。以下に、管理項目とその内容について示す。

温湿度管理

山梨県立博物館では文化財の収蔵・展示のため、精度の高い温度・湿度管理を行っている。収蔵庫は24時間空調を行い、展示室については深夜電力による蓄熱時間を除く間（8時～22時）空調を行っている。これらの管理は中央監視室にて監視し、毛髪式自記記録計及びデータロガーによる温度・湿度の計測を行っている。

展示ケースについても、エアタイトケースと呼ばれるケースについては調湿剤を使用して湿度のコントロールを行うとともに、毛髪式自記記録計、データロガーによる温度・湿度の計測を行っている。

空気質管理

空気質については、化学吸着フィルターと呼ばれるフィルターを収蔵庫、展示室の空調設備に設置し、外気及び循環気に含まれる有害ガスの除去を行っている。

照明

館内の照明のうち収蔵庫及び展示室内の照明には紫外線が極力発生しないものを用いている。特に紫外線が多く発生する蛍光灯は、美術・博物館用と呼ばれる紫外線吸収膜付の高演色形の蛍光灯を使用している。また、他の照明では各種ハロゲンランプを用いている。

また、照度は資料の材質や状態に合わせて管理を行っており、浮世絵や染織品のような非常に脆弱なものでは80ルクス以下、土器や金属器等あまり注意しなくてよいものは150ルクス程度の照明を行っている。

生物被害管理

燻蒸庫に入らない大型資料のために一時収蔵庫においてテント燻蒸を行った。期間は平成18年9月3日（日）から9月6日（水）である。燻蒸ガスにはエキヒュームSを使用した。（財）文化財虫害研究所の判定結果により、虫・菌共に充分効果があったことが示された。資料個別に対する燻蒸については適宜燻蒸庫で行った。

（5）資料の活用

山梨県立博物館では、収集した貴重な資料を後世に残し、将来を見通した利用を保障することを資料取り扱いの基本と考えている。保存に十分配慮した上で、資料を公開し、県民、博物館利用者の学習や調査研究等に活用するために、資料、情報の提供を行っている。

今年度は、調査研究のための原資料閲覧が、古文書等を中心として49件879点あった。

撮影は展示図録への掲載、調査研究などの目的で24件、546点あり、書籍等への掲載、テレビ番組での使用などの資料写真の貸出は、183件493点となっている。

また、県内外の博物館等での展示利用のために、7件248点の館外貸出を行った。

平成18年度歴史資料等利用状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
歴史資料等閲覧	件数	12件	3件	4件	3件	4件	5件	2件	2件	7件	1件	4件	2件	49件
	点数	104点	13点	30点	34点	34点	486点	6点	8点	37点	6点	115点	6点	879点
歴史資料等撮影	件数	2件	1件	0件	2件	2件	3件	1件	3件	2件	1件	6件	1件	24件
	点数	3点	3点	0点	11点	22点	440点	5点	39点	13点	6点	2点	2点	546点
歴史資料等使用 (フィルム使用等)	件数	6件	5件	11件	6件	8件	18件	17件	20件	25件	22件	21件	24件	183件
	点数	22点	10点	25点	19点	22点	70点	27点	89点	50点	52点	42点	65点	493点
歴史資料等貸出	件数	2件	0件	0件	0件	1件	2件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	7件
	点数	45点	0点	0点	0点	28点	139点	0点	36点	0点	0点	0点	0点	248点

第4章 展示

(1) 常設展示

展示資料一覧

・展示期間

- 平成18年 2月28日（火）から平成18年 4月23日（日）まで
- 平成18年 4月25日（火）から平成18年 6月25日（日）まで
- 平成18年 6月27日（火）から平成18年 8月20日（日）まで
- 平成18年 8月23日（水）から平成18年11月 5日（日）まで
- 平成18年11月 7日（火）から平成19年 1月 7日（日）まで
- 平成19年 1月 9日（火）から平成19年 3月 4日（日）まで
- 平成19年 3月 6日（火）から平成19年 5月27日（日）まで

・時代については、複製品は原資料の製作年代を記した。

・所蔵者については、複製品は()内に原資料所蔵者を記した。

・指定については、●は国宝、○は国指定重要文化財、△は県指定文化財、□は市町村指定文化財とした。なお、複製品は原資料の指定を記した。

・絵画・古文書等、脆弱な資料の展示期間が複数にわたる場合は、その都度頁替え、巻替などを行っている。

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
自然の森の中で				
桂野遺跡渦巻文土器	縄文中期	笛吹市教育委員会		
釈迦堂遺跡渦巻文土器	縄文中期	釈迦堂遺跡博物館		
縄文土器片、石器	縄文中期	山梨県立考古博物館		
甲斐の誕生				
甲斐国分寺瓦（鬼瓦）	奈良	笛吹市教育委員会		
甲斐国分寺瓦（平瓦・丸瓦）	奈良	笛吹市教育委員会		
甲斐国分寺墨書土器	奈良	笛吹市教育委員会		
郷名墨書土器「石禾東」	平安	笛吹市教育委員会		
郷名墨書土器「玉井郷長」	平安	笛吹市教育委員会		
刻書土器「甲斐国山梨郡大野郷」(複製)	奈良	山梨県立博物館（佐久市教育委員会）		
刻書土器「甲斐国山梨郡表門」	奈良	甲府市教育委員会		
寺本麿寺 瓦	白鳳	笛吹市教育委員会		
天狗沢瓦窯跡 瓦	白鳳	甲斐市教育委員会		
平城京出土木簡 馬司食糧伝票木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 馬司食糧伝票木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 馬司食糧伝票木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 習書・戯画木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 山梨郡貢進物付札木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 山梨郡貢進物付札木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
平城京出土木簡 山梨郡養物銭荷札木簡（複製）	奈良	山梨県立博物館（奈良文化財研究所）		
甲斐国印（推定復元）	奈良	山梨県立博物館（正倉院宝物）		
正倉院文書「甲斐国司解」(複製)	奈良	山梨県立博物館（正倉院宝物）		
東畑遺跡金銅仏	奈良	甲府市教育委員会		
正倉院文書「駿河国正税帳」(複製)	天平10年（738）	山梨県立博物館（正倉院宝物）		
甲斐の黒駒				
大塚古墳出土横剗板鉄留短甲（複製）	古墳	山梨県立博物館（市川三郷町教育委員会）		
狐原遺跡 焼印	平安	上野原市教育委員会		
古柳塚古墳 馬具	古墳	笛吹市教育委員会		
塩部遺跡 馬下顎骨	古墳	山梨県立考古博物館		
伝豊富村 衝角付冑（複製）	古墳	山梨県立博物館（東京国立博物館）		
伝豊富村 盾庇付冑（複製）	古墳	山梨県立博物館（東京国立博物館）		
中田遺跡 鈴		韮崎市教育委員会		
平林2号墳 馬具	古墳	山梨県立考古博物館		
平林2号墳太刀、鉄鉾一括	古墳	山梨県立考古博物館		
平城京出土木簡 通行証明木簡（過所木簡）(複製)	奈良	山梨県立博物館		
宮間田遺跡「牧」墨書土器	平安	北杜市教育委員会		
湯沢遺跡 鈴	平安	北杜市教育委員会		
正倉院文書「駿河国正税帳」(複製)	天平10年（738）	山梨県立博物館（正倉院宝物）		
水に取り組む				
四方津村四ヶ村組合手雨乞に付諸入用扣		山梨県立博物館		
普請目論見鑑	江戸	山梨県立博物館		
雨乞いの仏像		清水寺		
塩部遺跡 木製人形	平安	山梨県立考古博物館		

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
石尊祭の葦束 測量器（複製） 墨書土器「水神」 宮沢中村遺跡網代護岸 御幸祭川除の石 信玄堤絵図（千野家資料） 雨乞の辨 市川蹴沢方面河川氾濫絵図 武田家朱印状 徳川家康奉行連署状（三井家資料） 甲斐叢記 信玄堤絵図 信玄堤塘図面 徳島平左衛門二百選忌蔓茶羅本尊 算方地方大成	平成14年（2002） 江戸 平安 鎌倉 平成15年（2003） 江戸 万延元年（1860） 大正 慶長6年（1601） 嘉永4年（1851） 明治3年（1870） 明治17年（1870） 天保8年（1837）	山梨県立博物館 山梨県立博物館（個人） 忍野村教育委員会 山梨県立考古博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館		
戦国からのメッセージ				
織田信長禁制（本庄家文書） 武田家朱印状 徳川家康禁制（南松院資料） 妙法寺記写本 勝山記写本 平成18年度筒粥占標（小室浅間神社） 平成19年度筒粥占標（小室浅間神社） 筒粥神事の道具	天正10年（1582） 元亀2年（1571） 天正10年（1582） 江戸 江戸 平成18年（2006） 平成19年（2007） 昭和	山梨県立博物館 山梨県立博物館 南松院 山梨県立博物館 個人 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館		
山に生きる				
林業の小道具を象った小正月のツクリモノ 江戸城西之丸御用捨板（佐野家資料） 材木伐出図巻 佐野山御小屋見取図（甲州文庫） 佐野山御小屋注文書（甲州文庫） 武田家朱印状（田辺家資料） 徳川家康朱印状（田辺家資料） 徳川家康朱印状（田辺家資料） 大鋸 甲斐叢記 甲州金（一分金 甲州文庫） 焼畑衣装（再現品） 焼畑農事日記 京ヶ島村高反別改名寄帳（斎藤家資料） 市川御役紙入札触書（甲州文庫） 市川御用紙入札につき覚（甲州文庫）	昭和 天保9年（1838） 江戸 19世紀 江戸 江戸 永禄3年（1560） 天正10年（1582） 文禄2年（1593） 昭和 江戸 19世紀 江戸 昭和 大正 享保10年（1725） 江戸 江戸	山梨県立博物館 個人 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館		
里にくらす				
身延参詣甲州道中膝栗毛 煙草包装紙（峡中広告集） 凧図（上野晴朗氏収集資料） おかぶと（上野晴朗氏収集資料） 地神さん 煙草箱（甲州文庫） 千野村絵図（複製） 甲斐叢記 水車小屋利用規約 勝沼の葡萄棚写真 五体字頭 新板凧尽 煙草入れ 早見塵劫記（大木家資料） 四郡惣高帳 白柿製造法（甲州文庫） 孤が人を化かす図 小野篁歌字尽（甲州文庫） 字指（甲州文庫） 早割塵劫記大成（大木家資料） 農業全書（市川家資料） 星つくり（甲州文庫） 萬世塵功記 天道方位 家相図 大蛇になりし女の事	江戸 明治 昭和 明治 江戸 19世紀 江戸 19世紀 近代 江戸 明治16年（1883） 近代 江戸 江戸 近代 江戸 江戸 江戸 江戸 江戸 宝永2年（1905） 江戸	山梨県立博物館 山梨県立博物館		

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
城下町の賑わい				
甲斐名所寿古六	江戸	山梨県立博物館		
甲府八日町正月初売之景	江戸	山梨県立博物館		
徒党強訴逃散を訴人すべき高札		山梨県立博物館		
武者飾りセット	明治	山梨県立博物館		
はぎれ及び箱（大木家資料）		山梨県立博物館		
甲府城跡出土鯉瓦	江戸	山梨県立考古博物館		
甲府城下絵図	江戸	山梨県立博物館		
甲府上水木簡		甲府市水道資料館		
数寄屋曲輪出土大型円形瓦	安土桃山 16世紀	山梨県立考古博物館		
本丸出土花菱紋瓦	江戸	山梨県立考古博物館		
輪宝	江戸 17世紀	山梨県立考古博物館		
御高札写（甲州文庫）		山梨県立博物館		
升太屋広告（升太屋広告集）（甲州文庫）	江戸	山梨県立博物館		
升屋広告（甲州文庫）		山梨県立博物館		
高札（飯嶋一郎氏収集資料）	慶応4年（1868）	山梨県立博物館		
印伝屋ちらし（甲州文庫）	江戸	山梨県立博物館		
峡中広告集（甲州文庫）		山梨県立博物館		
甲州道中記（甲州文庫）		山梨県立博物館		
甲府買物独案内（甲州文庫）	江戸	山梨県立博物館		
升屋の写真（甲州文庫）	近代	山梨県立博物館		
矢来高札立直しに付入札（甲州文庫）	天和2年（1682）	山梨県立博物館		
菓子値段書上（甲州文庫）	江戸	山梨県立博物館		
明治期の甲府城写真（井上家資料）	明治	山梨県立博物館		
いろいろ手拭いかぶりかた		山梨県立博物館		
甲府上府中組火消法被并纏図（甲州文庫）	江戸	山梨県立博物館		
柳町家数間数改帳（甲州文庫）	享和3年（1803）	山梨県立博物館		
小田原屋ちらし（上野晴朗氏収集資料）	江戸	山梨県立博物館		
水晶チラシ（上野晴朗氏収集資料）	近代	山梨県立博物館		
古棋	文政12年（1829）	山梨県立博物館		
菓子法書	文化6年（1809）	山梨県立博物館		
道祖神御祭礼祝儀并諸入用控	文政3年	山梨県立博物館		
久保倉より市川喜左衛門宛残金差送り安否伺い書簡（頼生文庫）	江戸	山梨県立博物館		
甲州道中道法（福島家資料）	江戸	山梨県立博物館		
盆石の道具（大木家資料）		山梨県立博物館		
柳町大神宮姫様と山車写真（若尾資料）	近代	山梨県立博物館		
峡中商品包装袋集（甲州文庫）		山梨県立博物館		
変貌する景観				
絵本宝能纏	江戸	山梨県立博物館		
甲州道中膝栗毛	江戸	山梨県立博物館		
職人尽歌合	江戸	山梨県立博物館		
並山日記	江戸	山梨県立博物館		
身延山道中記	江戸	山梨県立博物館		
村明細長	江戸	山梨県立博物館		
中央線電化記念写真帖	昭和	山梨県立博物館		
山梨県甲府勤業場之図（甲州文庫）	明治	山梨県立博物館		
甲府勤業試験場出土ワイン瓶	明治			
日本山海名産図絵	江戸	山梨県立博物館		
七十一番職人歌合	江戸	山梨県立博物館		
府県長官銘々伝	明治	山梨県立博物館		
離縁状	江戸	山梨県立博物館		
升田屋広告集（甲州文庫）		山梨県立博物館		
中央線甲府ステーション石版図	明治36年（1903）	山梨県立博物館		
離縁状	江戸	山梨県立博物館		
離縁状（大木家資料）	江戸	山梨県立博物館		
離縁状（渡辺家資料）	江戸	山梨県立博物館		
勤業場称呼の違（甲州文庫）	明治7年（1874）	山梨県立博物館		
中央線停車場之図	明治	山梨県立博物館		
未来の甲州（甲州文庫）	明治	山梨県立博物館		
絹糸（繭糸検査事務所資料）	現代	山梨県立博物館		
山繭の糸（繭糸検査事務所資料）	現代	山梨県立博物館		
山梨県製糸家十傑当選者石版図	明治41年（1908）	山梨県立博物館		
勤業場製造葡萄酒販売保証書	明治11年（1878）	山梨県立博物館		
東宮殿下奉迎送に関する書類（若尾資料）		山梨県立博物館		
堀田本七十一番職人歌合	江戸	山梨県立博物館		
信仰の足跡				
渡唐天神像	室町 16世紀	南松院		
阿弥陀如来及両脇侍像	平安 12世紀	善光寺		
蔵王権現懸仏	南北朝	杣口金櫻神社		

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
鱈口 役行者像（複製） 甲斐勝沼柏尾経塚出土経筒（複製） 金峰山出土品（釘、古銭、鏡、薙鎌） 蔵王権現立像 地藏菩薩立像 富士山五合五勺経ヶ岳出土経巻（複製） 愛染明王坐像（複製） 韋駄天像 曼荼羅本尊（複製） 陶弘景聴松図	戦国 16世紀 平安 12世紀 康和5年（1103） 平安 明治 平安 12世紀 乾元2年（1303） 平安 平安 12世紀 南北朝 弘安元年（1278） 室町 15世紀	蓮華寺 山梨県立博物館（円楽寺） 山梨県立博物館（東京国立博物館） 甲府市教育委員会 山梨県立博物館 個人 山梨県立博物館（個人） 山梨県立博物館（放光寺） 個人 山梨県立博物館（海長寺） 山梨県立博物館		平成19年1月2日 - 同28日
甲斐を駆ける武士たち				
小笠原流兵法書 小笠原流礼法書（婚礼） 犬追物図説 関東下知状（複製） 長寛勘文写本（複製） 銅製経筒および付属品（複製） 源平合戦図屏風 信玄公御屋形図 甲斐国志 武田勝頼書状 武田晴信書状 楯無鑑復元品 甲陽軍鑑 諏訪神号旗（複製） 孫子の旗（複製） 愛染明王坐像（複製）	江戸 江戸 17世紀 江戸 応長元年（1311） 江戸 建久8年（1197） 江戸 17世紀 江戸 江戸 19世紀 室町 16世紀 室町 16世紀 江戸 17世紀 室町 室町 平安 12世紀	山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館（大善寺） 山梨県立博物館（熊野神社） 山梨県立博物館（個人） 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館（菅田天神社） 山梨県立博物館 山梨県立博物館（恵林寺） 山梨県立博物館（恵林寺） 山梨県立博物館（放光寺）	◎	
川を彩る高瀬舟				
覚 甲陽算鑑童蒙知津 新板色刷甲斐国絵図 身延山道中記金草鞋 甲斐叢記 鯨沢河岸跡出土ガラス瓶 鯨沢御蔵台鯨沢河岸跡の出土遺物 鯨沢河岸跡出土泥面子 富士川舟運関係会社印鑑類 商法便覧（甲州文庫） 曳船図 算術免許書 峡算須知 峡算法 富士川水運積荷木札	江戸 江戸 江戸 江戸 江戸 明治 大正 江戸 明治 明治 明治 明治 近代 江戸 寛政5年（1793） 江戸	山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立考古博物館 山梨県立考古博物館 山梨県立考古博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館		
道がつかなく出会い				
富岡鉄斎筆 甲斐猿橋図（大木コレクション） 歌川広重筆 甲斐猿橋之図 右左口鑑札 右左口焼印 石櫃 徳川家康朱印状（右左口区有文書） 羽柴秀勝印判状（右左口区有文書） 右左口村絵図（右左口区有文書） 右左口人形 差上申一札之事（右左口区有文書） 枳 渥美短頸壺 新巻常滑大甌 駒橋出土埋蔵銭 青磁碗 瀬戸焼 染付皿 染付碗 躑躅ヶ崎館跡出土陶磁器 灰釉皿 東原 常滑甌 無紋碗 木喰五行作 弘法大師像 甲州道中分間延絵図写本	明治 19世紀 天保13年頃（1842） 江戸 江戸 江戸 大正10年（1582） 天正18年（1590） 天保13年（1842） 江戸 宝暦10年（1760） 弘化3年（1846） 平安 室町 室町 室町 鎌倉 室町 室町 戦国 室町 鎌倉 室町 寛政13年（1801） 江戸	山梨県立博物館 山梨県立博物館 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 右左口宿区 個人 個人 個人 個人 山梨県立博物館 個人 個人 個人 甲府市教育委員会 個人 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館 山梨県立博物館		

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
英一蝶筆 富士図	江戸 18世紀	山梨県立博物館		
賀茂季鷹著 不二日記(富士日記写本)	江戸	山梨県立博物館		
歌川貞秀筆 大日本富士山絶頂之図	安政4年(1857)	山梨県立博物館		
歌川芳虎筆 滑稽富士詣(甲州文庫)	万延元年(1860)	山梨県立博物館		
河村岷雪筆 百富士(甲州文庫)	明和4年(1767)	山梨県立博物館		
歌川国輝筆 富士山諸人参詣之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
狩野宗信筆 富士図(大木コレクション)	江戸 18世紀	山梨県立博物館		
池大雅筆 富岳図	江戸 18世紀中頃	山梨県立博物館		
甲州道中図屏風	江戸	山梨県立博物館		
歌川広重筆 六十余州名所図会 甲斐 さるはし	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
江戸文化の往来				
「甲斐国志」写本(甲州文庫)	江戸	山梨県立博物館		
「甲斐国志」草稿本(森嶋家文書)	江戸 19世紀	都留市		
金井村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
新屋村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
下吉田村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
川口村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
白野宿絵図	文化3年(1806)	都留市		
上暮地村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
成沢村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
大幡村絵図(森嶋家文書)	文化3年(1806)	都留市		
歌川国芳筆 甲越武勇伝	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川貞秀筆 川中島大合戦之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川芳員筆 永祿四年九月川中島大合戦	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川芳虎筆 天文二十三年武田上杉川中島大合戦図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川国芳筆 川中島合戦	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川芳綱筆 西條山引返之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川芳虎筆 信州川中島大合戦之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
落合芳幾筆 川中島大合戦之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川貞秀筆 川中島大合戦 川中島 真田昌幸筑摩川一番乗	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川貞秀筆 川中島大合戦	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
歌川国芳筆 武田上杉川中島大合戦図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
甲府道祖神祭幕絵「東都名所 目黒不動之瀧」(歌川広重筆)(複製)	天保12年(1841)	山梨県立博物館		
三代歌川豊国 謙信武田の旗本へ乱入之図	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
竹邨三陽筆 群鹿図屏風(大木コレクション)	天保13年(1842)	山梨県立博物館		
竹邨三陽筆 夏山遠望図屏風(大木コレクション)	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
天龍道人筆 山水図屏風(大木コレクション)	江戸 18~19世紀	山梨県立博物館		
天龍道人筆 葡萄図(大木コレクション)	享和元年(1801)	山梨県立博物館		
狩野派 老松叭哥鳥図(大木コレクション)	江戸 18世紀	山梨県立博物館		
谷文晁筆 松梅図(大木コレクション)	江戸 19世紀	山梨県立博物館		
撫子図屏風(大木コレクション)	江戸 18世紀	山梨県立博物館		
耕作図屏風(大木コレクション)	江戸 18世紀	山梨県立博物館		
狩野休円筆 唐美人図(大木コレクション)	江戸 17世紀	山梨県立博物館		
転換期に向き合う				
勝沼駅近藤勇騎勇之図	明治	山梨県立博物館		
近世侠客有名鑑	明治	山梨県立博物館		
甲州栞		山梨県立博物館		
一ツどせいぶし甲斐の評ばん大小切		山梨県立博物館		
無宿一件御書写	江戸	山梨県立博物館		
安五郎から兄甚兵衛宛書簡	江戸	個人		
世直鑑		山梨県立博物館		
依恩借後納之定	江戸	山梨県立博物館		
東京日日新聞	明治	山梨県立博物館		
西野村幸蔵被取遣候品凡調帳	江戸	山梨県立博物館		
天保騒動の瓦版(甲州文庫)	江戸	山梨県立博物館		
皇国一新見聞誌(甲州文庫)	明治	山梨県立博物館		
甲府大功記		山梨県立博物館		
天保騒動の瓦版	江戸	山梨県立博物館		
嘉永七年ペリー来航二付覚(福島家資料)	江戸	個人		
品川沖台場図(福島家資料)	江戸	個人		
柏尾山合戦図	明治	山梨県立博物館		
巨富を動かす				
貴族院議員多額納税者互選名簿	明治27年(1894)	山梨県立博物館		
甲州産物書上帳(篠原家文書)	安政6年(1859)	山梨県立博物館		
相場に関する書簡	安政6年(1859)	山梨県立博物館		
東山梨郡町村取調書	大正5年(1916)	山梨県立博物館		
おもちゃ籠	大正4年(1915)	山梨県立博物館		
甲武鉄道(甲州文庫)	明治29年(1896)	山梨県立博物館		
大日本金満家一覧鑑(若尾資料)	明治36年(1903)	山梨県立博物館		

資料名	時代	所蔵者	指定	展示期間
電燈及電力事業許可願	明治29年(1896)	山梨県立博物館		
練絲痕(甲州文庫)	昭和9年(1934)	山梨県立博物館		
風俗画報増刊第337号小金井名所図会(甲州文庫)	明治23年(1890)	山梨県立博物館		
若尾逸平扇面		山梨県立博物館		
若尾稲作改良試験場成績表(関本家文書)		山梨県立博物館		
甲州屋の横浜進出に関する書簡	安政6年(1859)	山梨県立博物館		
共生する社会				
水害の様子を伝える絵はがき	明治	山梨県立博物館		
米軍機が撒いたビラ	昭和	山梨県立博物館		
満蒙開拓団引揚関係書類		山梨県立博物館		
E46集束焼夷弾(模型)	昭和	山梨県立博物館		
戦争中の雑誌	昭和	山梨県立博物館		
戦争中のいろはかるた	昭和	山梨県立博物館		
水害時に使用した舟	昭和	山梨県立博物館		
地方病克服に向けて使用された実物道具類	昭和	衛生公害研究所		
地方病予防溝渠プレート	昭和36年(1961)	山梨県立博物館		
「俺は地方病博士だ」	大正	衛生公害研究所		
スチブナール	昭和	衛生公害研究所		
少年倶楽部	昭和	山梨県立博物館		
水害地視察報告資料		山梨県立博物館		
水害地巡視日記		山梨県立博物館		
第二回民間保有金属特別回収二関スル事		山梨県立博物館		
地方病予防撲滅事業二就テ(甲州文庫)		山梨県立博物館		
翻訳断毒論	江戸	山梨県立博物館		
徴兵保険証書(大木家資料)		山梨県立博物館		
山梨県下大洪水宮本流壮士かぞえ歌(甲州文庫)		山梨県立博物館		
学校防空指針(樋口家資料)		山梨県立博物館		
富士川国民学校要覧(大木家文書)		山梨県立博物館		
明治四十年水害に関する参考書		山梨県立博物館		
保存の現場				
武者人形(大木家資料)	明治	山梨県立博物館		

(2) 企画展・シンボル展

企画展・シンボル展の会場は全て当館企画展室である。またシンボル展の主催は全て県立博物館である。

開催企画展・シンボル展一覧

	展覧会名	会期
企画展	i 開館記念特別展 よみがえる武田信玄の世界	平成18年 3月28日(火)から同年 5月14日(日)まで
	ii 夏休み企画展 やまなしはじめて物語	平成18年 7月25日(火)から同年 8月20日(日)まで
	iii 開館一周年記念特別展 祈りのかたち - 甲斐の信仰 -	平成18年10月14日(土)から同年11月20日(月)まで
シンボル展	i 甲州の絵図・地図	平成18年 5月23日(火)から同年 6月11日(日)まで
	ii 葛飾北斎 富嶽三十六景	平成18年 6月13日(火)から同年 7月 9日(日)まで
	iii ぶどうと葡萄酒 - 国登録有形民俗文化財 勝沼のぶどう栽培および葡萄酒醸造用具 -	平成18年 8月 1日(火)から同年10月 1日(日)まで
	iv 江戸・大正・平成の「県史」編さん	平成18年11月29日(水)から同年12月24日(日)まで
	v 国宝 夏・秋・冬景山水図 - 室町將軍のたからもの -	平成19年 1月 2日(火)から同年 1月28日(日)まで
	vi オオカミがいた山 - 消えたニホンオオカミの謎に迫る -	平成19年 2月 6日(火)から同年 3月18日(日)まで

その他、平成19年2月6日(火)から同年3月18日(日)まで、当館ロビーに「風林火山 武田、上杉の武将たち」という特設展示コーナーを設けた。

企画展

i 開館記念特別展 よみがえる武田信玄の世界

【会 期】 平成18年3月28日(火)から同年5月14日(日)まで

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【後 援】 朝日新聞甲府総局、NHK甲府放送局、産経新聞甲府支局、テレビ山梨、日本経済新聞甲府支局、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、読売新聞甲府支局、笛吹農業協同組合、山梨県観光物産連盟、信玄公祭り実行委員会

【入場者数】 18,833人

【担 当】 学芸員 西川広平、海老沼真治

【概要】

戦国時代の甲斐国を治め、信濃国（長野県）、駿河国（静岡県）など周辺の地域に進出した戦国武将武田信玄（1521～1573）は、今日でも山梨を代表する人物として多くの人々に親しまれている。

本展では、信玄の肖像画や古文書、工芸品、考古資料などを展示し、信玄に関わる最新の研究成果とおして、その実像を探るとともに、一族・家臣など信玄をとりまく人々や信玄が生きた戦国時代の社会の様子などを紹介した。

さらに、江戸時代以降、現代に至るまで、信玄の事績が生業や生活の拠り所として伝承されたことや、文学作品や浮世絵、祭りなどの中で信玄自身の姿が再生されて語り継がれるなど、山梨内外の人々に受け止められてきたことを紹介した。

【開館記念特別展連絡会議】

展示監修員名簿

氏名	勤務先・役職等	専門分野
笹本 正治	信州大学教授	歴史学（中世史）
萩原 三雄	帝京大学山梨文化財研究所所長	考古学
西田 かほる	静岡文化芸術大学専任講師	歴史学（近世史）
堀内 眞	富士吉田市歴史民俗博物館学芸課長	民俗学
守屋 正彦	筑波大学教授	美術史

資料収集調査員名簿

氏名	勤務先・役職等	専門分野
石川 博	駿台甲府高等学校教諭	文学
数野 雅彦	山梨郷土研究会企画運営委員長	考古学
白水 智	中央学院大学助教授	歴史学（中世史）
畑 大介	帝京大学山梨文化財研究所室長	考古学
林 陽一郎	甲府市文化振興指導員	歴史資料

【関連イベント】

伝統芸能実演 山梨岡神社太々神楽

- ・開催日 平成18年4月2日（日）午後2時～
- ・会場 山梨県立博物館エントランスロビー
- ・実演 山梨岡神社太々神楽舞子
- ・演目 「四剣の舞（久米舞）」・「祝詞舞」

講演会「武田信玄とその世界」

- ・開催日 平成18年4月8日（土）午後1時30分～
- ・会場 恩賜林記念館
- ・講師 西川広平（当館学芸員）

シンポジウム「よみがえる武田信玄の世界」

- ・主催、共催 山梨県立博物館、山梨郷土研究会、武田氏研究会
- ・開催日 平成18年4月23日（日）午前10時～
- ・会場 山梨県総合教育センター 大研修室
- ・内容 基調講演「日本列島の中の武田家領国」峰岸純夫（東京都立大学名誉教授）
 - 報告1 「信玄の家臣団」 平山 優（武田氏研究会編集委員）
 - 報告2 「信玄の生涯」 秋山 敬（山梨郷土研究会常任理事）
 - 報告3 「信玄の事跡」 西川広平（当館学芸員）



展示風景

かいじあむ子ども信玄公祭り

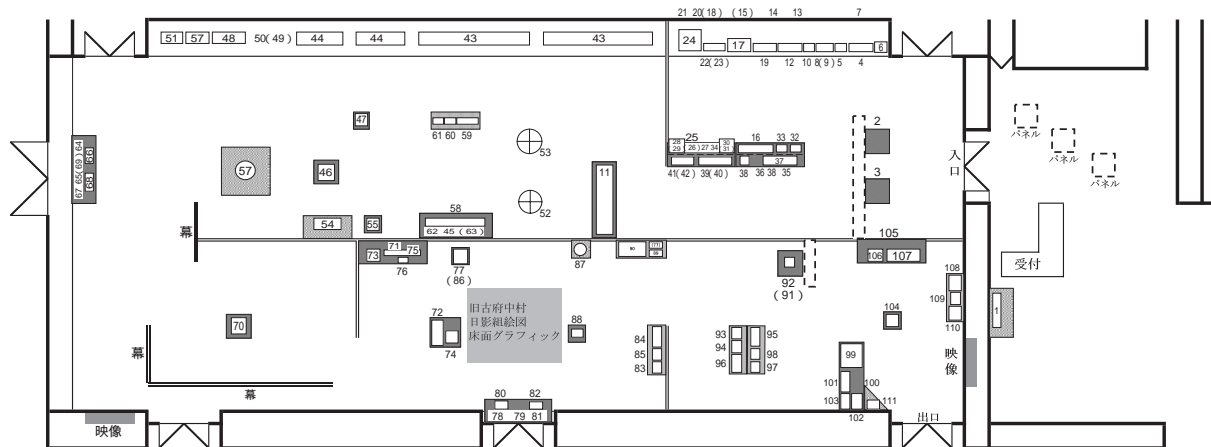
- ・開催日 平成18年5月3、4日（水、木）午前11時～
- ・会場 体験学習室、つどいの広場
- ・内容 弓技大会、鎧の試着と撮影会、陣中食試食会など

【出品資料一覧】

番号	資料名	所蔵者	点数	指定	展示項目
1	甲州風	南アルプス市 個人	1		街角にみる武田信玄
2	絹本着色 武田晴信像	和歌山県 持明院	1		信玄の素顔を探る
3	絹本着色 武田信玄像	和歌山県 成慶院	1	重要文化財	
4	甲州法度之次第	東京都 東京大学法学部	1		
5	恵林寺領検地帳	甲州市 恵林寺	2	山梨県指定文化財	
6	宝鈴	長野県 諏訪大社	1		
7	紙本着色 歌器の図	甲州市 熊野神社	1	山梨県指定文化財	
8	武田晴信願文（天文十四年）	滋賀県 多賀大社	1	滋賀県指定文化財	
9	武田晴信判物（弘治三年）	山梨県立博物館	1		
10	武田家朱印状（永禄十一年）	甲府市 善光寺	1		
11	木造狛犬	山梨市 大井俣窪八幡神社	6	山梨県指定文化財	
12	武田信玄判物（諏訪上下宮祭祀再興次第）	長野県 諏訪大社	2	諏訪市指定文化財	
13	紙本着色 刀八毘沙門天像図	甲州市 熊野神社	1	山梨県指定文化財	
14	紙本着色 飯縄権現像図	甲州市 熊野神社	1	山梨県指定文化財	
15	絹本着色 猿図	東京都 東京国立博物館	1	重要文化財	
16	金銅金具装筥	甲府市 大泉寺	2	山梨県指定文化財	
17	板絵著色 三十六歌仙図	笛吹市 美和神社	2	山梨県指定文化財	
18	絹本着色 快川国師像図	甲州市 恵林寺	1	甲州市指定文化財	
19	紺紙金泥般若心経	笛吹市 浅間神社像	1	重要文化財	
20	紙本着色 渡唐天神像	甲州市 恵林寺	1	山梨県指定文化財	
21	紙本着色 渡唐天神像	甲府市 一蓮寺	1	山梨県指定文化財	
22	倭漢連句	甲府市 積翠寺	1	甲府市指定文化財	
23	甲斐国志	山梨県立博物館	1		
24	茶釜・茶柄杓・裏・刷毛ほか	甲府市 武田神社	一式		
25	絹本着色 武田信虎像	甲府市 大泉寺	1	重要文化財	
26	絹本着色 武田信虎夫人像	甲府市 長禪寺	1	重要文化財	
27	絹本着色 武田勝頼・同夫人・信勝画像	和歌山県 持明院	1		
28	武田晴信朱印状（永禄元年）	甲府市 大泉寺	1	山梨県指定文化財	
29	武田信玄判物（元龜元年）	甲府市 大泉寺	1	山梨県指定文化財	
30	武田晴信願文（弘治三年）	富士河口湖町 富士御室浅間神社	1	山梨県指定文化財	
31	武田信玄願文（永禄九年）	富士河口湖町 富士御室浅間神社	1	山梨県指定文化財	
32	木造 釈迦如来坐像	甲府市 円光院	1		
33	木造 聖観音菩薩立像	山梨県立博物館	1		
34	絹本着色 穴山信友夫人像	身延町 南松院	1	山梨県指定文化財	
35	木版丹絵 武田二十四将図	山梨県立博物館	1		
36	紙本着色 武田二十四将図	山梨県立博物館	1		
37	生島足島神社起請文	長野県 生島足島神社	5	重要文化財	
38	武田晴信誓詞（天文十五年）	東京都 東京大学史料編纂所	1		
39	上杉輝虎願文（永禄九年）	山形県 米沢市上杉博物館	1	国宝	
40	上杉輝虎願文写（永禄七年）	山形県 米沢市上杉博物館	1	国宝	
41	勝山記写本	富士吉田市 個人	1		
42	塩山向嶽神庵小年代記	甲州市 向嶽寺	1	山梨県指定文化財	
43	紙本着色川中島合戦図屏風（八曲一双）	山口市 岩国美術館	一双	岩国市指定文化財	信玄の戦場
44	紙本着色川中島合戦図屏風（六曲一双）	和歌山県 和歌山県立博物館	一双		
45	紙本着色 吉良頼康画像	東京都 寺院	1		
46	紅糸威最上胴丸	静岡県 富士山本宮浅間大社	1	静岡県指定文化財	
47	六十二間筋兜（復元模造）	神奈川県 寒川神社	1		
48	朱札紅糸素懸威胴丸 佩楯付	笛吹市 美和神社	1	山梨県指定文化財	
49	太刀 銘長船景光	静岡県 富士山本宮浅間大社	1	重要文化財	
50	太刀 銘国次	笛吹市 浅間神社	1	山梨県指定文化財	
51	色々威腹巻・鉄地黒漆塗桃形兜	早川町 個人	2		
52	孫子の旗（復元模造）	山梨県立博物館	1		
53	諏訪神号旗（復元模造）	山梨県立博物館	1		
54	馬骨（複製）	甲府市教育委員会	1		
55	木馬	甲府市 長禪寺	1		
56	鞍・鐙	笛吹市 美和神社	2		
57	銅鐘	山梨市 永昌院	1	山梨県指定文化財	
58	武田家朱印状（元龜三年または天正三年）	甲府市 武田神社	1		
59	武田信玄判物、武田家朱印状（元龜二年）	埼玉県 陽雲寺	2	埼玉県指定文化財	
60	武田晴信感状（天文二十四年）	甲州市 個人	1		
61	武田家禁制（永禄十二年）	南部町 円蔵院	1	南部町指定文化財	
62	武田晴信自筆書状（弘治三年）	長野県 長野市立博物館	1		
63	武田晴信自筆書状（天文二十二年）	埼玉県 陽雲寺	1	埼玉県指定文化財	
64	絹本着色 北条氏康画像	神奈川県 早雲寺	1	神奈川県指定文化財	
65	武田晴信書状（一六世紀半ば）	山梨県立博物館	1		
66	武田信玄願文（永禄十三年）	静岡県 富士山本宮浅間大社	1		
67	絹本着色 上杉謙信画像	長野県 長野市立博物館	1		
68	武田晴信願文（複製、永禄元年）	長野市立博物館	1		
69	武田勝頼書状（天正八年）	山梨県立博物館	1		
70	小桜韋威鎧 兜・大袖付（復元模造）	山梨県立博物館	1		楯無鎧
71	旧古府中村日影組絵図	甲府市 武田神社	1		
72	勝頼以前図	南アルプス市 個人	1		
73	信玄公御屋形図	山梨県立博物館	1		
74	甲州古府中古城之図	山梨県立博物館	1		
75	武田家朱印状（夜廻番帳、弘治二年）	甲府市 個人	1	山梨県指定文化財	
76	武田家朱印状（一六世紀）	甲府市 個人	1	山梨県指定文化財	
77	武田氏館跡出土品	甲府市教育委員会	一式		
78	絹本着色穴山信友像	南部町 円蔵院	1	山梨県指定文化財	
79	絹本着色穴山勝千代像	南部町 最恩寺	1	山梨県指定文化財	

番号	資料名	所蔵者	点数	指定	展示項目
80	穴山信友判物（弘治三年）	身延町 個人	1		信玄が生きた戦国の世
81	紙本着色小山田越中守信有像	都留市 長生寺	1	山梨県指定文化財	
82	小山田信有判物（富士道者過所、永禄四年）	富士吉田市 北口本宮富士浅間神社	1		
83	勝山記	富士河口湖町 富士御室浅間神社	1	山梨県指定文化財	
84	信玄堤絵図	甲斐市 個人	1	甲斐市指定文化財	
85	武田家朱印状（永禄三年）	甲斐市 個人	1	山梨県指定文化財	
86	甲州金	東京都 東京国立博物館	4		
87	石臼	甲州市教育委員会	2	山梨県指定文化財	
88	武田家朱印状写（天正八年）	甲州市 個人	1		
89	新府城跡出土品	韮崎市教育委員会	一式		
90	武田信繁家訓に見る漢籍	山梨県立博物館	-		
91	絹本着色鑑不動尊図	甲州市 恵林寺	1		信玄伝説をたどる
92	木造鑑不動尊立像附厨子	甲州市 恵林寺	1	甲州市指定文化財	
93	甲陽軍鑑	山梨県立博物館	-		
94	武田三代軍記	山梨県立博物館	-		
95	武門便幼	山梨県立博物館	1		
96	武田信玄公備押作法之図	山梨県立博物館	1		
97	武田信玄 長尾謙信 本朝廿四孝	山梨県立博物館	1		
98	絵本信玄一代記	山梨県立博物館	1		
99	木造軍船雛形（複製）	東京都 信松院	1		
100	絹本着色柳沢吉保像	韮崎市 常光寺	1	山梨県指定文化財	
101	辻家文書	山梨県立博物館	1		
102	甲州橋	山梨県立博物館	4		
103	一ツとせいぶし 甲斐の評ばん大小切り	山梨県立博物館	1		
104	諏訪法性の兜	長野県 下諏訪町立諏訪湖博物館	1		
105	武田信玄、上杉謙信像	山梨県立博物館	2		
106	川中島合戦図	山梨県立博物館	1		
107	武田・上杉川中嶋大合戦図	山梨県立博物館	三枚続		
108	武田信玄贈位位記	甲府市 武田神社	3		
109	機山公展写真	甲府市 武田神社	一式		
110	おかぶと	山梨県立博物館	1		
111	武田信玄銅像ミニチュア	山梨県立博物館	1		

【展示平面図】



ii 夏休み企画展 やまなしはじめて物語

【会 期】 平成18年7月25日(火)から同年8月20日(日)まで

【主 催】 山梨県立博物館

【入場者数】 5,487人

【担 当】 学芸員 小畑茂雄、学芸課長 中山誠二

学芸員 高橋 修

【概 要】

博物館利用者における児童・生徒の割合は非常に高く、当館においては、児童・生徒層や教育現場における博物館に求める需要を、展示などの事業活動に反映しなければならないという問題意識があった。そこで本展の企画にあたっては、平成18年春に常設展示を観覧する児童・生徒および教員を対象としたアンケートを実施し、その結果を参考に展示構成を決定した。

タイトルの「夏休み企画展 やまなしはじめて物語」は、山梨の歴史・文化、そして人物にまつわる



展示風景

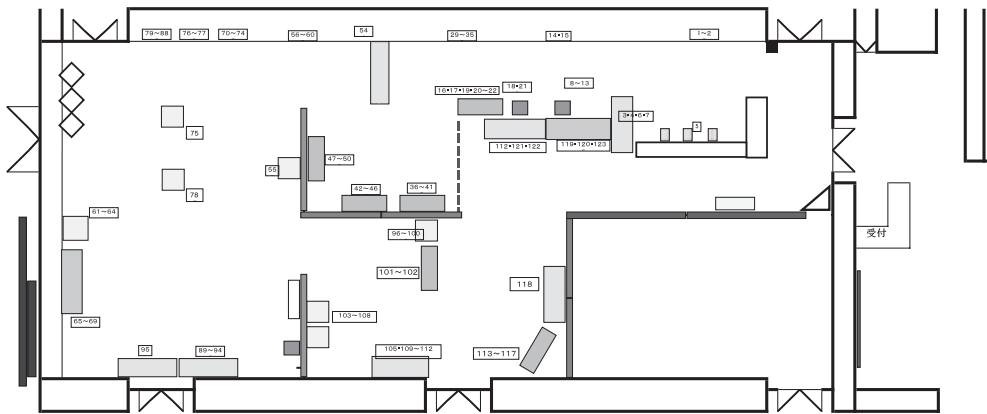
「はじめて」をいくつも紹介することで、郷土の歴史に親しみ、夏休みの自己学習のきっかけを提供するために開催した。本展は、3つのテーマ、12の「はじめて」によって展示室を構成し、約120点の資料からなっており、それぞれの「はじめて」は、「学校のはじめて」などというように、身近にあるものを中心に、アンケート結果を踏まえて選定した。また、子どもを主対象とした展示であることから、解説パネルの高さや大きさ、照度、パネルや造作物と資料の関連づけなど、展示環境において可能な範囲で最大限対応した。

本展より、常設展との共通券を設定するなど、営業面における改善も行い、企画内容の評価は良かったが、学校によらず児童・生徒を集客する試みについては、様々な課題を残した。ひとつは、企画展という単体事業のみで、学習支援的な事業は、本展前に開催された「夏休み自由研究プロジェクト」のみであったこと。さらに、博物館を利用した学習のためには、一度の鑑賞だけでは、児童生徒が学習目的を達成することは困難であり、入館料やアクセスの問題が生じることが明らかとなったことなどである。今後の夏期開催の企画展においては、これらの課題について、何らかの対策を講じることが望まれる。

【出品資料一覧】

番号	資料名	員数	時代	所蔵者	番号	資料名	員数	時代	所蔵者
1	松木家資料(学校建築関係)	6	明治	個人蔵	63	武田家朱印状	2	室町	個人蔵
2	松木家資料(大工道具一式)	1	明治	個人蔵	64	織田信長禁制	1	室町	個人蔵
3	山梨県布達 明治6年	1	明治	山梨県立博物館	65	印譜	2		山梨県立博物館
4	山梨県小学教則	1	明治	山梨県立博物館	66	離縁状	1	江戸	山梨県立博物館
5	明治時代の小学校の教科書	4	明治	山梨県立博物館	67	乍恐以追訴奉願上候	1	江戸	山梨県立博物館
6	峡中小学生徒之文	1	明治	山梨県立博物館	68	水晶篆刻道具	1	平成	やまなし伝統工芸館
7	山梨県甲斐国小学校生徒勉強鏡	1	明治	山梨県立博物館	69	現在の印章材	1	平成	やまなし伝統工芸館
8	和同開珎	1	奈良	ミュージアム都留	70	甲州市乙木田遺跡出土水晶	10	縄文	山梨学院大学
9	万年通宝	1	奈良	笛吹市教育委員会	71	甲州市乙木田遺跡出土石とたき石	2	縄文	山梨学院大学
10	神功開宝	1	奈良	笛吹市教育委員会	72	甲州市乙木田遺跡出土器と土偶	3	縄文	山梨学院大学
11	隆平永宝	1	平安	笛吹市教育委員会	73	七十一番職人歌合	1	江戸	山梨県立博物館
12	福寿神宝	1	平安	笛吹市教育委員会	74	職人尽歌合	1	江戸	山梨県立博物館
13	貞観永宝	1	平安	笛吹市教育委員会	75	第1号大水晶	1	明治	山梨大学
14	さし銭	1	室町	北杜市長坂郷土資料館	76	玉(嘉永5年)	1	江戸	山梨大学
15	瀬戸四耳壺	1	室町	北杜市長坂郷土資料館	77	玉づくりに用いられた鉄製のとい	1	江戸	山梨大学
16	甲州金図録	1	江戸	山梨県立博物館	78	第二十七号日本式双晶	1	明治	山梨大学
17	甲斐国史	1	江戸	山梨県立博物館	79	第2号 草入大群晶	1	明治	山梨大学
18	甲州金 駒一両金	1	江戸	山梨中銀金融資料館	80	玉兔	1	明治	山梨大学
19	甲州金 背石目打一分金	1	江戸	山梨中銀金融資料館	81	山梨大学所蔵水晶資料 水晶印	1	大正	山梨大学
20	甲州金 桐紋二朱金(両面桐刻印)	1	江戸	山梨中銀金融資料館	82	文鎮	1	明治	山梨大学
21	甲州金 糸目金	1	江戸	山梨中銀金融資料館	83	ステッキの握り	1	明治	山梨大学
22	甲州金 無背金一分	1	江戸	山梨中銀金融資料館	84	人工水晶の合成	1	昭和	山梨大学
23	甲州金 無背金二朱	1	江戸	山梨中銀金融資料館	85	甲斐国志	1	江戸	山梨県立博物館
24	甲州金 無背金朱中(丸)	1	江戸	山梨中銀金融資料館	86	甲府買物独案内	1	江戸	山梨県立博物館
25	甲州金 無背金朱中(角)	1	江戸	山梨中銀金融資料館	87	水晶眼鏡	1	明治	山梨県立博物館
26	甲州金 無背金一朱	1	江戸	山梨中銀金融資料館	88	現在の水晶工芸品	1	平成	やまなし伝統工芸館
27	灰吹法レブリカ	1		甲斐黄金村・湯之奥金山博物館	89	海外製品見本帳	2	明治	山梨県富士工業技術センター
28	碇石レブリカ	1		個人蔵	90	絵甲斐絹	4	明治	山梨県富士工業技術センター
29	第十国立銀行券旧券 5円券	1	明治	山梨中銀金融資料館	91	絵甲斐絹型紙	2	明治	山梨県富士工業技術センター
30	第十国立銀行券旧券 1円券	1	明治	山梨中銀金融資料館	92	絵甲斐絹用刷毛	2		山梨県富士工業技術センター
31	発行紙幣記入帳	2	明治	山梨中銀金融資料館	93	甲斐絹再現品	1	平成	山梨県富士工業技術センター
32	頭取印	1	明治	山梨中銀金融資料館	94	旧朝日村御年貢二納方ノ分	1	江戸	個人蔵
33	栗原信近署名印	1	明治	山梨中銀金融資料館	95	甲斐絹の白無垢	1		山梨県立博物館
34	支配人印	1	明治	山梨中銀金融資料館	96	杉浦謙肖像	1	明治	山梨県立博物館
35	紙幣割印	1	明治	山梨中銀金融資料館	97	航西日記 巻之五	1	明治	個人蔵
36	太陽暦図解	1	明治	個人蔵	98	太政官札	1	明治	個人蔵
37	内外各種 新聞要録 附録	1	明治	個人蔵	99	民部省札	1	明治	個人蔵
38	改暦弁	1	明治	個人蔵	100	銭百文切手	1	明治	個人蔵
39	明治六年癸酉頒曆	1	明治	個人蔵	101	甲府郵便取扱所御開布達并規則	1	明治	個人蔵
40	電報發送必要	1	明治	個人蔵	102	甲府郵便局消印沿革	1	明治	山梨県立博物館
41	明治時代の電報	1	明治	個人蔵	103	藤村紫朗肖像	1	明治	山梨県立博物館
42	山梨県馬車営業組合乗車券	1	明治	個人蔵	104	府県長官銘々伝	1	明治	山梨県立博物館
43	中央鉄道甲府ステーション石版図	1	明治	山梨県立博物館	105	藤村の印鑑	1	明治	甲府市藤村記念館
44	旗掛け松事件関係資料	1	明治	北杜市長坂郷土資料館	106	藤村使用の手あぶり	1	明治	甲府市藤村記念館
45	富士身延鉄道沿線図会	1	明治	山梨県立博物館	107	藤村使用の耳かき	1	明治	甲府市藤村記念館
46	富士身延鉄道風呂敷	1	明治	個人蔵	108	山梨県甲府勸業場之図	1	明治	山梨県立博物館
47	峡中新聞	5	明治	個人蔵	109	「道路開通告諭」(『山梨県布達 明治7年1』)	1	明治	山梨県立博物館
48	生誕新聞	2	明治	個人蔵	110	甲州街道略図	1	明治	山梨県立博物館
49	甲府放送局開局記念絵葉書	1	昭和	山梨県立博物館	111	甲州街道神奈川県下道路開鑿費義捐金人名	1	明治	山梨県立博物館
50	絵はがき JOYG-TV NHK甲府テレビジョン放送局	1	昭和	個人蔵	112	舞館絵図面	1	明治	山梨県立博物館
51	穴山信君朱印状	1	室町	個人蔵	113	若尾逸平写真	1	明治	個人蔵
52	祖父村松岳岳種痘記念録	1	大正	山梨県立博物館	114	若尾逸平銅像ミニチュア	1	明治	個人蔵
53	初期の種痘道具	1	江戸	山梨県立博物館	115	生糸関係資料	1	明治	山梨県立博物館
54	オート・モーニッケ肖像	1	江戸	山梨県立博物館	116	貴族院多額納税者議員写真帖	1	明治	山梨県立博物館
55	富士曼茶羅図	1	室町	山梨県立博物館	117	貴族院多額納税者議員互選名簿	1	明治	山梨県立博物館
56	ビール醸造開業広告	1	明治	山梨県立博物館	118	甲府電燈会社関係資料	1	明治	山梨県立博物館
57	甲府城出土のワインの瓶	1	明治	山梨県立考古博物館	119	広瀬保庵の写真	1	明治	山梨県立博物館
58	明治期のワインの瓶	3	明治	ぶどうの国文化館	120	環海航路日記上・下	2	明治	山梨県立博物館
59	大日本物産図会 甲斐国葡萄培養之図	1	明治	山梨県立博物館	121	環海航路新図	1	明治	個人蔵
60	葡萄酒会社関係資料	1	明治	山梨県立博物館	122	渡米関係資料	2	明治	山梨県立博物館
61	甲斐国印(レブリカ)	1		山梨県立博物館	123	日本人初めて汽車に乗る図	1	明治	山梨県立博物館
62	甲斐国司解(レブリカ)	1		山梨県立博物館					

【展示平面図】



iii 開館一周年記念特別展 祈りのかたち - 甲斐の信仰 -

【会 期】 平成18年10月14日（土）から同年11月20日（月）まで

【主 催】 山梨県立博物館、(財)自治総合センター

【入場者数】 10,853人

【担 当】 学芸員 井澤英理子、近藤暁子

【概 要】

古来より、人々は神や仏に祈りを捧げ、彫像、絵画、墨跡をはじめとした「祈りのかたち」を数多く生み出してきた。現在遺されたそれらは、それぞれの時代を生きた人の手によって守り伝えられてきた、信仰の歴史であるといえる。本展では、開館一周年記念特別展と題し、今までまとめて紹介される機会に恵まれなかった山梨の仏教関連の彫像・絵画等を、古代から中世に至るまでを中心に一堂に会し、甲斐の信仰の全容を概観した。甲斐の豊穡な祈りの世界を再現することにより、本県の信仰の歴史が深く理解されることを目的とした。

【開館一周年記念特別展連絡会議】

展示監修員名簿

氏 名	勤務先・役職等	専門分野
清 雲 俊 元	山梨郷土研究会理事長	宗教史
田 邊 三郎助	町田市立博物館長	仏教彫刻史
濱 田 隆	元山梨県立美術館長	仏教絵画史

資料収集調査員名簿

氏 名	勤務先・役職等	専門分野
鈴 木 麻里子	甲府市文化財審議委員等	仏教彫刻史

【関連イベント】

特別記念講演会

- ・開催日 平成18年10月29日（日）午後1時30分～
- ・会 場 山梨県総合教育センター 大研修室
- ・内 容 「山梨の仏教美術入門Q & A」濱田 隆（元山梨県立美術館長）
「山梨の信仰の歴史」清雲俊元（山梨郷土研究会理事長）

かいじあむ講座「親子でみつけよう ほとけさまのフシギ！」

- ・開催日 平成18年11月11日（土） 午後1時30分～
- ・会 場 企画展示室ほか
- ・講 師 井澤英理子（当館学芸員）
近藤暁子（当館学芸員）

ギャラリー・トーク

- ・開催日 平成18年10月21日（土）、10月28日（土）、11月8日（水）、11月18日（土） 午後1時30分～



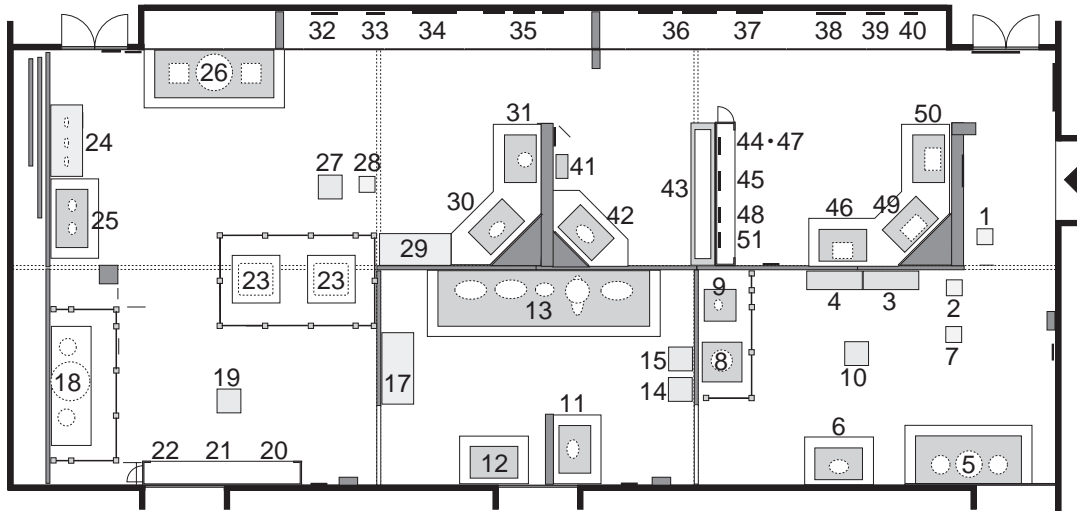
展示風景

【出品資料一覧】

重要文化財 県指定文化財 市町村指定

指定	作品名称	員数	材質技法	法量(cm)	時代(世紀・制作年)	所蔵者	
第1章 いにしえびとの祈り							
1	観音菩薩立像	1軀	銅造鍍金	像高 9.7	奈良時代(7世紀~8世紀)	甲府市教育委員会	
2	鑿	1面	鉄製	幅 16.6	奈良時代(天平2年/730年)	三光寺	
3	仁王経疏 卷上本 円測撰	1巻	紙本墨書	縦 27.3 横 1925.0	奈良時代(8世紀)	個人蔵	
4	塑造仏像残欠	6箇	塑造漆箔	縦 17.3~24.3 横 5.5~16.8	奈良時代(9世紀)	瑜伽寺	
5	薬師如来及両脇侍像	3軀	木造漆箔	像高 86.7 (薬師如来像) 像高 102.6 (日光菩薩像) 像高 101.8 (月光菩薩像)	平安時代(10世紀)	大善寺	
6	如来形坐像	1軀	木造漆箔	像高 84.5	平安時代(10世紀)	瑜伽寺	
7	薬師如来立像	1軀	木造	像高 43.3	平安時代(10世紀)	明王寺	
8	十一面観音菩薩立像	1軀	木造漆箔彩色	像高 169.6	平安時代(10世紀)	満願寺	
9	観音菩薩立像	1軀	木造漆箔	像高 146.8	平安時代(10世紀)	安楽寺	
10	甲斐勝沼柏尾経塚出土品	経筒 外筒 経軸残欠 玉類 刀剣	1合 1合 7本 17箇 1口	銅製鑄造 陶製 木造 ガラス製・木製 鉄製	総高 29.7 口径 17.7 総高 36.5 口径 26.8 全長 約3.0~6.0 径 0.5~0.7 全長 32.4	平安時代(康和5年/1103年)	東京国立博物館
第2章 密教に託す思い							
11	愛染明王坐像	1軀	木造彩色	像高 89.4	平安時代(12世紀)	放光寺	
12	不動明王坐像	1軀	木造彩色	像高 84.5	平安時代(11世紀)	大聖寺	
13	五大明王像	5軀	木造	(不動明王像) 像高 87.0 (降三世明王像) 像高 144.0 (軍荼利明王像) 像高 143.5 (大威徳明王像) 坐高 81.3 (金剛夜叉明王像) 像高 143.0	平安時代(12世紀)	桑戸区	
14	虚空蔵菩薩坐像	1軀	木造漆箔彩色	像高 62.8	鎌倉時代(13世紀)	智光寺	
15	笈	1基	木造金銅装	高 80.6 幅 64.0 奥 32.5	室町時代(15世紀)	妙法寺	
16	両頭愛染明王像	1幅	絹本着色	縦 103.5 横 56.2	南北朝時代(14世紀)	大蔵経寺	
17	不動明王二童子像	1幅	絹本着色	縦 125.0 横 60.0	鎌倉時代(13世紀)	明王寺	
第3章 浄土への憧れ							
18	阿弥陀如来及両脇侍像	3軀	木造漆箔	(阿弥陀如来像) 像高 138.8 (観音菩薩像) 像高 156.4 (勢至菩薩像) 像高 153.0	平安時代(12世紀)	善光寺	
19	阿弥陀如来立像	1軀	木造	像高 77.5	鎌倉時代(13世紀)	常楽寺	
20	浄土曼荼羅図	1幅	絹本着色	縦 163.8 横 156.0	鎌倉時代(13世紀)	北本市	
21	地藏菩薩十王図	1幅	絹本着色	縦 102.9 横 59.0	鎌倉時代(13世紀)	大聖寺	
22	阿弥陀三尊来迎図	1幅	絹本着色	縦 160.0 横 56.8	室町時代(14~15世紀)	一蓮寺	
第4章 新しい祈りのかたち							
23	金剛力士立像	2軀	木造彩色	(阿形像) 像高 264.0 (吽形像) 像高 263.0	鎌倉時代(12世紀)	放光寺	
24	十二神将立像	2軀	木造彩色	(子神像) 像高 88.0 (申神像) 像高 86.6 (亥神像) 像高 81.5	鎌倉時代(12世紀)	瑜伽寺	
25	十二神将立像 蓮慶作	1軀	木造彩色	(丑像) 像高 142.9 (未像) 像高 141.6	鎌倉時代(嘉永3年~安貞2年/ 1227~1228年)	大善寺	
26	吉祥天及二天像 蓮慶作	2軀	木造彩色	(吉祥天) 像高 108.8 (多聞天) 像高 116.8 (持国天) 像高 118.7	鎌倉時代(寛喜3年/1231年)	福光園寺	
27	釈迦如来立像	1軀	木造彩色	像高 97.6	鎌倉時代(13世紀)	永泰寺	
28	阿弥陀如来及両脇侍像	3軀	木造漆箔	(阿弥陀如来像) 像高 98.2 (観音菩薩像) 像高 38.4 (勢至菩薩像) 像高 37.7	鎌倉時代(13世紀)	九品寺	
29	薬師如来立像	1軀	銅造	像高 47.9	鎌倉時代(13世紀)	常在寺	
30	釈迦如来坐像	1軀	木造金泥彩色	像高 106.1	鎌倉時代(13世紀)	東禅寺	
31	聖徳太子立像	1軀	木造彩色	像高 114.5	鎌倉時代(14世紀)	仁勝寺	
32	善光寺如来絵伝	2幅	絹本着色	(第1幅) 縦 146.5 横 81.5 (第2幅) 縦 145.8 横 82.0	室町時代(15世紀)	善光寺	
33	弘法大師捨身図	1幅	絹本着色	縦 98.5 横 49.5	鎌倉時代(13~14世紀)	大聖寺	
34	仏涅槃図 伝 霊彩筆	1幅	絹本着色	縦 208.3 横 146.5	室町時代(15世紀)	大蔵経寺	
35	釈迦十八羅漢図	3幅	絹本着色	(中幅) 縦 108.8 横 57.8 (左右幅) 縦 106.5 横 57.1	南宋~元時代(13世紀)	一蓮寺	
第5章 祖師の面影							
36	法然上人絵伝	2幅	絹本着色	縦 153.7 横 110.5	鎌倉時代(14世紀)	山梨県立博物館	
37	源誓上人絵伝(観音堂縁起絵)	1幅	絹本着色	縦 153.7 横 81.1	南北朝時代(14世紀)	東京藝術大学美術館	
38	日蓮上人像 狩野秀信筆	1幅	紙本着色	縦 127.0 横 91.5	江戸時代(17世紀)	本蓮寺	
39	日蓮上人像 住吉如慶筆	1幅	紙本墨画淡彩	縦 75.8 横 51.0	江戸時代(元和4年/1618年)	久遠寺	
40	曼荼羅本尊 日蓮筆	1幅	紙本墨画	縦 44.8 横 30.7	鎌倉時代(弘安3年/1280年)	妙了寺	
41	一蓮寺過去帳 僧帳	1帖	紙本墨書	縦 29.4 横 10.2	南北朝~江戸時代(14~17世紀)	一蓮寺	
42	他阿真教坐像(他阿上人真教坐像)	1軀	木造彩色	像高 83.5	鎌倉時代(14世紀)	称願寺	
43	遊行上人縁起絵(一遍上人縁起絵)巻八	1巻	紙本着色	縦 33.0 横 1827.7	室町~江戸時代(15~17世紀)	清浄光寺(神奈川県)	
44	關漢道隆隆行像(大覚禅師経行像)	1幅	絹本着色	縦 90.9 横 38.5	鎌倉時代(14世紀)	建長寺(神奈川県)	
45	夢窓疎石像(夢窓国師像)	1幅	絹本着色	縦 94.8 横 52.9	室町時代(15世紀)	惠林寺	
46	夢窓疎石坐像(夢窓国師坐像)行成作	1軀	木造彩色	坐高 79.0	南北朝時代(延文2年/1357年)	古長禅寺	
47	拔隊得勝像(大円禅師像)傑斐自玄賛	1幅	絹本着色	縦 78.5 横 37.7	南北朝時代(明徳4年/1393年)	松泉寺	
48	絶学祖能像	1軀	絹本着色	縦 90.4 横 37.5	室町時代(15世紀)	月江寺	
49	薬海本浄坐像	1軀	木造彩色	坐高 61.0	南北朝時代(文和2年/1353)	栖雲寺	
50	中峰明本坐像(普応国師坐像)院遵・院広 作	1軀	木造彩色	坐高 82.5	南北朝時代(文和2年/1353)	栖雲寺	
51	雲岫宗龍像	1幅	絹本着色	縦 98.3 横 48.1	室町時代(15世紀)	広蔵院	

【展示平面図】



シンボル展

i 甲州の絵図・地図

【会 期】 平成18年5月23日（火）から同年6月11日（日）まで

【担 当】 学芸員 高橋 修

【概 要】

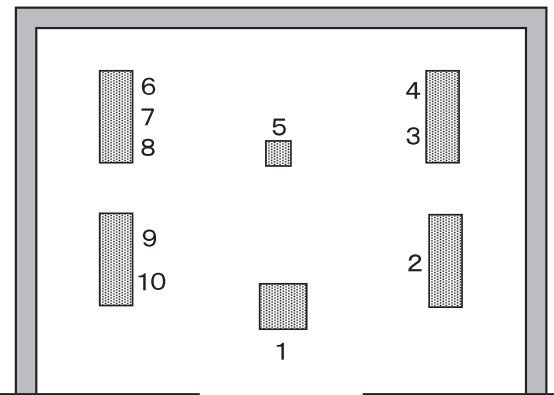
古絵図・地図は昔の地域の姿を知る上で絶好の資料である。当館が収蔵する絵図・地図のうち、山梨県の魅力を再発見できる資料を中心として展示を構成した。内容として 江戸と明治の甲斐国図の比較（資料1・5） 平成19年に富士川水運開削400周年となることにちなみ富士川水運関係絵図（資料2～4） 平成19年に明治40年の大水害100周年となることにちなみ、笛吹市近辺の絵図・地図（資料6～10）をそれぞれ展示した。

また、利用者には昔の絵図・地図の世界について、より深く楽しめる解説パンフを作成・無料配布した。

【出品資料一覧】

番号	資料名	員数	法量 (単位はcm)	年代	所蔵者
1	甲斐国絵図(甲州文庫)	1舗	99.8×108.2	江戸時代	山梨県立博物館
2	水形難場有形図(甲州文庫)	1舗	55.0×155.7		山梨県立博物館
3	天神ヶ滝洲浚絵図(若尾資料)	1舗	55.3×86.5		山梨県立博物館
4	写真絵はがき類 富士川風景(甲州文庫)	1冊	36.5×28.0		山梨県立博物館
5	甲斐国全図(甲州文庫)	1舗	40.9×47.5	明治10年(1877)	山梨県立博物館
6	山梨県水害史(山梨県水害略図)(甲州文庫)	1冊	21.4×20.3	明治44年(1911)	山梨県立博物館
7	石和地図(頼生文庫)	1舗	46.1×57.3	明治43年(1910)	山梨県立博物館
8	中川村田植箇所絵図(関本家資料)	1舗	26.9×33.0	江戸時代	山梨県立博物館
9	東八代郡英村略図(頼生文庫)	1舗	27.5×38.5	明治14～15年 (1881～1882)	山梨県立博物館
10	笛吹川通居村絵図(武藤家文書)	1舗	55.0×120.0	明治5～7年 (1872～1874)	山梨県立博物館

【展示平面図】



- 1 企画展示室の中央南側約6分の1のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成
- 2 可動ケース内に展示

ii 葛飾北斎 富嶽三十六景

【会 期】平成18年6月13日（火）から同年7月9日（日）まで

【担 当】学芸員 井澤英理子

【概 要】

天保2年（1831）頃、葛飾北斎は富士を題材とした風景画のシリーズ「富嶽三十六景」を制作した。季節、場所、時間によってさまざまに変わる富士の姿を捉えた多色摺木版画で、はじめに出版した36図と、裏富士と通商される10図を加えた全46図である。鋭い観察眼、大胆な発想、際立った画技によって表現された北斎の富士は、日本だけでなく世界の人々を今も魅了し続けている。本展では、博物館が前年度に収集した「富嶽三十六景」全46点を一挙に公開した。

【関連イベント】

かいじあむ講座「富嶽三十六景について」

- ・開催日 平成18年6月25日（日） 午後1時30分～
- ・会 場 生涯学習室
- ・講 師 近藤暁子（当館学芸員）

かいじあむ工房「浮世絵を摺ってみよう」

- ・開催日 平成18年6月25日（日） 午前10時30分～
- ・会 場 体験学習室
- ・講 師 上野千鶴（版画家）

【出品資料一覧】

葛飾北斎筆「富嶽三十六景」

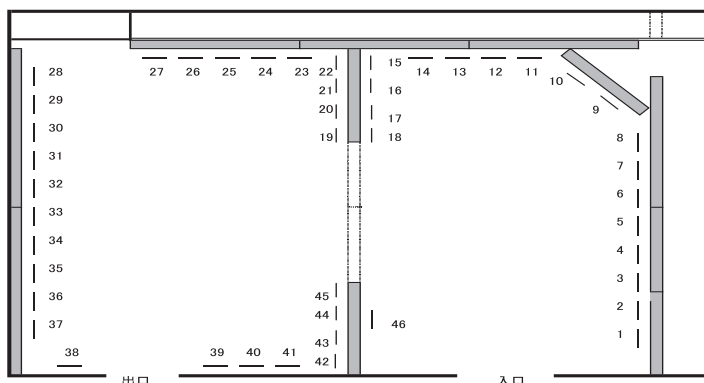
制作期 江戸時代 天保2年（1831）頃
 材質技法 紙、多色摺木版 大判横
 所蔵者 山梨県立博物館



展示風景

1 相州七里濱	13 山下白雨	25 甲州三坂水面	37 隠田の水車
2 武陽佃島	14 甲州石班澤	26 甲州伊沢暁	38 東海道吉田
3 信州諏訪湖	15 五百らかん寺さゞみどう	27 身延川裏不二	39 本所立川
4 駿州江尻	16 江都駿河町三井見世略図	28 青山圓座姿	40 駿州大野新田
5 東都浅草本願寺	17 御厩川岸より両国橋夕陽見	29 東都駿台	41 東海道品川御殿山ノ不二
6 遠江山中	18 武州玉川	30 礪川雪ノ旦	42 駿州片倉茶園ノ不二
7 相州梅澤左	19 江戸日本橋	31 相州江の島	43 相州仲原
8 常州牛堀	20 墨田川関屋の里	32 東海道江尻田子の浦略図	44 東海道金谷ノ不二
9 深川万年橋下	21 東海道程ヶ谷	33 上総ノ海路	45 従千住花街眺望ノ不二
10 尾州不二見原	22 武州千住	34 相州箱根湖水	46 諸人登山
11 神奈川沖浪裏	23 甲州犬目峠	35 登戸浦	
12 凱風快晴	24 甲州三鷹越	36 下目黒	

【展示平面図】



- 1 企画展示室の西側6分の4のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成
- 2 ブックマット装（中性紙、喰裂どめ）した上で額装し壁掛展示

iii ぶどうと葡萄酒 国登録有形民俗文化財 勝沼のぶどう栽培および葡萄酒醸造用具

【会 期】平成18年8月1日（火）から同年10月1日（日）まで

【担 当】学芸員 丸尾依子

【概 要】

旧勝沼町が収集した、江戸時代から現代にわたるぶどう栽培用具と葡萄酒醸造用具が、平成18年1月に

全国初の国の登録有形民俗文化財となった。山梨県の暮らしに深く根ざした生業に関わる資料が新たに国の文化財となったことは、本県にとって大きな意義を持つ。本展では、文化財となった資料群の一部を紹介するとともに、本県におけるぶどう栽培と葡萄酒醸造の長い歴史を再認識する機会とした。

【関連イベント】

かいじあむ講座「ぶどうと葡萄酒」

- ・開催日 平成18年9月17日（日）
- ・会場 生涯学習室
- ・講師 丸尾依子（当館学芸員）

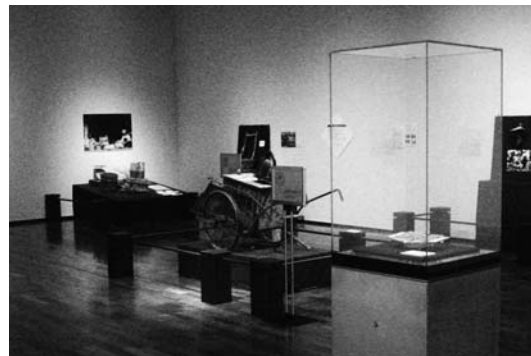
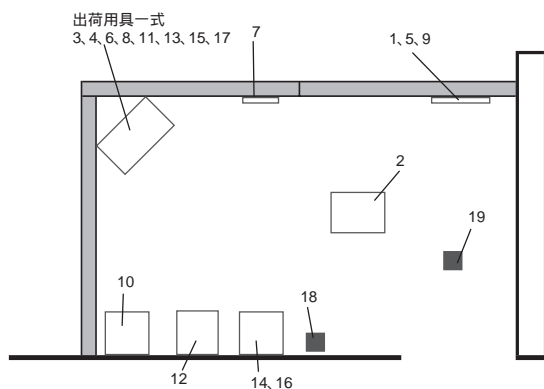
かいじあむぶどう案内所（第 編第10章 62頁参照）

かいじあむワインまつり（第 編第10章 62頁参照）

【出品資料一覧】

	資料名	分類	員数	時代	所蔵者
1	剪定鉄	栽培用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
2	消毒ポンプ	栽培用具	1	明治時代	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
3	くず桶	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
4	掛け紙	出荷用具	1	江戸時代末期～明治時代	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
5	傘紙	栽培用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
6	アシロ	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
7	収穫籠	収穫用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
8	秤	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
9	手入れ鉄	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
10	葡萄破砕機	醸造用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
11	出荷籠	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
12	压榨機	醸造用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
13	マクラ	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
14	発酵桶	醸造用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
15	ブリキ製紙筒	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
16	熟成用一斗瓶	醸造用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
17	粒抜き	出荷用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
18	一升瓶	醸造用具	1	昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館
19	「身延参詣甲州道中膝栗毛」	参 考	1	江戸時代	山梨県立博物館
20	葡萄栽培風景古写真	参 考	10	明治時代～昭和	甲州市勝沼町ぶどうの国文化館

【展示平面図】



展示風景

- 1 企画展示室の南東側約6分の1のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成。
- 2 可動ケースおよび展示台上に展示。

iv 江戸・大正・平成の「県史」編さん

【会 期】 平成18年11月29日（水）から同年12月24日（日）まで

【担 当】 学芸員 小畑茂雄

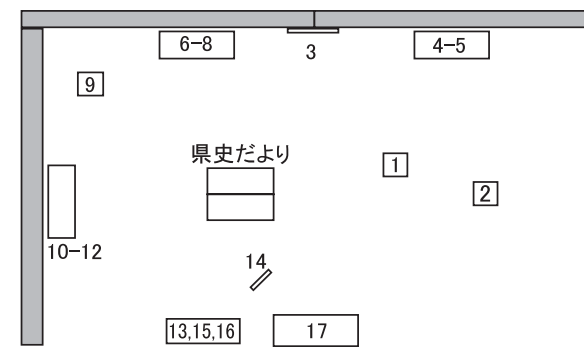
【概 要】

平成19年度で山梨県史編さん事業が終了する。そのことにちなみ、これまで行われた郷土・山梨の姿を伝えようとした修史事業として、江戸時代の『甲斐国志』の編さんと、大正時代の若尾謹之助らの県志編纂会の活動を取り上げて紹介した。

【出品資料一覧】

	資料名	員数	時代	所蔵者	備 考
1	甲斐国志草稿（森嶋家文書）	1	江戸時代	都留市	都留市指定文化財
2	甲斐国志	70	江戸時代	山梨県立博物館	
3	松平定能書蹟	1	江戸時代	山梨県立博物館	
4	甲斐国志案文	1	江戸時代	山梨県立博物館	
5	甲斐国志編纂書上要項覚書	1	江戸時代	山梨県立博物館	
6	山梨県志編纂会趣旨規則	1	大正時代	山梨県立博物館	
7	山梨県志編纂会への協力依頼	1	大正時代	山梨県立博物館	
8	山梨県志資料目録	1	大正時代	山梨県立博物館	
9	おもちゃ籠（正編、補遺）	2	大正時代	山梨県立博物館	
10	甲斐叢書挿入図版見本・広告	1	昭和	山梨県立博物館	
11	甲斐志料集成原稿集	1	昭和	山梨県立博物館	
12	史蹟名勝天然記念物調査報告	7	大正～昭和	山梨県立博物館	
13	山梨県史だより 第1号	1	平成	県史編さん室	
14	山梨県史 刊行開始広報ポスター	1	平成	県史編さん室	
15	調査関係資料	1	平成	県史編さん室	
16	執筆原稿と校正	1	平成	県史編さん室	
17	『山梨県史』関連刊物	-	平成	県史編さん室	

【展示平面図】



展示風景

- 1 企画展示室の南東側約6分の1のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成。
- 2 可動ケースおよび展示台上に展示。

v 国宝 夏・秋・冬景山水図 - 室町将軍のたからもの -

【会 期】 平成19年1月2日（火）から同年1月28日（日）まで

【担 当】 学芸員 近藤暁子、井澤英理子

【概 要】

国宝「夏・秋・冬山水図」は、中国南宋、13世紀頃に描かれた水墨山水図の傑作として名高い。三幅ともに室町三代将軍足利義満の所蔵を示す「天山印」がおされ、義満が蒐集し、八代将軍義政に伝えられた、室町将軍のコレクション「東山御物」のひとつである。足利将軍家の所蔵品だった各幅は、現在は別々に収蔵されており、そのうちの夏幅は、寛文13年（1673）、遠江国浜松城主の太田資宗から山梨の身延山久遠寺に寄進され、以来同寺の所蔵となっている。本展では、現在京都金地院に伝わる秋・冬幅をあわせてともに展示し、室町文化の粋を紹介した。

【関連イベント】

かいじあむ工房「失われた春景山水図を描こう」

・開催日 平成19年1月20日（日） 午後1時30分～

・場 所 体験学習室

・講 師 沓名弘美（日本画家）

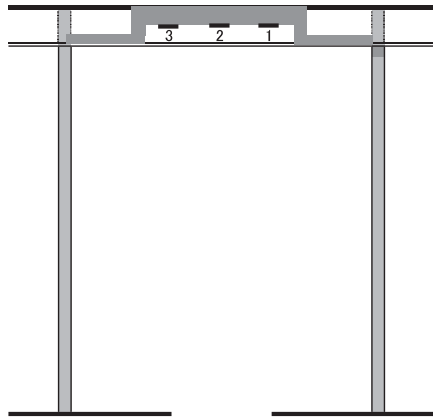
ギャラリー・トーク

・開催日 平成19年1月13日（土）、1月28日（日） 午後1時30分～

【出品資料一覧】

番号	資料名	員数	材質技法	法量（単位はcm）	年代	所蔵者
1	国宝 夏景山水図	1幅	絹本着色	118.5×52.7	南宋（13世紀）	久遠寺
2	国宝 秋景山水図	1幅	絹本着色	126.9×54.5	南宋（13世紀）	金地院
3	国宝 冬景山水図	1幅	絹本着色	126.9×54.5	南宋（13世紀）	金地院

【展示平面図】



- 1 企画展示室内の中央約3分の1のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成。
- 2 ウォールケース内に仮設壁を構成し、展示。



展示風景

vi オオカミがいた山 - 消えたニホンオオカミの謎に迫る -

【会 期】 平成19年2月6日(火) から同年3月18日(日)まで

【担 当】 学芸員 植月 学

【概 要】

平成15年、笛吹市御坂町・個人所蔵のオオカミと伝わる頭骨が、ニホンオオカミであることが正式に確認され、翌16年に当館に寄託された。本展では県内や近県におけるオオカミ関連資料の調査をもとに、この頭骨がなぜ伝わったのかを明らかにし、その成果を伝えることを目的とした。

展示にあたっては、資料発見により生じた疑問を出発点に、その後の調査による疑問解決と資料の解釈までの過程を展示として見せることで、観覧者が調査研究・発見の楽しさを追体験できるよう工夫した。



展示風景

【関連イベント】

特別講演会 「取材10年 - ニホンオオカミの謎を解く」

・開催日 平成19年3月11日(日) 午後2時～

・会 場 山梨県総合教育センター

・講 師 山根一真氏 (ノンフィクション作家)

わいわいミュージアム「消えたニホンオオカミを探して！」

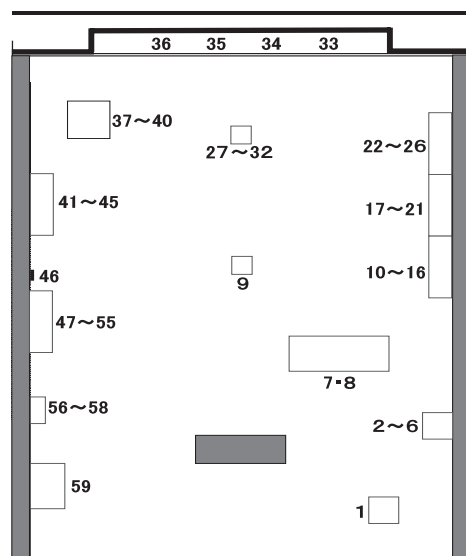
・開催日 平成19年2月11日(日) 午前10時30分～

・会 場 常設・シンボル展示室

ギャラリー・トーク

・開催日 平成19年2月17日(土)、2月25日(日)、3月3日(土) 午後1時30分～

【展示平面図】



- 1 企画展示室内の中央約3分の1のスペースを使用し、可動壁を用いてシンボル展示室を構成。
- 2 可動ケースおよびウォールケース内に展示。

【出品資料一覧】

指定	資料名	産地	員数	材質技法	時代	所蔵者
1	ニホンオオカミ頭骨	山梨県	1	骨	江戸～明治	笛吹市・個人蔵
2	ニホンオオカミ頭骨 (複製)	福岡県北九州市こむそう穴	1	骨	江戸以前	原資料：北九州市立 自然史・歴史博物館
3	ニホンオオカミ頭骨 (複製)	福岡県北九州市こむそう穴	1	骨	江戸以前	原資料：北九州市立 自然史・歴史博物館
4	ニホンオオカミ頭骨(複製)	熊本県泉村矢山岳	1	骨	江戸以前	原資料：国立科学博物館
5	アラスカオオカミ頭骨	米国アラスカ州	1	骨	現代	個人蔵
6	イヌ頭骨	-	1	骨	現代	個人蔵
7	ニホンオオカミ剥製	岩手県	1	全身剥製	明治	東京大学農学部
8	ニホンオオカミ剥製	奈良県十津川地方	1	全身剥製	明治36～37年(1903～4)	和歌山大学教育学部
9	牙製垂飾	千葉県市川市庚塚遺跡	1	骨製品	縄文時代前期	市立市川考古博物館
10	ニホンオオカミ頭骨	埼玉県秩父市	1	写真	慶応年間以前	秩父市・個人蔵
11	ニホンオオカミ頭骨と箱	埼玉県長瀬町	1	骨		長瀬町・個人蔵
12	ニホンオオカミ頭骨	東京都青梅市	1	骨	江戸時代後期	青梅市・個人蔵
13	ニホンオオカミ寛骨	東京都青梅市	1	骨	江戸時代後期	青梅市・個人蔵
14	版木	東京都青梅市	1	木	文政2年(1819)	青梅市・個人蔵
15	数珠	東京都青梅市	1	木	江戸時代後期	青梅市・個人蔵
16	キツネ頭骨	神奈川県相模原市津久井町	1	骨	明治26年(1893)以前	相模原市・個人蔵
17	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県清川村	1	骨		清川村・個人蔵
18	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県清川村	2	骨		清川村・個人蔵
19	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県清川村	1	骨		清川村・個人蔵
20	ニホンオオカミ前肢	神奈川県清川村	1	骨	天保12年(1841)以降	清川村・個人蔵
21	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県厚木市	1	骨		厚木市・個人蔵
22	ニホンオオカミ頭骨と箱	神奈川県厚木市	3	骨・木	安政2年(1855)	厚木市・個人蔵
23	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県秦野市	1	写真	明治26年(1893)	秦野市・個人蔵
24	ニホンオオカミ頭骨	神奈川県秦野市	1	骨	1800年頃	秦野市・個人蔵
25	ニホンオオカミ頭骨	静岡県富士市	1	骨	幕末～明治	富士市・個人蔵
26	ニホンオオカミ頭骨	長野県上田市	1	骨	明治15年(1882)頃	長野県立上田高等学校
27	根付け(狼)	埼玉県秩父市	1	骨製品	江戸時代?	秩父市・個人蔵
28	根付け(鹿角)	埼玉県秩父市	1	角製品	昭和	秩父市・個人蔵
29	根付け(熊)		1	骨製品		小川町・個人蔵
30	根付け(熊)		1	骨製品		小川町・個人蔵
31	根付け(熊)		1	骨製品		小川町・個人蔵
32	根付け(熊)		1	骨製品		小川町・個人蔵
33	狼絵掛け軸 今井琴谷画		1	紙本墨書	明治～昭和	小川町・個人蔵
34	巖根神社奉納狼絵	埼玉県小川町	1	写真	明治36年(1903)	小川町・個人蔵
35	狼絵陣羽織		1	麻?	江戸時代	小川町・個人蔵
36	山住神社狼絵掛け軸	静岡県浜松市	1	紙本墨書		小川町・個人蔵
37	御神犬御影版木	埼玉県秩父市	1	木	明治時代	秩父市・三峯神社
38	御札(三峯神社)	埼玉県秩父市	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
39	観音院記録下書	埼玉県秩父市	1	折本	江戸時代中期以降	秩父市・三峯神社
40	御眷属拝借指南	埼玉県秩父市	1	紙	江戸時代	秩父市・三峯神社
41	胴蓋再興寄進帳	埼玉県秩父市	1	折本	文久2年(1862)	秩父市・三峯神社
42	胴蓋再興寄進帳	埼玉県秩父市	1	折本	元治元年(1864)	秩父市・三峯神社
43	日記	埼玉県秩父市	1	折本	天明8年(1788)	秩父市・三峯神社
44	日記	埼玉県秩父市	1	折本	安政5年(1858)	秩父市・三峯神社
45	暴瀉病流行日記	山梨県	1	折本	安政5年(1858)	当館蔵
46	雁坂峠古写真	埼玉県秩父市	1	写真		秩父市・三峯神社
47	神犬御札(猪狩神社)	埼玉県秩父市	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
48	神犬御札(若神子神社)	埼玉県秩父市	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
49	神犬御札(釜伏神社)	埼玉県寄居町	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
50	神犬御札(巖根神社)	埼玉県長瀬町	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
51	神犬御札(御獄神社)	東京都青梅市	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
52	神犬御札(山住神社)	静岡県浜松市	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
53	神犬御札(春埜山)	静岡県森町	1	紙	昭和40年前後	小川町・個人蔵
54	犬伏御札(光明寺)	埼玉県秩父市	2	紙		秩父市・個人蔵
55	神犬御札(光明寺)	埼玉県秩父市	1	紙		秩父市・個人蔵
56	神犬御札(金櫻神社)	甲府市	3	紙		増穂町・個人蔵
57	神犬御札(王勢籠権現)	上野原市	1	紙	現代	上野原市・個人蔵
58	寄附台帳(王勢籠神社)	上野原市	1	折本	1844年(天保15)	上野原市・個人蔵
59	ニホンオオカミ椎骨	東京都檜原村	1	骨	明治初頭	檜原村郷土資料館

(3) 刊行物

名 称	発 刊 日	体 裁
『開館記念特別展 よみがえる武田信玄の世界』	平成18年 3月28日	A4版、156頁
「かいじあむ通信kai(交い)特別号 葛飾北斎 富嶽三十六景」	平成18年 6月13日	A4版、4頁
『夏休み企画展 やまなしはじめて物語ガイドブック』	平成18年 7月25日	B5変形版、60頁
『開館一周年記念特別展 祈りのかたち - 甲斐の信仰 - 』	平成18年10月14日	A4版、172頁
「国宝夏・秋・冬景山水図 室町將軍のたからもの」展解説パンフレット	平成19年 1月 2日	A4版、4頁
「オオカミがいた山 - 消えたニホンオオカミの謎に迫る - 」展解説パンフレット	平成19年 2月 5日	A4版、8頁

第5章 企画交流事業

(1) 生涯学習サービス事業

平成18年度における各種生涯学習サービス事業の結果は次のとおりである。多種多様な生涯学習サービス事業の提供を行ったが、とりわけ学術団体、県内博物館、地場産業関係団体と連携した事業の実施に努めたことが特徴である。今後も地域の中の博物館として、地元との連携を深めていくこととしたい。

講演会・講座・シンポジウム等

講演会

開催年月日	講演者	タイトル	開催場所	参加者人
平成18年 4月 8日(土)	西川広平(当館学芸員)	「武田信玄とその世界」	恩賜林記念館	100
7月29日(土)	高木 侃(専修大学大学院法学研究科長)	「三くだり半物語 - 甲州の事例にふれて - 」	県立博物館	135
10月29日(日)	濱田隆(元山梨県立美術館館長) 清雲俊元(山梨郷土研究会理事長)	「山梨の仏教美術入門Q & A」 「山梨の信仰の歴史」	県総合教育センター	200
平成19年 3月11日(日)	山根一真(ノンフィクション作家)	「取材10年 - 二ホンオオカミの謎を解く - 」	県総合教育センター	300
平成18年 5月20日(土)	黒田基樹(県史編さん専門委員)	「県史講演会 武田信玄の危機管理」	県総合教育センター	92
7月15日(土)	堀内 亨(県史編さん室)	「県史講演会 富士信仰の歴史」	県総合教育センター	60
9月16日(土)	平山 優(県史編さん室)	「県史講演会 武田信玄の軍事力」	県総合教育センター	120
11月18日(土)	白水 智(中央学院大学助教授)	「県史講演会 甲斐の人々は山とどう向き合ってきたか - 狩猟史の一面から - 」	県総合教育センター	50
平成19年 1月21日(土)	平山 優(県史編さん室)	「県史講演会 武田三代とその時代 - 武田信虎・勝頼再考 - 」	県総合教育センター	60

講座

開催年月日	講演者	タイトル	開催場所	参加者人
平成18年 4月20日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 1200年前の稲の品種札の発見」	県立博物館	31
5月21日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 出挙 国家による稲の回収システム」	県立博物館	50
6月18日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 古代国家と稲」	県立博物館	50
7月16日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 生業の特化 布・塩・ケモノの皮・油」	県立博物館	30
8月20日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 北辺と南辺の生業 昆布とヤコウガイ」	県立博物館	40
9月10日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 古代の道路計画」	県立博物館	40
10月22日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 川の道と海の道 古代の水上交通を見る新視点...第二河口・曳き舟」	県立博物館	40
11月19日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 古代港湾都市 水陸ネットワークを読み解く (1)」	県立博物館	40
12月10日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 古代港湾都市 水陸ネットワークを読み解く (2)」	県立博物館	30
平成19年 1月21日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 文字文化と東アジア - 交流の原点"文字" - 」	県立博物館	50
2月25日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 古代人の文字の習熟度は? - 古代人は文字を書けたか、読めたか - 」	県立博物館	40
3月18日(日)	平川 南(当館館長)	「館長トーク 都と村の信仰 - 古代社会の道祖神 - 」	県立博物館	40
平成18年 6月11日(日)	沓名貴彦(当館学芸員)	「かいじあむ講座 科学で守る文化財」	県立博物館	40
6月25日(日)	近藤暁子(当館学芸員)	「かいじあむ講座 富嶽三十六景について」	県立博物館	60
9月17日(日)	丸尾依子(当館学芸員)	「かいじあむ講座 ぶどうと葡萄酒」	県立博物館	30
11月11日(土)	井澤英理子(当館学芸員) 近藤暁子(当館学芸員)	「かいじあむ講座 親子で見つけよう ほとけさまのフシギ!」	県立博物館	30
平成19年 1月14日(土)	植学(当館学芸員)	「かいじあむ講座 人と猪の歴史」	県立博物館	25
3月25日(日)	中山誠二(当館学芸課長)	「かいじあむ講座 仏像体内に納められた鏡」	県立博物館	10
平成18年 6月14日(日)	高橋 修(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 展示関係古文書をよむ1(近世文書)」	県立博物館	70
7月 2日(日)	高橋 修(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 展示関係古文書をよむ1(近世文書)」	県立博物館	70
9月 3日(日)	小畑茂雄(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 展示関係古文書をよむ2(近現代文書)」	県立博物館	65
10月 1日(日)	小畑茂雄(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 展示関係古文書をよむ2(近現代文書)」	県立博物館	65
11月 5日(日)	西川広平(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 武田氏関係資料を読む1」	県立博物館	61
12月 3日(日)	西川広平(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 武田氏関係資料を読む1」	県立博物館	70
平成19年 2月 4日(日)	海老沼真治(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 武田氏関係資料を読む2」	県立博物館	80
3月 4日(日)	海老沼真治(当館学芸員)	「かいじあむ古文書講座 武田氏関係資料を読む2」	県立博物館	80

シンポジウム・共催セミナー

日 時	内 容	開催場所	参加者人
平成18年 4月23日(土)	山梨郷土研究会・山梨県立博物館主催、武田氏研究会共催 シンポジウム「よみがえる武田信玄の世界」 基調講演：峰岸純夫(東京都立大学名誉教授)「日本列島の中の武田家領国」 報 告：平山優(武田氏研究会)「信玄の家臣団」 秋山敬(山梨郷土研究会)「信玄の生涯」 西川広平(当館学芸員)「信玄の事跡」	県総合教育センター	150
12月 9日(土)	日本西アジア考古学会・山梨県立博物館共催セミナー「馬とワイン - その起源と広がりを探る - 」 小泉龍人(早稲田大学講師)「古代西アジアのワインづくり」 高宮いづみ(近畿大学助教授)「エジプトのワイン」 林俊雄(創価大学教授)「動物の家畜化の歴史の中で馬が占める位置」 川又正智(国士館大学教授)「初期騎兵の完成とひろがり」	県立博物館	100

講演会・講座・シンポジウム等参加者数合計

2,604

体験プログラム

日 時	内 容	開催場所	参加者人
平成18年 4月 2日(日)	民俗芸能実演「山梨県指定無形民俗文化財 山梨岡神社太々神楽 『四剣の舞(久米舞)』・『祝詞舞』」	県立博物館エントランス	350
平成18年 4月23日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	12

日 時	内 容	開催場所	参加者人
平成18年 5月28日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	17
7月 9日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	15
8月13日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	10
9月18日(月)	お庭の自然観察	県立博物館庭	30
10月 8日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	15
11月 3日(金)	お庭の自然観察	県立博物館庭	15
12月10日(日)	お庭の自然観察	県立博物館庭	10
平成19年 1月 3日(水)	お庭の自然観察	県立博物館庭	30
2月10日(土)	お庭の自然観察	県立博物館庭	10
3月10日(土)	お庭の自然観察	県立博物館庭	10
平成18年 5月 5日(金) ～ 5月 7日(日)	かいじあむ子ども工房 「折り紙かぶと」「かざぐるま」「万華鏡」づくり	県立博物館	85
6月25日(日)	かいじあむ工房 「浮世絵を摺ってみよう！」	県立博物館	40
7月 1日(土)・ 7月 2日(日)	かいじあむ子ども工房 「七夕飾りを作ろう！」	県立博物館	110
7月29日(土)	かいじあむ子ども工房 「昔のおもちゃ『竹でつくる水鉄砲』を作って遊ぼう！」	県立博物館	60
8月12日(土)・ 8月19日(土)	かいじあむ手しごと工房「真石画を作ろう！」(共催：やまなし伝統工芸館)	県立博物館	155
平成19年 1月 8日(日)	かいじあむ子ども工房 「昔のおもちゃで遊ぼう！」	県立博物館	100
1月20日(土)	かいじあむ工房 「失われた春景山水図を描こう」	県立博物館	10
平成18年 5月 3日(水)・ 5月 4日(木)	かいじあむ子ども信玄まつり	県立博物館ウッドデッキ	710
8月 6日(日) ～8月20日(日)	親子でわいわいクイズに挑戦「展示室に逃げ出した甲斐犬をさがして！」	県立博物館	2,499
9月10日(日)	かいじあむ ぶどう案内所(協力：峡東地域特選農産物ブランド化推進会議、山梨県峡東農務事務所)	県立博物館エントランス	300
9月24日(日)	かいじあむワインまつり(協力：山梨県ワイン酒造協同組合)	県立博物館エントランス	60
11月23日(木)	かいじあむ収穫祭	県立博物館庭	380
平成19年 1月 6日(土)	かいじあむ餅つき大会	県立博物館	120
3月24日(土)	かいじあむクイズ・ラリー「クイズを解きながら展示室のナゾを発見！」	県立博物館	60

体験プログラム参加者数合計

5,213

(2) 博学連携事業

平成18年度も昨年度から引き続き、県総合教育センターの研修や学校訪問等の機会をとおり、博物館利用を学校の教育課程の中に位置づけてもらうことを紹介してきた。

今後は学校利用の蓄積をとおり、より学校の教育活動に資することができるよう努めていきたい。

かいじあむティーチャーズクラブ

i 活動の目的

平成17年度まで『博物館活用研究会』として、指導主事、教育センター、各教育事務所より推薦のあった学校教員の中から博学連携の方策を検討する委員会を組織していた。

平成17年10月に開館して以来、多くの来館者を受け入れる態勢が整い、博学連携も今まで以上に幅広く呼びかける必要性がでてきた。そこで平成18年度より広く(公募で)学校教員を募集し、名称も新たに『かいじあむティーチャーズクラブ』として研究会の運営を行った。このクラブでは、教員の博物館を活用した授業実践を主とし、その蓄積を図り、学校現場でのこれからの活用の参考事例としての役割を果たすことを目的とする。

ii 会員数

校種	会員数(人)
小学校	38
中学校	18
高等学校、その他	28
総 計	84

iii 活動実績

- ・平成18年7月28日(金) 第1回研究会 実践研究の進め方の提案等
- ・同年 8月24日(木) 第2回研究会 実践研究の進め方の提案等
- ・平成19年2月15日(木) 第3回研究会 実践研究発表、意見交換等
- ・同年 3月27日(火) 『博物館活用事例集』刊行



授業の一環としての博物館利用
 授業の一環としての博物館利用一覧

来館日時	学校名	人数（人）		来館日時	学校名	人数（人）	
		児童・生徒	引率			児童・生徒	引率
平成18年4月18日（火）	須玉中学校	59	6	10月15日（木）	若草小学校	85	5
4月19日（水）	笛川中学校	54	5	10月15日（木）	大月東小学校	43	5
4月19日（水）	身延中学校	65	4	10月15日（木）	ふじざくら養護学校	26	19
4月21日（金）	勝沼中学校	90	5	10月16日（金）	秋田小学校	31	3
4月28日（金）	吉田高等学校	22	2	10月16日（金）	大藤小学校	40	4
5月19日（火）	高根中学校	101	7	10月16日（金）	吉田小学校	123	5
5月10日（水）	泉中学校	41	5	10月16日（金）	大嵐小学校	10	6
5月11日（木）	小菅中学校	14	4	10月16日（金）	笹子小学校	37	6
5月12日（金）	葺崎西中学校	105	6	10月16日（金）	沢松小学校	21	3
5月12日（金）	浅川中学校	155	10	10月16日（月）	常永小学校	59	4
5月12日（金）	甲府東高等学校	3	1	10月17日（火）	南湖小学校	50	4
5月13日（土）	都留第一中学校	107	7	10月17日（火）	境川小学校	54	3
5月17日（水）	忍野小学校	87	5	10月18日（水）	井尻小学校	46	4
5月17日（水）	山中小学校	39	3	10月19日（木）	増穂小学校	132	4
5月17日（水）	山中小学校	46	3	10月19日（木）	かえで養護学校	17	9
5月17日（水）	竜王北中学校	100	7	10月19日（木）	湯田高等学校	30	2
5月18日（木）	駿台甲府小学校	60	4	10月20日（金）	強瀬小学校	25	3
5月18日（木）	竜王中学校	85	4	10月24日（火）	豊小学校	61	3
5月19日（金）	牧丘第三小学校	23	6	10月24日（火）	竜王北小学校	70	4
5月19日（金）	櫛形中学校	9	0	10月24日（火）	勝沼小学校	20	2
5月20日（土）	都留第二中学校	167	10	10月25日（水）	白州中学校	40	4
5月23日（火）	島田中学校	25	4	10月25日（水）	日川高等学校	10	6
5月24日（水）	東桂中学校	85	7	10月26日（木）	田富北小学校	66	4
5月24日（水）	敷島中学校	13	0	10月26日（木）	石和東小学校	44	4
5月25日（木）	かえで養護学校	4	2	10月26日（木）	畑倉小学校	24	3
5月25日（木）	敷島中学校	160	10	10月27日（金）	三富小学校	28	4
5月26日（金）	春日居小学校	83	3	10月27日（金）	原小学校	18	1
5月26日（金）	小立小学校	82	5	10月27日（金）	静川小学校	8	1
5月31日（水）	玉穂中学校	91	9	10月27日（金）	西嶋小学校	7	3
6月11日（木）	富士見養護学校	15	10	10月31日（火）	白根源小学校	29	2
6月12日（金）	明見小学校	139	5	10月31日（火）	小淵沢小学校	56	4
6月12日（金）	久那土中学校	16	3	10月31日（火）	須玉小学校	69	3
6月12日（金）	丹波中学校	4	2	10月31日（火）	東雲小学校	48	3
6月16日（火）	白根百田小学校	55	3	10月31日（火）	大月西小学校	24	2
6月17日（水）	石和高等学校	111	6	10月31日（火）	甲陵中学校	40	2
6月18日（木）	かえで養護学校	10	5	11月11日（水）	西原中学校	14	7
6月16日（金）	身延北小学校	12	3	11月12日（木）	石和西小学校	56	3
6月16日（金）	富士豊小学校	20	4	11月12日（木）	大月第一中学校	26	4
6月16日（金）	石和高等学校	6	1	11月12日（木）	やまびこ養護学校	21	18
6月21日（水）	高根中学校	105	8	11月17日（火）	白根源小学校	26	2
6月21日（水）	石和高等学校	156	7	11月17日（火）	敷島小学校	54	3
6月22日（木）	鯨沢小学校	45	4	11月17日（火）	田富南小学校	49	2
6月22日（木）	山梨大学附属養護学校	16	10	11月17日（火）	上野小学校	20	2
6月28日（水）	石和高等学校	156	7	11月19日（木）	竜王西小学校	58	4
6月30日（金）	甲陽学園	1	1	11月19日（木）	三村小学校	61	3
7月16日（木）	万沢中学校	13	2	11月10日（金）	甘利小学校	143	6
7月17日（金）	吉田高等学校	24	3	11月10日（金）	葺崎北東小学校	116	7
7月12日（水）	塩山中学校	58	2	11月10日（金）	富河小学校	25	2
7月14日（金）	久那土中学校	23	3	11月15日（水）	山梨高等学校	186	7
9月20日（水）	落合小学校	24	1	11月17日（金）	双葉中学校	149	9
9月22日（金）	東小学校	23	3	11月17日（金）	猿橋中学校	79	6
9月22日（金）	吉田高等学校	22	2	11月22日（水）	田富南小学校	59	3
9月23日（土）	石和高等学校	20	10	11月22日（水）	中道南小学校	30	2
9月26日（火）	里垣小学校	61	4	11月22日（水）	上九一色小学校	7	1
9月27日（水）	玉諸小学校	74	4	11月22日（水）	芦川小学校	4	2
9月27日（水）	富士小学校	53	3	11月22日（水）	島田小学校	25	2
9月28日（木）	加納岩小学校	78	5	11月24日（金）	小泉小学校	16	3
9月28日（木）	大目小学校	18	3	11月24日（金）	牧丘第二小学校	13	2
9月29日（金）	羽黒小学校	86	6	11月24日（金）	市川南小学校	27	2
9月29日（金）	高根清里小学校	51	3	11月24日（金）	田富中学校	4	2
9月29日（金）	岩手小学校	20	3	11月24日（金）	押原中学校	153	9
9月29日（金）	大鶴小学校	16	2	11月30日（木）	鯨沢小学校	27	1
10月11日（水）	石田小学校	80	4	11月30日（木）	鯨沢中部小学校	7	1
10月11日（水）	東小学校	102	5	11月30日（木）	あけぼの養護学校	2	3
10月11日（水）	西桂小学校	54	3	12月16日（水）	ふじざくら養護学校	37	19
10月11日（水）	宮谷小学校	14	3	12月17日（木）	あけぼの養護学校	1	2
10月12日（木）	八田小学校	103	7	12月17日（木）	富士河口湖高等学校	122	8
10月12日（木）	道志小学校	36	3	12月18日（金）	高根東小学校	28	2
10月13日（金）	伊勢小学校	102	5	12月18日（金）	富士河口湖高等学校	158	9
10月13日（金）	国母小学校	84	6	12月14日（木）	一宮北小学校	16	3
10月13日（金）	日野春小学校	29	3	12月21日（木）	芦安小学校	5	2
10月13日（金）	石和北小学校	45	2	12月27日（水）	山梨高等学校	39	2
10月14日（水）	羽黒小学校	93	6	平成19年1月17日（水）	石和東小学校	49	3
10月14日（水）	新田小学校	43	4	2月11日（木）	押原小学校	57	4
10月14日（水）	旭小学校	25	3	2月15日（木）	葺崎小学校	65	3
10月14日（水）	西原小学校	5	2	2月15日（木）	猿橋小学校	61	3

来館日時	学校名	人数（人）		来館日時	学校名	人数（人）	
		児童・生徒	引率			児童・生徒	引率
2月16日（金）	身延東小学校	18	2	3月18日（木）	中道北小学校	14	2
2月20日（火）	増穂商業高等学校	117	8	3月18日（木）	武川小学校	37	2
2月22日（木）	明野小学校	46	2	3月18日（木）	奥野田小学校	3	2
2月22日（木）	ろう学校	1	1	3月18日（木）	早川南小学校	7	2
2月23日（金）	石和北小学校	42	3	3月19日（金）	落合小学校	35	4
2月23日（金）	一宮南小学校	28	2	3月19日（金）	石和北小学校	2	3
2月27日（火）	八代小学校	97	4	3月14日（水）	石和東小学校	5	3
3月11日（木）	一宮西小学校	63	3	3月14日（水）	塩山中学校	51	2
3月11日（木）	上和田小学校	9	7	3月17日（土）	玉幡中学校	9	0
3月12日（金）	朝日小学校	51	3	3月20日（火）	御坂西小学校	112	5
3月12日（金）	泉小学校	36	4	小計		8,731	727
3月17日（水）	落合小学校	24	2	総計		9,458	
3月17日（水）	甲西中学校	12	0				

出前授業

出前授業実施一覧

年月日	学校名	学年	内 容	担当者	受講人数（人）
平成18年10月 7日（土）	河口湖北中学校	1～3年・保護者	河口湖北中周辺の歴史と博物館の説明。	植原 彰 萩原孝一	14
11月 2日（木）	石和南小学校	6年	山梨県の歴史と県立博物館の見どころを紹介。	植原 彰	70
11月21日（火）	甲府東高等学校	2年	古文書を読む。（最古の離縁状）	高橋 修	42
平成19年 2月23日（金）	鯉沢小学校	6年	富士川舟運の歴史についての講義。	高橋 修 植原 彰	30
総 計					156

職場体験

職場体験実施一覧

年月日	学校名	学年	人数（人）
平成18年18月11日（火）・12日（水）	山梨高等学校	2	10
8月10日（木）・12日（土）	敷島中学校	2	3
11月15日（水）～17日（金）	御坂中学校	2	4
小計（中学校）			7
小計（高等学校）			10
総 計			17

大学教育との連携

i 学芸員実習

【期 間】 平成18年8月14日（月）から24日（木）まで（計10日間）

【受け入れ人数】12名（男6名、女6名）

【実習生所属大学】

- ・山梨県内：山梨大学（3名）、帝京大学（1名）
- ・山梨県外：一橋大学大学院（1名）、立正大学（2名）、東京学芸大学（1名）、筑波大学（1名）、北海道教育大学（1名）、川村学園女子大学（1名）、京都橘大学（1名）

【実習内容】

- ・県立博物館の概要と役割などについての概説と施設見学
- ・学芸員の行う調査研究・展示・資料保存などの各業務についての分野別講義および実習
- ・企画交流事業についての講義・実習
- ・日常的な学芸業務の実習（展示室の開閉、展示室・資料の点検）
- ・博物館職員との意見交換会

ii 大学非常勤講師の受託

担当職員	大学名	期間
植月 学	早稲田大学教育学部非常勤講師（博物館実習H）	平成18年4月10日～19年1月15日
植月 学	東京学芸大学非常勤講師（考古学と関連諸学）	平成18年10月16日～19年2月26日

刊行物

「かいじあむティーチャーズクラブ」会員が実践した県立博物館を活用した学習活動事例を報告書としてまとめ、県内の小中高特別支援学校全校に配布し、学校現場の利用促進を図った。

名 称	発刊日	体裁
『博物館活用事例集 山梨県立博物館を活用したティーチャーズクラブの先生による学習活動事例集』	平成19年3月27日	A4版、44頁

(3) ハブ博物館ネットワーク事業

平成18年度のハブ博物館ネットワーク会議では、博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト、県立博物館における参加各館の紹介方法、共同事業について検討した。

3月～4月には「花と博物館」、10月～11月には「紅葉と博物館」と題し、県立博物館の地域インデックスにおいて、参加各館と周辺の見どころを紹介する写真パネル展を開催した。また、各館を紹介するA4パネルも設置した。

ハブ博物館ネットワーク会議開催一覧

開催日時	名 称	開催場所	参加館数
平成18年5月10日(水)	第9回ハブ博物館ネットワーク会議	県立博物館	23
9月27日(水)	第10回ハブ博物館ネットワーク会議	県立博物館	24

博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト

開催日時	開催場所	参加者数 人	参加館数
平成18年7月16日(日)	県立男女共同参画推進センター	100	26
7月17日(月)	アイメッセ山梨	1,000	

博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト参加者数 1,100

(4) 広報

年4回の「かいじあむ通信 Kai(交い)」の発行や、常設展チラシ・ポスター・パンフレット、企画展・シンボル展のチラシ・ポスター、県政だより「ふれあい」、県教育委員会広報誌「教育やまなし」、県政テレビ放送、県政ラジオ放送等の各種媒体を用いて広報に努めてきた。

今後とも広報活動の充実に努め、県立博物館のPRを積極的に実施する。

各種だより、リーフレット類一覧

上述のとおり、広報には各種媒体を用いてきたが、多岐にわたるため、紙媒体で県立博物館が主体となって作成したものを中心に掲載する。

誌 名	発行期日
「かいじあむ通信 Kai(交い)」夏休み特別号	平成18年 6月
「かいじあむ通信 Kai(交い)」第3号	平成18年 8月
「かいじあむ通信 Kai(交い)」第4号	平成18年12月
「かいじあむ通信 Kai(交い)」第5号	平成19年 3月

第6章 施設の整備・管理

(1) 安全快適な施設づくり

県立博物館では、山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、完全かつ快適な施設・整備の管理に努めている。

防災訓練の実施

県立博物館では、防災訓練を年2回利用者の安全を守るため避難誘導や初期消火のため職員を対象とした訓練を実施している。

開催日時	内 容
平成18年9月7日(木)	火災を想定した避難誘導・消火訓練
平成19年3月6日(火)	火災発生時の避難誘導、初期消火及び消防設備の操作訓練

(2) 施設開放

県立博物館は開かれた博物館を目指し、施設の一部を一般に開放している。その利用状況は次のとおりである。

	生涯学習室		交 流 室	
	利用人数 (人)	利用金額 (円)	利用人数 (人)	利用金額 (円)
4 月	52	4,050		
5 月	66	1,660	22	880
6 月	681	28,880		
7 月	197	10,130	1	880
8 月	440	25,980		
9 月	185	6,865	2	550
10 月	225	11,820	2	550
11 月	522	24,180		
12 月	110	6,640		
1 月	240	12,920	1	330
2 月	180	8,640		
3 月	270	7,880		
計	3,168	149,645	28	3,190

なお、上記部屋については、学校利用の折りにも開放し、平成18年度実績は1,216人であった。よって、生涯学習室等利用者の総計は、4,412人である。

第7章 情報の発信と公開

(1) 資料閲覧室の利用状況

資料閲覧室は、博物館展示を通して利用者が持った歴史等に対する探求心や日常の学習意欲に応えるための資料・情報を提供するとともに、研究者、学芸員等の調査研究に必要な文献を的確に収集、整備し、その研究活動を支援する役割を担う。

利用時間

午前9時30分から午後5時まで（書庫内資料の請求、複写申込は午後4時30分まで）

入室は無料。

資料検索

資料閲覧室内の利用者端末（2台）により収蔵資料、図書・雑誌等の書誌情報の検索が可能となっている。フリーワード検索では、資料名、作者名、発行者名などの一部からも検索ができる。

ホームページの収蔵資料案内からも同様に検索が行える。

資料閲覧

- ・ 図書、雑誌は来館者が自由に閲覧できる。室内には各分野の辞典類や歴史に関する書籍、郷土研究についての資料、山梨県史や県内の市町村史誌類、逐次刊行物など約2,000冊が配架されている。書庫内の図書資料も職員に請求することにより、閲覧が可能である。
- ・ 歴史資料等のうち「甲州文庫」の画像データは資料閲覧室内の端末で閲覧できる。
- ・ 「甲州文庫」及び古文書のデジタル化資料、マイクロフィルムは即日閲覧可能で、コピーもできる。
- ・ 原資料については、「歴史資料等閲覧申請書」または「歴史資料等撮影申請書」により事前に申し込み、博物館職員の立会いのもと所定の日時・場所で閲覧、撮影を行う。

レファレンスサービス

質問や調査事項に応じて、参考資料や文献を紹介し、利用者の調査・研究活動の援助を行っている。専門的な質問については、必要に応じて学芸員が調査研究の成果に基づき回答している。

コピーサービス（有料）

著作権法に基づき、博物館所蔵の図書・雑誌等の活字資料、甲州文庫等のマイクロ化・デジタル化資料の複写サービスを行っている。

展示関連資料紹介

当館で開催する企画展、シンボル展への関心や理解を更に深めてもらうために、期間中資料閲覧室内に関連資料の紹介コーナーを設けた。

キッズライブラリー

山梨発見エリア内のキッズライブラリーには、小・中学生向けの歴史の調べ方や自然観察の本、幼児のための絵本などを揃えている。

ビデオライブラリー

山梨発見エリア内のビデオブース（3台）では、歴史、文化財に関するビデオ、DVDなどを視聴することができる。



展示関連資料紹介 「オオカミがいた山」
期間：平成19年2月6日（火）～3月18日（日）

平成18年度資料閲覧室利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累 計	
入 室 者	918人	902人	472人	524人	706人	454人	466人	727人	294人	544人	1,039人	911人	7,957人	
ビ デ オ 利 用	107件	97件	86件	85件	102件	94件	106件	86件	62件	79件	83件	87件	1,074件	
レファレンス	レファレンス	68件	39件	42件	47件	58件	40件	50件	62件	29件	43件	40件	559件	
	利 用 相 談	80件	40件	41件	31件	45件	41件	38件	51件	16件	29件	43件	41件	496件
	小 計	148件	79件	83件	78件	103件	81件	88件	113件	45件	72件	84件	81件	1,055件
複 写	件 数	46件	42件	35件	37件	46件	24件	36件	51件	40件	44件	31件	47件	479件
	電 子 式	422枚	157枚	234枚	400枚	589枚	143枚	621枚	450枚	251枚	875枚	537枚	1,355枚	6,034枚
	マイクロ、デジタル	863枚	763枚	383枚	1,193枚	2,430枚	2,277枚	1,919枚	1,515枚	1,124枚	864枚	52枚	253枚	13,636枚
	小 計	1,285枚	920枚	617枚	1,593枚	3,019枚	2,420枚	2,540枚	1,965枚	1,375枚	1,739枚	589枚	1,608枚	19,670枚

(2) 博物館総合情報システム

山梨県立博物館は、山梨の歴史や文化・産業など広範な分野にわたる膨大な資料情報を一元的に管理し、効率的な博物館運営を行うため、博物館総合情報システムを導入している。このシステムの活用によって広く館内外に情報発信を行い、県民の山梨の歴史に関する興味を喚起し、多くの人に親しまれる「開かれた博物館」が実現することを目的としている。

このシステムは、以下の4つのシステムから構成される。

活動支援システム

活動支援システムは、博物館の管理運営を支援するシステムである。チケット発券や来館者数管理のシステム化や自動化、団体・施設の予約管理等の支援を行う。また、これらの情報をグループウェアにより共有化し、効率的な運営の補助を行う。

データベースシステム

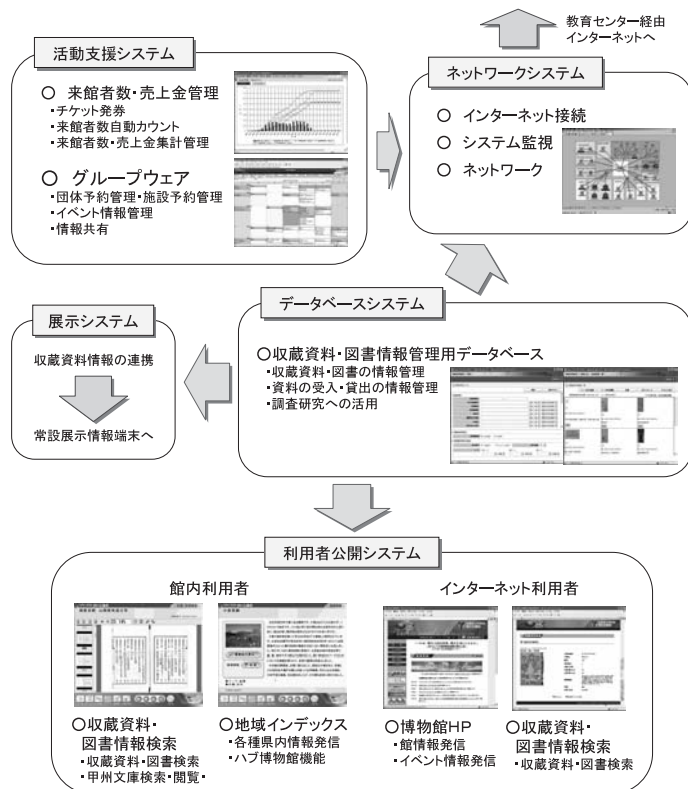
博物館資料の管理システムとして、収蔵資料、図書資料等に関する各種情報を一元的に管理するためのシステムである。資料の受入情報から収蔵情報、付随する資料のメディアファイル類も、一元的に管理が可能となる。そして、データベースから常設展示情報端末への資料情報連携を行う展示システムも含まれる。

利用者公開システム

データベースシステムで管理されている情報を、利用者の必要に応じて加工し、館内外で情報発信を行うシステムである。館内では、資料閲覧室における収蔵資料・図書情報検索や地域インデックスにおける各種県内情報等の発信がある。館外では、博物館ホームページにおける情報発信や、その中の収蔵資料・図書情報検索がある。

ネットワークシステム

情報処理室には各種サーバが設置され、そこを拠点に館内にはLANが張り巡らされている。そして、インターネットへは情報処理室から隣接する総合教育センターを経由して接続されている。館内におけるセキュリティは、山梨県情報セキュリティに準じている。



山梨県立博物館総合情報システム概要図

(3) 博物館ホームページ

平成17年10月1日(土)より現ホームページの公開を開始し、展示案内・イベント案内等を公開しているほか、随時ページの増設、更新を行っている。また本年度は、常設展の展示替え情報、企画展開催のための調査日誌や、「通信簿ツアー」の事業報告など、博物館の活動を紹介するページを設けた。

【ホームページの主な更新履歴】

平成18年 6月10日(土) かいじあむティーチャーズクラブのページを新設、会員にメールマガジンを発信し、ホームページにも随時公開。

10月12日(木) ミュージアムショップのページを充実化し、博物館の図録等の情報を新たに公開。

10月25日(水) 「キッズミュージアム(子どもたちのためのページ)」をリニューアル。

11月 1日(水) シンボル展「オオカミがいた山」の調査日誌を掲載。

11月 8日(水) 「先生のためのページ」をリニューアル。

平成19年 2月21日(水) 「風林火山」特設ページを新設。

3月14日(水) 「常設展示」ページをリニューアル。

「収蔵資料案内」ページの更新：収蔵資料・図書の検索を行うことができるページを、随時更新している。

検索可能件数(平成19年3月現在) ・収蔵資料 59,928件

・図書類 18,523件

PC向けURL : <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

携帯電話向けURL : <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/mb>



アクセス件数(アクセスカウンタによる数値)

年 月	件数/月	1日平均	昨年度件数
平成18年 4月	6,720	224	
5月	6,670	215	
6月	5,360	179	
7月	5,152	166	
8月	5,688	183	
9月	4,906	163	
10月	6,161	199	4,800
11月	6,149	205	5,780
12月	3,974	127	3,364
平成19年 1月	5,891	190	4,747
2月	6,088	217	4,509
3月	7,643	247	5,370
合 計	70,402	193	28,570

第 8 章 県民参画

(1) NPOとの連携

平成18年度に実施したNPOとの連携事業の一覧は次のとおりである。

そのうち特に工夫した点として、平成18年10月28日(土)に実施した交流拠点形成事業については、初めて貸切バスを用いて、利用者を遠隔地に誘導することを試みた。

また、収蔵品ゆかりの地ツアーについては、平成19年から放映されるNHK大河ドラマ「風林火山」にあわせ、武田氏関係の歴史に対する県民の理解を深めるために、「風林火山」をテーマとしたコース設定を行った。

わいわいミュージアムについては、平成18年10月15日(日)に実施した「通信簿ツアー」の結果に基づき(第 編第2章 5頁参照) 様々な改善点を利用者とともに案出し、その実現に努めた。例えば平成19年2月11日(日)実施会の折には、利用者により展示に親しんでいただけるよう、クイズスタンド設置、クイズカード・展示ガイドブックの配布などを行った。

県立博物館交流拠点形成事業

実施日	事業名	開催場所	参加者数(人)
平成18年6月24日(土)	青空温泉から健康療養 石和温泉ストーリー	笛吹市石和町	40
9月30日(土)	秋の河口湖で、歴史と文学にふれる旅	富士河口湖町	40
10月28日(土)	紅葉の秘湯・奈良田温泉郷で七不思議の謎を追い、奈良田方言でむかし話を聞くバスツアー	早川町	45
参加者数合計			125

わいわいミュージアム

実施日	事業名	開催場所	参加者数(人)
平成18年 8月 5日(土)	親子でわいわいクイズに挑戦「展示室に逃げ出した甲斐犬をさがして！」	県立博物館	40
10月15日(日)	山梨県立博物館の「通信簿ツアー」	県立博物館	85
11月20日(月)	「山梨県立博物館の通信簿」をもとにした、館内改善ワークショップ	県立博物館	20
平成19年 2月11日(月)	消えたニホンオオカミを探して!	県立博物館	200
参加者数合計			345

収蔵品ゆかりの地ツアー

実施日	事業名	開催場所	参加者数(人)
平成18年 5月27日(土)	風林火山を歩く 信玄が生まれた積翠寺を見て要害山に上り、信虎の築いた要害城跡から富士山を眺める	甲府市	35
7月30日(日)	風林火山を歩く 山本勘助屋敷跡と、信玄の家臣ゆかりの墓を訪ねる	北杜市高根町	130
11月12日(日)	風林火山を歩く 徳島堰や将棋頭、堀切を見て、能蔵池の伝説にふれる	南アルプス市(旧八田)	30
参加者数合計			195

委託先のNPOについては、平成18年5月11日(木)に県民参画事業実施先NPO審査会を開催し、その結果、各事業ともNPO法人「つなぐ」に委託することとなった。



平成19年2月11日(日)実施のわいわいミュージアムの様子。NPO法人「つなぐ」と博物館協力会(ボランティア)が協働してイベントを実施した

(2) 博物館協力会（ボランティア）との連携

当館におけるボランティア活動は、原則として山梨県立博物館協力員によるものである。前年度に引き続いて70名ほどの協力員が館の主催する様々な活動を支援してきたほか、県内研修を行うなど、独自の取り組みも始められた。

また、新たなボランティア参加希望者を対象とした「ボランティア養成講座」を実施した他、館内の展示についての講習や、ボランティアのあり方について講演を行ったりするなど、博物館におけるボランティア活動について理解を深めていただき、協力員活動のさらなる活性化に努めた。

県立博物館協力員の主たる活動は次のとおりである。

- ・来館者の鑑賞・学習のための助言及び相談
- ・来館者の誘導・案内、及び体験型展示の利用の補助
- ・館蔵の図書、資料、写真などの整理
- ・ミュージアムショップの運営
- ・館が行うイベントなどの補助や島など野外施設の管理

平成18年度の協力会の活動

平成18年4月21日（金） 運営委員会

5月3・4日（水・木） イベント「かいじあむこども信玄公まつり」の補助

5月13日（土） 総会の開催（平成17年度事業・決算報告、18年度事業計画・予算の決定）

7月16・17日（日・月） 夏休み自由研究プロジェクトの補助

10月13日（金） 開館一周年記念特別展オープニングの補助

11月23日（木） イベント「かいじあむ収穫祭」の補助

12月 5日（火） 県外研修（国立歴史民俗博物館）

平成19年1月 6日（土） イベント「かいじあむ餅つき大会」の補助

2月24日（土） ボランティア養成講座の開催(25日、3月3日・10日)

3月16日（金） 県外研修（川中島古戦場跡をたずねる）

この他、「かいじあむこども工房」と題して行った工作などの体験プログラムの補助に入っていた。また、企画展示研修、事業研修などを随時行った。

常時実施したのは次の活動である。

- ・ショップ運営...ミュージアムショップ当番
- ・資料整理補助...「上野家資料」25点、「小宮山家資料」178点の整理については、資料専用封筒詰め、ナンバリング、目録のパソコン入力を、また「甲州文庫」「若尾資料」については資料専用封筒詰めといった作業で協力を得た。



平成18年11月23日（木）実施のかいじあむ収穫祭の様子。県立博物館の島でとれた「八幡いも」の試食会。30分で完食御礼の人気であった。

第9章 組織・人員

(1) 職員の資質向上

県立博物館ではより良いミュージアムサービスの提供を目指して、職員各自の資質向上に資する環境整備に努めている。各職員が受講した研修は次のとおりである。

職員参加研修一覧

氏名	研修名	主催	場所	期間	研修内容
近藤暁子	第5回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー	文化庁文化財部	東京国立博物館	平成18年7月3日(月)~7月7日(金) (2カ年のうち)	指定文化財の公開活用を促進するため、文化財の公開に関わる学芸員の様々な専門的知識と技能の資質向上を図る。

展示交流員研修一覧

展示交流員は、利用者と博物館の橋渡しの役割を担い、日々、総合受付・館内案内・監視などの業務を担当している。こうした展示交流員については、サービス向上や利用者の満足度の確保のため、適宜種々の研修を進めている。

日時	内容
平成18年6月27日(火)	群馬県立自然史博物館のスタッフをお迎えしての情報交換を主とした研修
7月11日(火)	クーポン利用など、サービス向上のための受付業務を中心とした研修
9月5日(火) ~9月7日(木)	中銀金融資料館を始め、県立科学館・県立考古博物館・釈迦堂遺跡博物館など、他館の展示状況や受付・案内の様子を視察し、日常のサービスの振り返りをし、改善に役立てること 甲府城跡・武田氏館跡・善光寺・大善寺など、当館の常設展示資料にゆかりの寺院や史跡を訪ね、情報を収集して利用者へのサービスの幅を広げること 自衛消防訓練ならびにAED操作を主とした救急救命法講習を行い、安全・安心の確保に努めることなど幅広い研修を実施

(2) 第三者委員会

県立博物館では第三者からなる外部委員会を設けて、それぞれ客観的立場から博物館の運営等について議論・検討をいただいている。

第三者委員会での検討結果に基づいた運営を実施することにより、県内外の利用者から高く評価され、県民により親しまれる博物館の実現を絶えず目指していく。

山梨県立博物館運営委員会

i 運営委員会委員名簿

氏名	勤務先・役職等
小澤 龍一	前(財)やまなし文化学習協会生涯学習センター所長 みんつく委員長
数野 強	ことぶき勸学院学院長
清雲 俊元	山梨郷土研究会理事長 資料・情報委員会委員長
五味 文彦	放送大学教授
萩原 三雄	(財)帝京大学 山梨文化財研究所所長
田中 収	元大月短期大学教授

ii 運営委員会の検討状況

第3回運営委員会

日時：平成18年5月20日(土)

検討内容：

- ・ 諸会議および事業の報告
- ・ 平成19年度以降の企画展・シンボル展示について

第 4 回運営委員会

日 時：平成18年8月9日（水）

検討内容：

- ・ 諸会議および事業等の報告
- ・ 平成19年度の事業について

第 5 回運営委員会

日 時：平成18年11月9日（木）

検討内容：

- ・ 博物館利用状況報告
- ・ みんなでつくる博物館協議会について
- ・ 資料情報委員会について
- ・ 平成19年度の展示計画について



平成18年11月9日（木）実施の第5回運営委員会の様子

第 6 回運営委員会

日 時：平成19年2月28日（水）

検討内容：

- ・ 諸会議および事業の報告
- ・ 来年度以降の事業について
- ・ 博物館協議会の開催報告

山梨県立博物館資料・情報委員会

第 編第3章（1） 22頁で詳述。

みんなでつくる博物館協議会

第 編第1章 1頁で詳述。



平成18年9月20日（水）実施の第2回資料・情報委員会の様子



平成19年3月23日（金）実施の平成18年度第2回みんなつくる全体会の様子

第10章 外部支援

県立博物館では、継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部資金助成や広報等の協力をあおぐなどの外部支援体制の導入を行っている。

平成18年度は、シンボル展「ぶどうと葡萄酒 国登録有形民俗文化財 勝沼のぶどう栽培および葡萄酒醸造用具」の関連イベント実施にあたり、地元関連団体の協力をあおいだ。

今後も様々な分野において連携を深め、外部支援の導入に努めることとする。

かいじあむぶどう案内所

- ・協力団体名：山梨県特選農産物ブランド化推進会議、山梨県峡東農務事務所
- ・開催日：平成18年9月10日（日）
- ・会場：県立博物館メインエントランス横（屋外）
- ・内容：上記会場においてぶどうの試食・販売と山梨県特選農産物制度の紹介を行った。当日は300人の利用者を得た。

かいじあむワインまつり

- ・協力団体名：山梨県ワイン酒造協同組合（出店：ダイヤモンド酒造、蒼龍葡萄酒）
- ・開催日：平成18年9月24日（日）
- ・会場：県立博物館メインエントランス横（屋外）
- ・内容：上記会場においてワインの試飲・販売会を行った。当日は60名の利用者を得た。



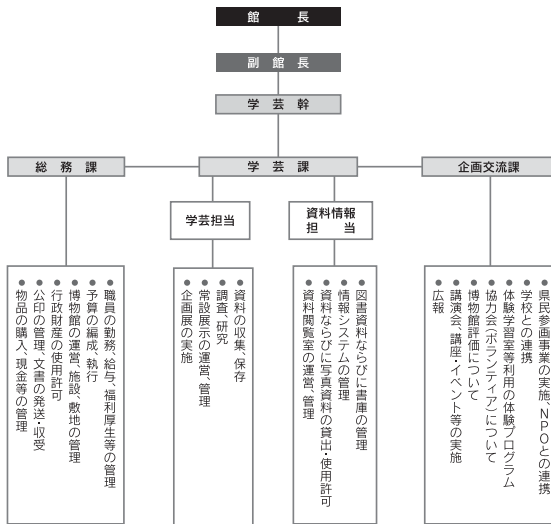
かいじあむぶどう案内所当日の様子



第 編 各種資料

1 組織・職員等名簿

組織図



関係委員会

運営委員会

- 博物館運営全般の専門的指導
- 企画展テーマ等に関する協議
- 共同調査、研究テーマ等に関する協議

資料・情報委員会

- 収集資料の適否の審議
- 資料・情報の収集方針の検討
- 資料・情報の活用計画検討

みんなで作る博物館協議会

- 利用者の立場からの博物館運営の検討
- 博物館評価制度の検討

関係委員及び職員名簿

- 山梨県立博物館運営委員会委員
第 編第9章(2) 56頁参照
- 山梨県立博物館資料・情報委員会委員
第 編第3章(1) 22頁参照
- みんなで作る博物館協議会委員
第 編第1章(1) 1頁参照

博物館職員

館長	平川 南
副館長	廣瀬 正文
学芸幹(兼)	小野 正文
総務課	
課長	長 菫原 敬
主任	長 関 尚史
主任業務員	主 稲田 正徳
非常勤嘱託	主 白倉 政富
非常勤嘱託	主 小泉 節子
非常勤嘱託	主 高屋 恵里子
非常勤嘱託	主 名取 美穂
非常勤嘱託	主 野田 恵
非常勤嘱託	主 名取 梓
非常勤嘱託	主 黒羽 るり子
非常勤嘱託	主 宮澤 真央
非常勤嘱託	主 近藤 博文
非常勤嘱託	主 岡田 昌也
非常勤嘱託	主 網倉 春美
非常勤嘱託	主 伊藤 茜
非常勤嘱託	主 小林 弘
非常勤嘱託	主 白倉 喜夫
非常勤嘱託	主 成島 由季子
非常勤嘱託	主 飯沼 美奈子
非常勤嘱託	主 小幡 理美
非常勤嘱託	主 山本 史
学芸課	
課長	中山 誠二 考古
学芸担当	
学芸員	井澤 英理子 美術
学芸員	西川 広平 歴史
学芸員	近藤 暁子 美術
学芸員	小畑 茂雄 歴史
学芸員	丸尾 依子 民俗
資料情報担当	
主査	三澤 麻須美
学芸員	沓名 貴彦 保存科学
学芸員	海老沼 真治 歴史
非常勤嘱託	小澤 史葉
非常勤嘱託	早川 聖子
企画交流課	
課長	出月 洋文
教育主事	植原 彰
教育主事	萩原 孝一
学芸員	高橋 修 歴史
学芸員	植月 学 古環境
非常勤嘱託	村松

2 平成18年度改正分の関連法規

山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、山梨県立博物館設置及び管理条例（平成17年山梨県条例第8号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間等)

第2条 山梨県立博物館（以下「博物館」という。）の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、展示室への入室時間は、午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、生涯学習室及び交流室の利用時間は、午前9時30分から午後9時までとする。

3 博物館の館長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、前二項に規定する開館時間等を変更することができる。

(観覧の承認)

第3条 条例第6条第1項の規定による承認は、観覧券（第1号様式）、定期観覧券（第1号様式の2）、常設展・企画展共通観覧券（第1号様式の3）又は前売り観覧券（第1号様式の4）の交付があったときに行われたものとする。

(観覧料の納入)

第4条 観覧料の納入は、観覧券の交付の際現金をもって行うものとする。

(歴史資料等の閲覧等の承認)

第5条 条例第七条第一項の規定による歴史資料等の閲覧の承認を受けようとする者は、歴史資料等閲覧申請書（第2号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、歴史資料等の閲覧を承認したときは、当該閲覧に係る申請をした者に対し、歴史資料等閲覧決定通知書（第3号様式）を交付するものとする。

3 条例第7条第2項の規定による歴史資料等の撮影の承認を受けようとする者は、歴史資料等撮影申請書（第4号様式）を館長に提出しなければならない。

4 館長は、歴史資料等の撮影を承認したときは、当該撮影に係る申請をした者に対し、歴史資料等撮影決定通知書（第5号様式）を交付するものとする。

(生涯学習室等の使用の承認)

第6条 条例第8条第1項の規定による生涯学習室又は交流室の使用の承認を受けようとする者は、県立博物館施設等使用申請書（第6号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、生涯学習室又は交流室の使用の承認又は承認の拒否の決定をしたときは、当該使用に係る申請をした者に対し、県立博物館施設等使用決定通知書（第7号様式）を交付して当該決定の内容を通知するものとする。

(利用又は使用の内容の変更等)

第7条 条例第7条第1項若しくは第2項又は第8条第1項の規定により承認を受けた者が当該承認に係る内容を変更し、又は承認に係る行為を中止しようとするときは、承認内容変更等申請書（第8号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定による申請に係る承認内容の変更等を承認したときは、第5条第2項若しくは第4項又は前条第2項の例により当該変更等に係る申請をした者に対し、当該承認の内容を通知するものとする。

(利用料及び使用料の納入)

第8条 条例第7条第3項又は第8条第2項の規定による利用料又は使用料は、前納しなければならない。ただし、官公署にあっては、撮影又は使用の後に納入させることができる。

(観覧料等の還付)

第9条 条例第九条ただし書の特別の理由は次の各号に掲げる場合に該当することとし、還付する額は当該各号に定めるとおりとする。

一 観覧、撮影又は使用の承認を受けた者の責に帰することのできない理由により観覧、撮影又は使用をすることができなくなったとき。 観覧料、利用料又は使用料の全額

二 撮影又は使用をしようとする日の3日前までに撮影又は使用の中止に係る承認内容変更等申請書を提出したとき。 利用料又は使用料の2分の1に相当する額

2 条例第九条ただし書の規定による観覧料、利用料又は使用料の還付を受けようとする者は、観覧料等還付申請書（第9号様式）を館長に提出しなければならない。

(観覧料等の免除)

第10条 条例第十条の特別の理由は次の各号のいずれかに掲げる場合に該当することとし、免除の額は当該各号に定めるとおりとする。

一 土曜日において、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特殊教育諸学校の児童又は生徒が観覧する

- とき。 条例別表第一に定める観覧料の全額
- 二 県内の小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の児童又は生徒及びこれらの引率者が、教育課程に基づく教育活動として観覧するとき（常設の展示に限る。）。 条例別表第一に定める観覧料の全額
- 三 65歳以上の者が観覧するとき（県内に住所を有しない者にあつては、常設の展示に限る。）。 条例別表第1に定める観覧料の全額
- 四 障害者基本法（昭和45年法律第84号）第2条に規定する障害者及びその介護を行う者が観覧するとき。 条例別表第1に定める観覧料の全額
- 五 同一の日において、常設の展示及び特別の企画による展示を観覧しようとする者（団体により観覧する者を除く。）が、常設展・企画展共通観覧券の交付を受けて観覧するとき。 条例別表第1第1号に定める個人の観覧料と団体の観覧料との差額及び同表第2号においてそれぞれの展示ごとに知事が定める個人の観覧料と団体の観覧料との差額
- 六 特別の企画による展示を観覧しようとする者（団体により観覧する者を除く。）が、当該展示に係る開催期間の初日の前日までに前売り観覧券の交付を受けて観覧するとき。 条例別表第1第2号においてそれぞれの展示ごとに知事が定める個人の観覧料と団体の観覧料との差額
- 七 山梨県内に所在する宿泊施設に宿泊する者（団体により観覧する者を除く。）が当該宿泊施設に宿泊した日又はその翌日に観覧するとき。 条例別表第一第一号に定める個人と団体の観覧料との差額又は同表第二号においてそれぞれの展示ごとに知事が定める個人の観覧料と団体の観覧料との差額
- 八 前各号に掲げるもののほか、館長が特に必要と認めるとき。 観覧料等のうち館長が相当と認める額
- 2 前項第2号又は第8号に該当する場合において、条例第十条の規定による観覧料等の免除を受けようとする者は、観覧の承認の申請の際、観覧料等免除申請書（第10号様式）を館長に提出しなければならない。
- 3 館長は、観覧料等の免除の決定をしたときは、当該免除に係る申請をした者に対し、観覧料等免除決定通知書（第11号様式）を交付するものとする。
- 4 第1項第1号、第3号、第4号又は第7号に該当する場合において、条例第十条の規定による観覧料等の免除を受けようとする者は、第1項第1号、第3号、第4号又は第7号に該当することを証する書類を館長に提示しなければならない。
- 5 第三項の規定にかかわらず、前項の規定により提示された書類により観覧料等の免除に係る事実を確認したときは、免除後の観覧料の額を記載した観覧券をもって第3項の観覧料等免除決定通知書に代えるものとする。
- （館長への委任）
- 第11条 教育委員会は、館長に次の事項を委任する。
- 一 条例第6条第一項の規定による観覧の承認に関すること。
 - 二 条例第7条第一項の規定による閲覧の承認に関すること。
 - 三 条例第7条第二項の規定による撮影の承認に関すること。
 - 四 条例第8条第一項の規定による生涯学習室及び交流室の使用の承認に関すること。
 - 五 条例第9条ただし書の規定による観覧料等の還付に関すること。
 - 六 条例第10条の規定による観覧料等の免除に関すること。
 - 七 条例第11条の規定による利用の制限に関すること。
- （補 則）
- 第12条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会の承認を得て館長が定める。
- 附 則
- （施行期日）
- 1 この規則は、平成17年10月15日から施行する。
- （経過措置）
- 2 条例（条例附則ただし書に係る部分に限る。）の施行後に歴史資料等を観覧し、閲覧し、若しくは撮影し、又は博物館の生涯学習室等を使用しようとする者は、この規則の施行前において、この規則の例により観覧、閲覧若しくは撮影又は使用に係る承認の申請及びこれらの行為に係る観覧料等の免除の申請をすることができる。
- 3 館長は、前項の規定により申請があったときは、この規則の施行前において、この規則の例により承認、承認の拒否その他の決定をし、当該決定の内容を通知するものとする。
- 附 則（平成18年教委規則第10号）
- この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則（平成18年教委規則第22号）
- この規則は、交付の日から施行する。

3 平成18年度予算額

事業名	予算額(千円)	事業内容
博物館事業費	63,531	企画展運営、調査・研究事業、運営委員会・みんつく運営経費
歴史資料等収集費	23,400	歴史資料等の収集・保存・管理・修復、図書資料の整備
博物館運営費	253,247	施設管理、常設展示機器管理、非常勤職員人件費
合計	340,178	

職員給与費を除く

4 年間日誌

- 平成18年 7月 8日(土) 入館者10万人達成
- 平成18年10月15日(日) 開館1周年
- 平成18年10月19日(木) 定期観覧券発売開始・宿泊者割引制度開始



平成18年7月8日(土) 入館者10万人達成。館長から記念品を渡される御家族連れの皆さん



平成18年10月15日(日) 開館1周年当日に実施された「通信簿ツアー」の様子。利用者の皆さんに県立博物館の「通信簿」を付けていただいた。

平成18年度 山梨県立博物館年報

発行日 2008(平成20)年3月31日
 編集・発行 山梨県立博物館
 〒406-0801
 笛吹市御坂町成田1501-1
 TEL 055(261)2631
 印刷 株式会社 少国民社
